北栄町地域福祉推進計画

「北栄町地域福祉推進に係るアンケート」結果報告書

令和２年３月

北栄町

目　次

１　調査の概要
（１）調査の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
（２）調査の方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
（３）回収結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
（４）調査結果の表示方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

２　アンケート結果のまとめ
（１）住民による身近な支え合いづくりの推進・・・・・・・・・・・・・・・・・３
（２）地域福祉活動に関する情報提供や参加年齢層の拡大（担い手の育成）・・・３
（３）地域の課題に関する取組みの推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
（４）まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

３　調査対象者について
問１　性別・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
問２　年代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
問３　居住地区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
問４　同居している世代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
問５　住まいの住居形態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
問６　職業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７

４　地域での生活について
問７　近所づきあいの程度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
問８　参加している活動の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
問９　行事や活動の参加の程度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
問 10　行事や活動へ参加をしていない理由 ・・・・・・・・・・・・・・・・・16
問 11　地域社会の役割に期待する内容 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
問 12　住民同士が協力しあえるために必要だと思うこと ・・・・・・・・・・・21

５　地域福祉（住民による身近な支え合い）について
問 13　困った時や生活の問題を解決したい時の相談先 ・・・・・・・・・・・・24
問 14　近所に困っている人がいる場合の手助けの状況や手助けの意向 ・・・・・28
問 15　地域福祉を充実するための行政や地域住民の関係性についての考え ・・・39
問 16　地域福祉活動への参加意向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42

問 17　地域福祉活動に参加したくない理由 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
問 18　地域福祉活動に参加する場合の活動範囲 ・・・・・・・・・・・・・・・・・46
問 19　地域福祉をすすめるために、町民が取り組むべきこと ・・・・・・・・・・48
問 20　今後、取り組むべき地域福祉の課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50

６　社会福祉協議会、民生児童委員について

問 21　北栄町社会福祉協議会の認知度 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
問 22　北栄町社会福祉協議会の活動の中で充実してほしいこと ・・・・・・・・・55
問 23　地域を担当している民生児童委員の認知度 ・・・・・・・・・・・・・・・58
問 24　民生児童委員への相談経験の有無 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60
問 25　地域福祉推進において、北栄町で特に必要と思う取組み ・・・・・・・・・62
問 26　地域福祉に対する提案・意見 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・65

１　調査の概要

（１）調査の目的

本アンケート調査は、令和２年度から令和６年度までの北栄町地域福祉推進計画（第１期北栄町地域福祉計画・第２期北栄町地域福祉活動計画）の策定にあたり、地域での生活や福祉への意識、地域福祉活動等について町民の意識や考え等を調査し、基礎資料を得ることを目的にしています。

（２）調査の方法

①調査実施時期　　平成３０年１１月２６日～平成３１年１月４日

②調査対象者

北栄町に居住する１８歳以上の町民１，０００人を住民基本台帳より無作為抽出

③調査方法　　郵送による配布・回収

（３）回収結果

・回収数：４２９

・回収率：４２．９％

【性別】

	送付数	回収数	回収率
男性	510	200	39.2%
女性	490	226	46.1%
計	1,000	426	42.6%

【地区別】

	送付数	回収数	回収率
北条地区	499	207	41.5%
大栄地区	501	215	42.9%
計	1,000	422	42.2%

【年齢別】

	送付数	回収数	回収率
10 歳代	17	3	17.6%
20 歳代	78	24	30.8%
30 歳代	146	41	28.1%
40 歳代	186	75	40.3%
50 歳代	142	62	43.7%
60 歳代	225	116	51.6%
70 歳代	170	92	54.1%
80 歳代以上	36	14	38.9%
計	1,000	427	42.7%

（４）調査結果の表示方法

回答は各質問の回答数（Ｎ）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。

集計は、無回答を排除しているため、全体集計の回答数とクロス集計の回答数の合計が一致しないことがあります。

なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

２　アンケート結果のまとめ

（１）住民による身近な支え合いづくりの推進

「お互いに相談や助け合ったりしている」と回答した方は２割程度の回答で多くはありませんでしたが、自治会等の活動に対し、「緊急事態が起きたときの対応」や「防災、防犯など日頃の協力」、「子どもや高齢者の支援などの住民間の助け合い活動」といった「安心・安全」や「助け合い」を期待する意識が高く、８割弱の方が具体的な助け合い活動を求めている結果となりました。

また、近隣に困っている人がいる場合の助け合いに関する設問では、「通院の送迎や外出の支援」、「悩み事、心配ごとの相談」について、「手助けして欲しい」と回答した方の割合が高い結果でした。さらに、「安否確認、話し相手」「ちょっとした電球の取り替えや買い物、ゴミだし」、「子どもの一時預かりや保育園等の送迎」、「通院の送迎や外出の支援」、「悩み事、心配ごとの相談」のすべての項目において、「手助けできる」と回答した方は６割から８割の割合であり、何らかの活動の条件や機会を得ることができれば、支え合いの「担い手」として活躍していただける可能性があります。具体的には、住民同士の普段からの頼みやすい関係づくり、マッチングのしくみなどを検討していくことが必要です。

（２）地域福祉活動に関する情報提供や参加年齢層の拡大（担い手の育成）

地域福祉活動へ参加したくないと考える理由として、「時間がない」と回答した方が最も多くありましたが、「興味関心がない」「関心はあるが参加の仕方が分からない」と回答した方も一定程度あり、地域福祉活動へ関心のある人を増やす取組みや、参加の促し、活動の場等の情報提供が必要であることが分かりました。

年代別にみると、７０代になると「健康上の理由」により、活動が制限されていることが分かりました。生活習慣病予防や介護予防などの他計画での取組みとあわせ、できる限り多くの方が健康で生きがいをもった生活が続けられるよう取組みをすすめていく必要があります。

また、地域福祉活動への参加意識は、年齢があがるにつれて割合が高くなりますが、５０代の参加意識が低く、実際の自治会・地域行事などへの参加割合も低いことが分かりました。「忙しい」ことが主な理由ですが、中には「声がかからない」「知り合いが少ない」といった理由もあり、４０代、５０代の参加をいかに広げていくかが大きな課題です。

（３）地域の課題に対する取組みの推進

地域福祉活動の参加範囲については、「隣近所」、「自治会内」と回答した方があわせて８割の結果となりました。困ったときや生活の問題、災害時など、自治会の範囲

での身近な地域で支え合えるしくみづくりを進めていく必要があります。また、これを進めていくためには、自治会の単位を基本としながらも、地域で起こっている福祉的な課題を自分たちのこととして受け止め、地域での助け合いにつなげていくとともに、行政等も協力をしながら、解決に向けていくことが必要です。

また、本町において必要と思われる取組みに関する設問において、「誰もが気軽に立ち寄れる居場所の整備」については、住民と社会福祉協議会、行政が互いに協力して進めていき、「様々な課題を抱える人への総合的な相談支援」や「誰もがともに利用できるサービス提供」については、行政が主体となって社会福祉協議会や関係機関等と連携して進めていく必要があります。

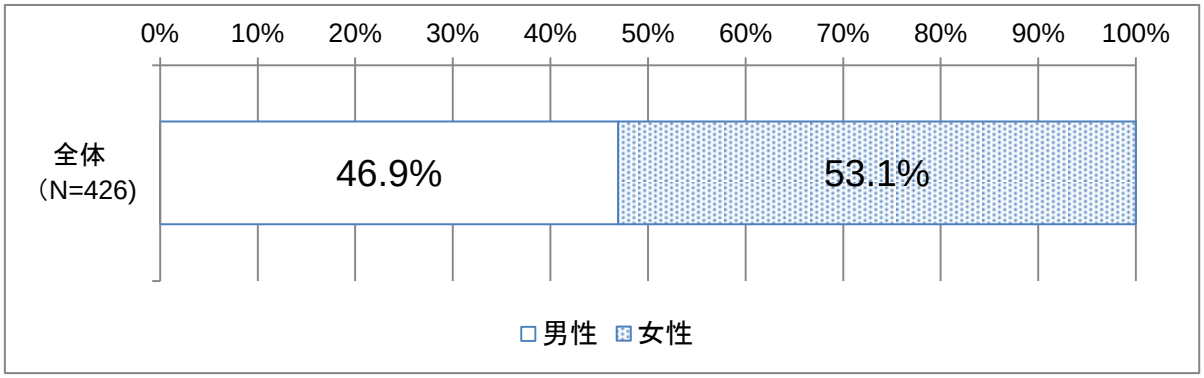
（４）まとめ

地域の福祉を推進するためには、近隣や自治会の範囲を基本として、支え合い、助け合える関係を進めていくことが必要ですが、北栄町においては、活動の中心は６０代、７０代となっています。今後は、広い年代層の方が地域での活動へ関心をもち、参加していけるよう取組みを進めていくことが必要です。また、あわせて、手助けを必要とする方へ十分に手助けの活動が届いていないため、実際に活動できる人を増やしたり、生活支援のしくみづくり等を検討していくことが必要です。

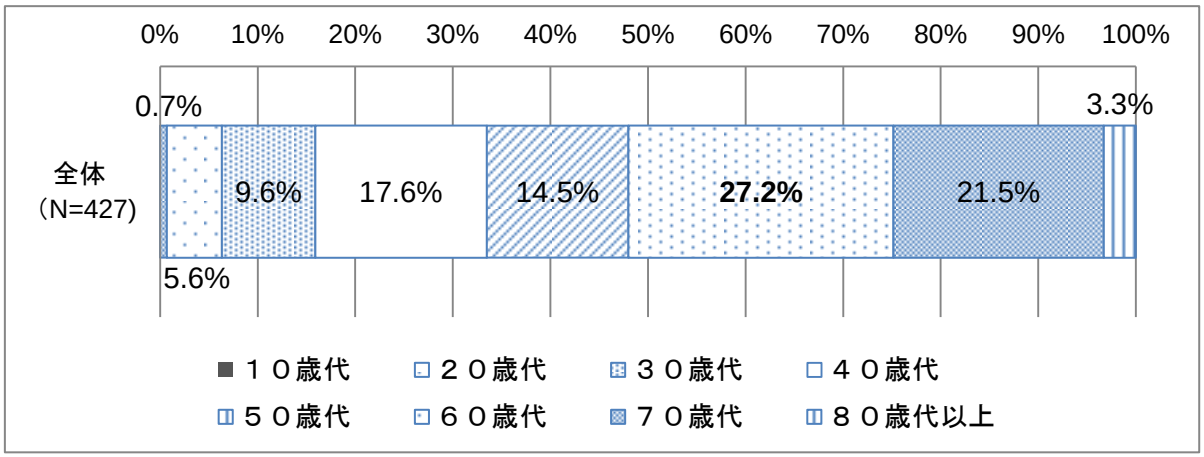
地域の福祉課題を我が事としてとらえ、地域住民と行政、社会福祉協議会が、互いに協力、役割分担しながら、みんなで支え合えるまちづくりに向けて、一緒になって取り組んでいく必要があります。

３　調査対象者について

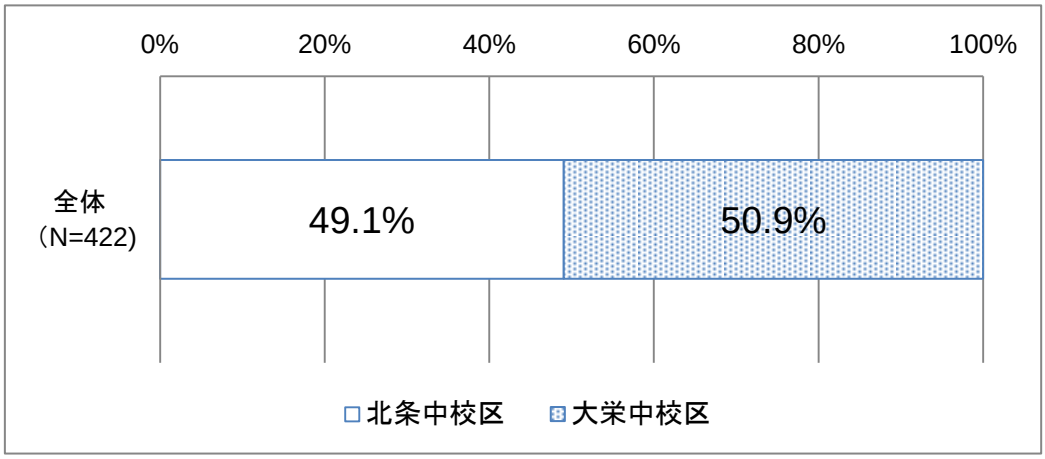
問１　あなたの性別を教えてください。



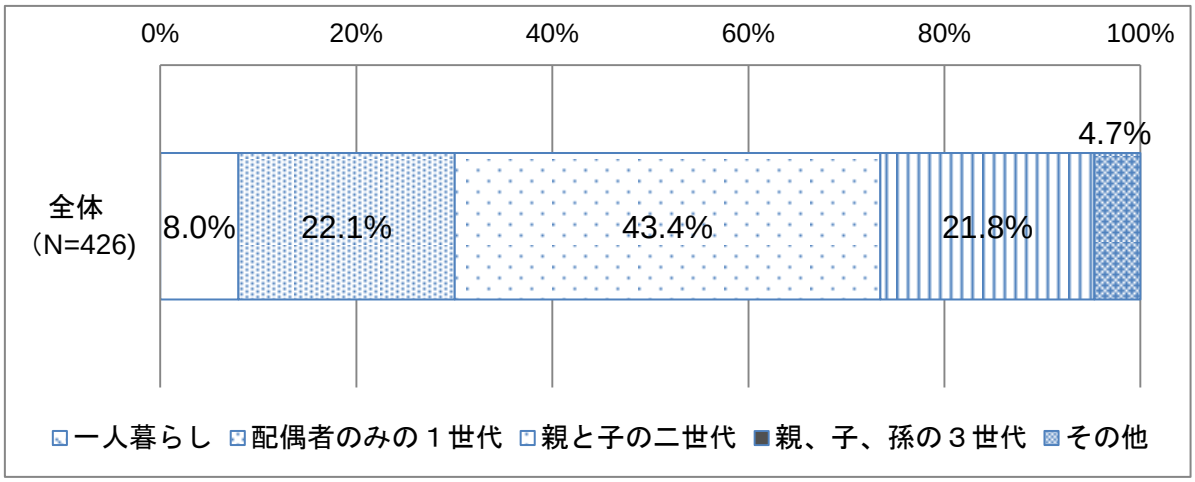
問２　年代を教えてください。

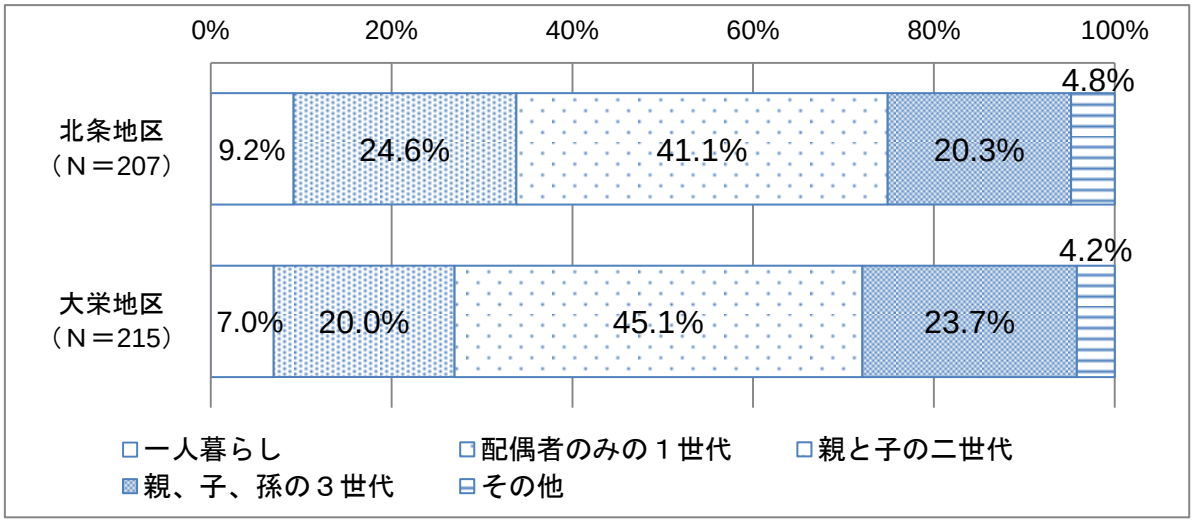


問３　お住まいの中学校区はどちらですか。

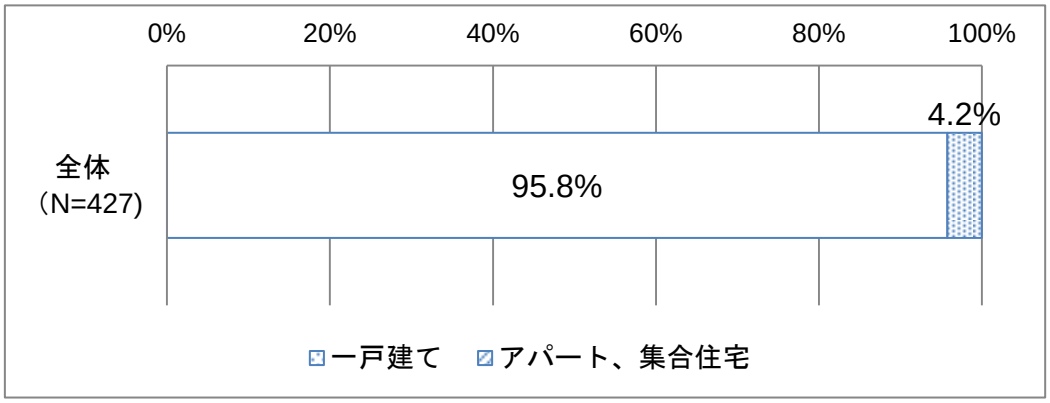


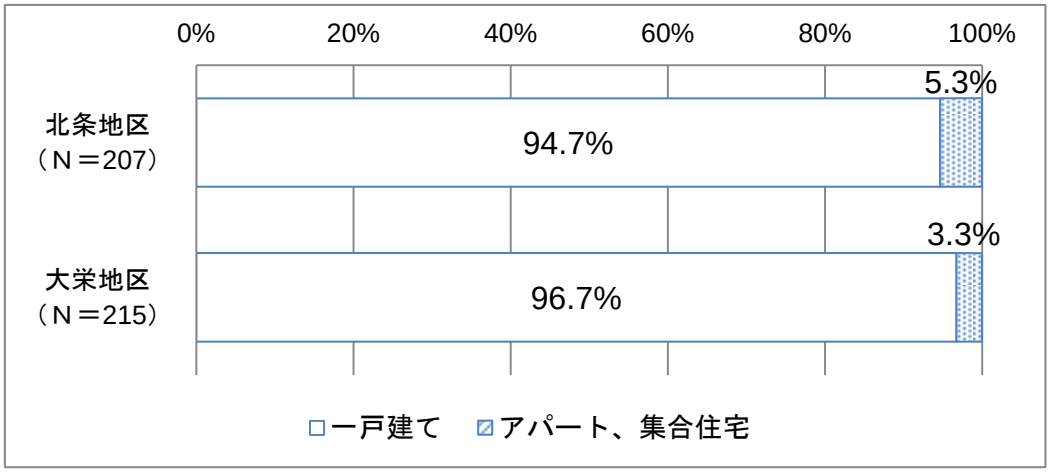
問４　あなたは何世代で同居されていますか。



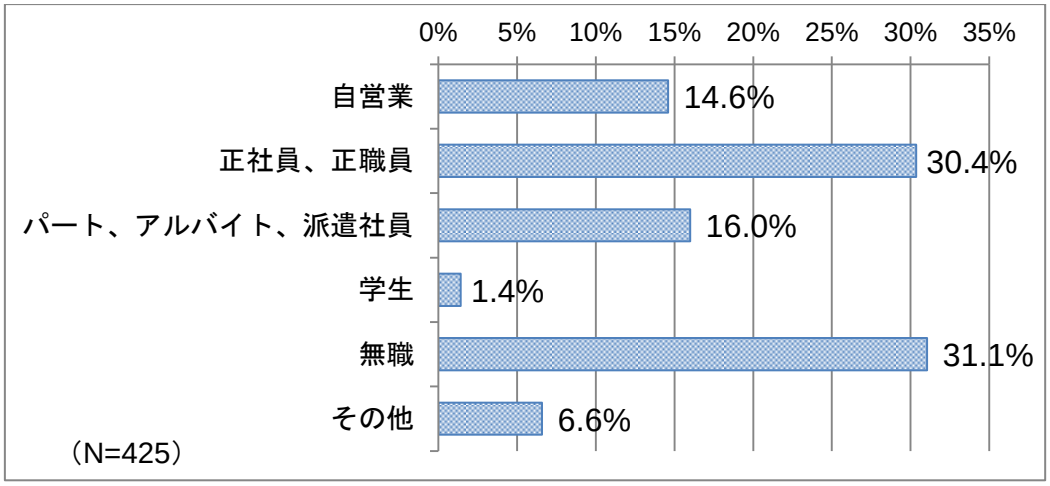


問５　お住まいの住居について教えてください。





問６　ご職業は、どれに該当しますか。



【その他の回答】

・農業　・会社役員　・臨時職員

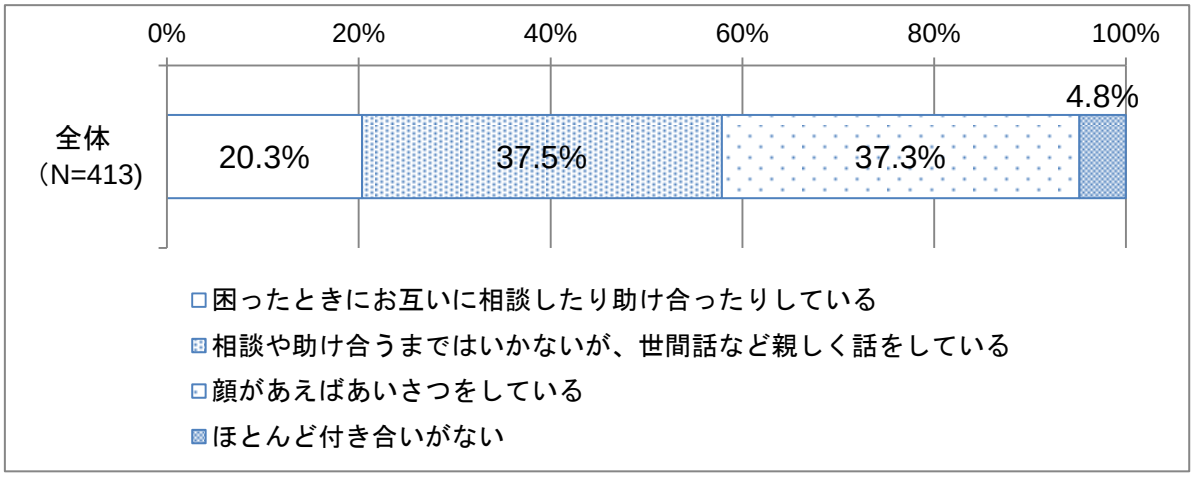
４　地域での生活について

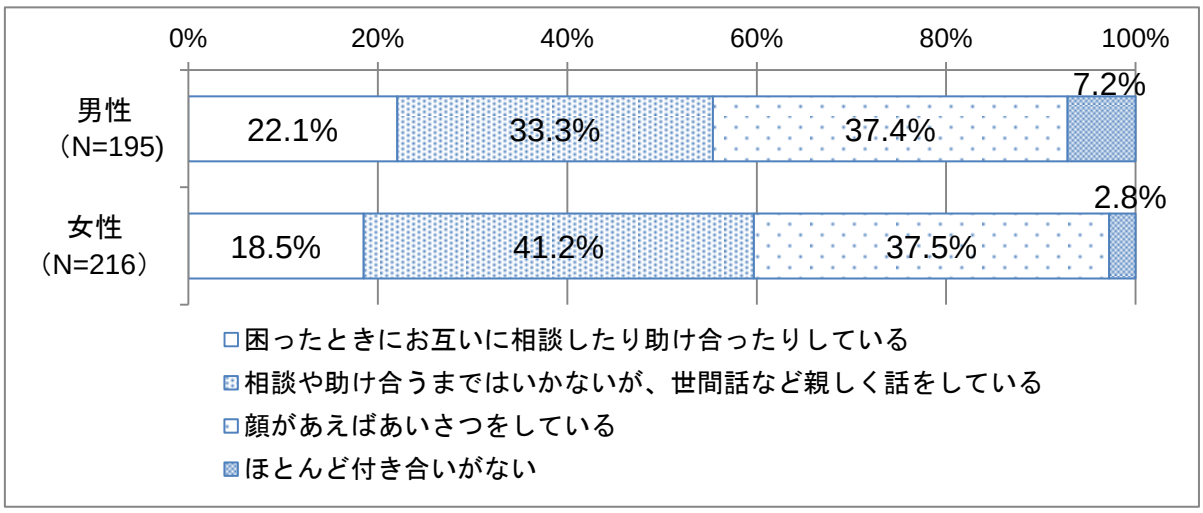
問７　ご近所の方とは、どの程度お付き合いしていますか。

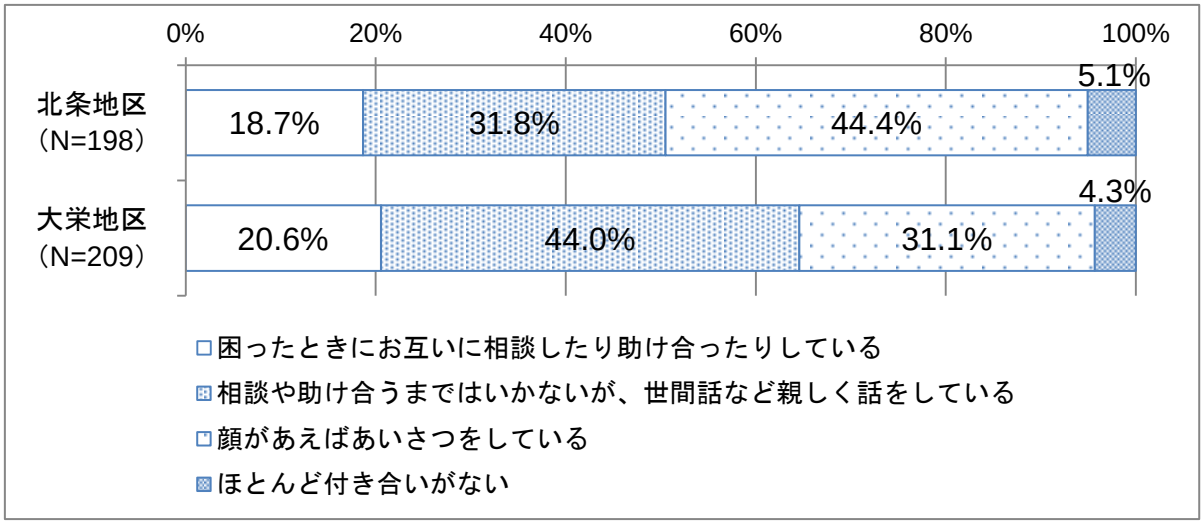
「お互いに相談や助け合ったりしている」関係は 2 割程度と低く、「世間話程度」、「あいさつ程度」が最も多い結果となっています。

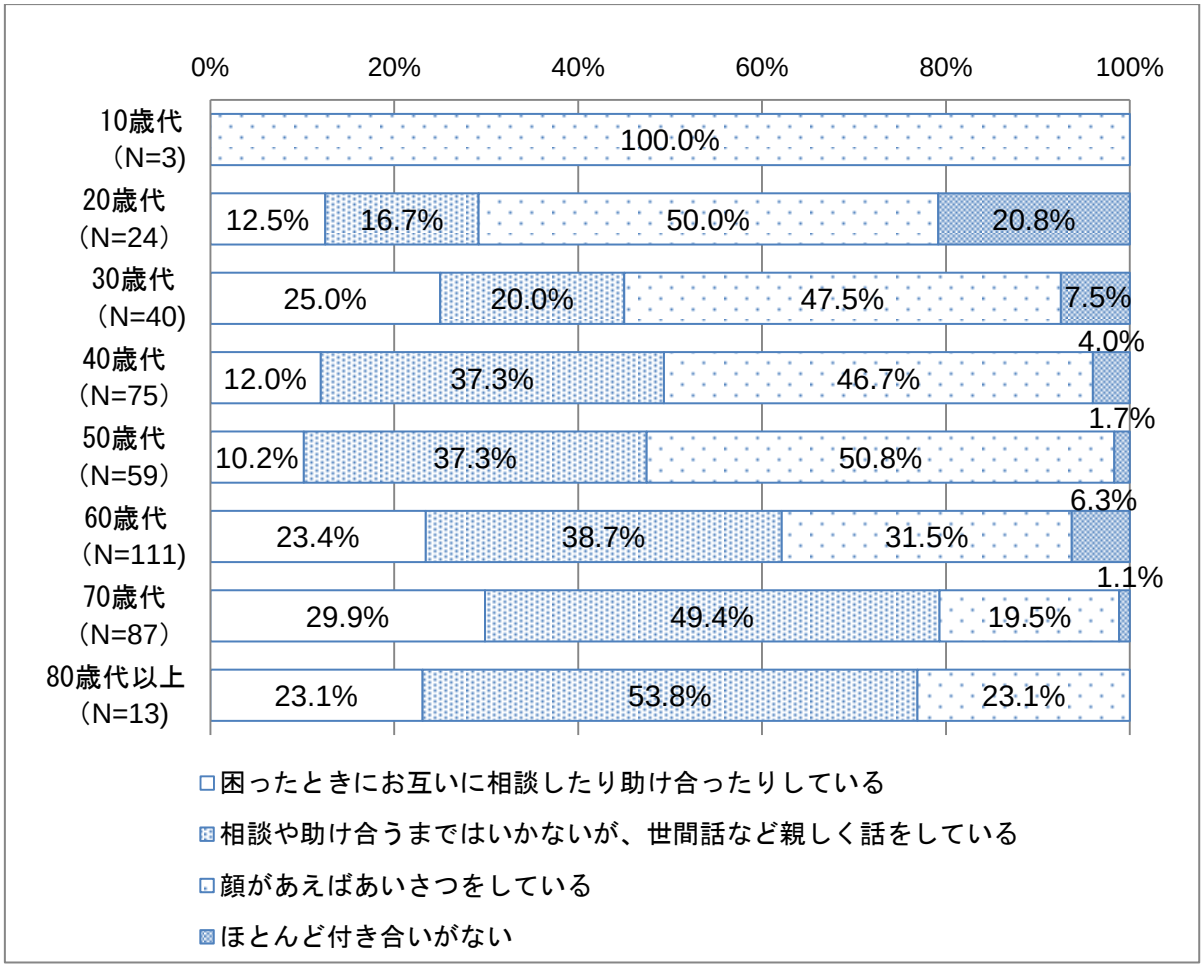
男性に比べ女性の方が付き合いの程度が広く、地区別では大栄地区の方が、「お互いに相談や助け合ったりしている」、「世間話など親しく話をしている」を含め、付き合いの程度が広い結果となっています。

また、年代別にみると若い年代ほどご近所との付き合いの程度が少ないですが、70 歳代、80 歳代以上は、近所と何らかの付き合いしている傾向が強い結果となっています。






0%
20%
40%
60%
80%
100%
北条地区
（N=198）
18.7%
31.8%
44.4%
5.1%
大栄地区
（N=209）
20.6%
44.0%
31.1%
4.3%
困ったときにお互いに相談したり助け合ったりしている
相談や助け合うまではいかないが、世間話など親しく話をしている
顔があえばあいさつをしている
ほとんど付き合いがない

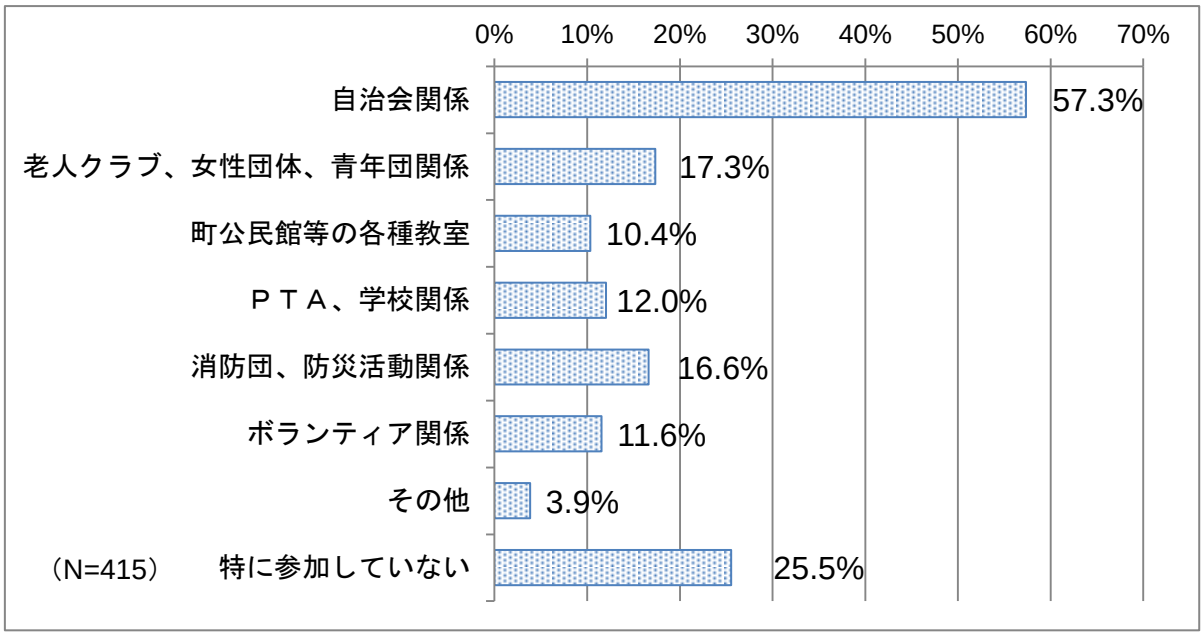

0%
20%
40%
60%
80%
100%
10歳代
（N=3）
100.0%
20歳代
（N=24）
12.5%
16.7%
50.0%
20.8%
30歳代
（N=40）
25.0%
20.0%
47.5%
7.5%
40歳代
（N=75）
12.0%
37.3%
46.7%
4.0%
50歳代
（N=59）
10.2%
37.3%
50.8%
1.7%
60歳代
（N=111）
23.4%
38.7%
31.5%
6.3%
70歳代
（N=87）
29.9%
49.4%
19.5%
1.1%
80歳代以上
（N=13）
23.1%
53.8%
23.1%
困ったときにお互いに相談したり助け合ったりしている
相談や助け合うまではいかないが、世間話など親しく話をしている
顔があえばあいさつをしている
ほとんど付き合いがない

問８　現在、自治会や地域で参加している活動はどのようなものですか。（複数回答）

半数以上の方が「自治会関係」の活動に参加していると回答されており、地区別にみると、大栄地区のほうが自治会への参加が多い結果となっています。

「特に参加していない」と回答した方は 25.5%であり、全体の４分の３の方は何らかの活動に参加されています。

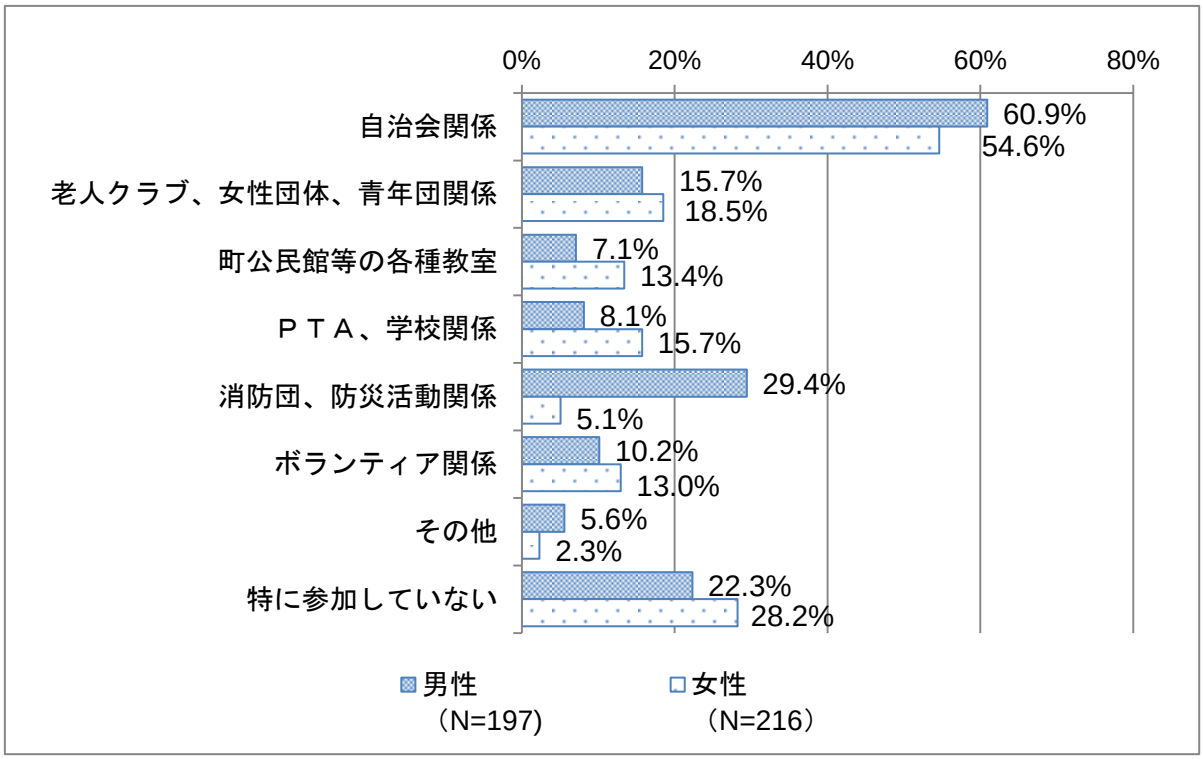
また、活動別にみると 70 代、80 代の「老人クラブ、女性団体、青年団関係」の活動の割合が高くなっていますが、若い年代の活動は比較的少ない実態があり、早い段階での地域活動とのつながりや活動のきっかけづくりが必要であると考えられます。

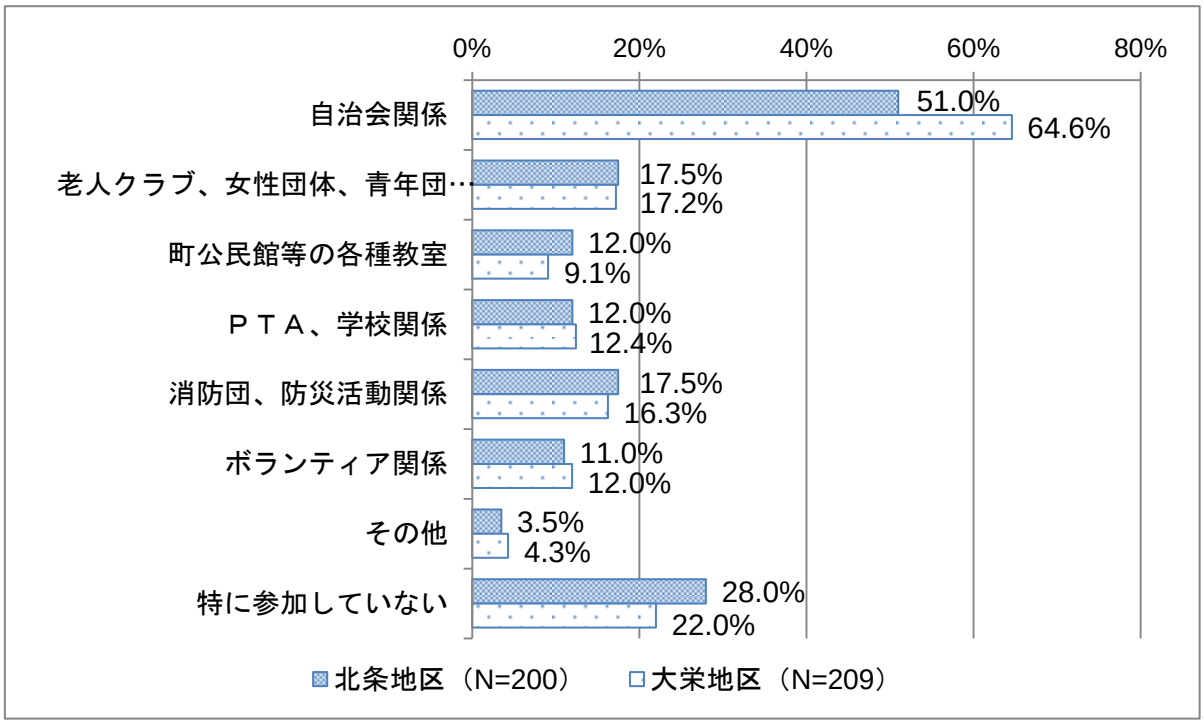


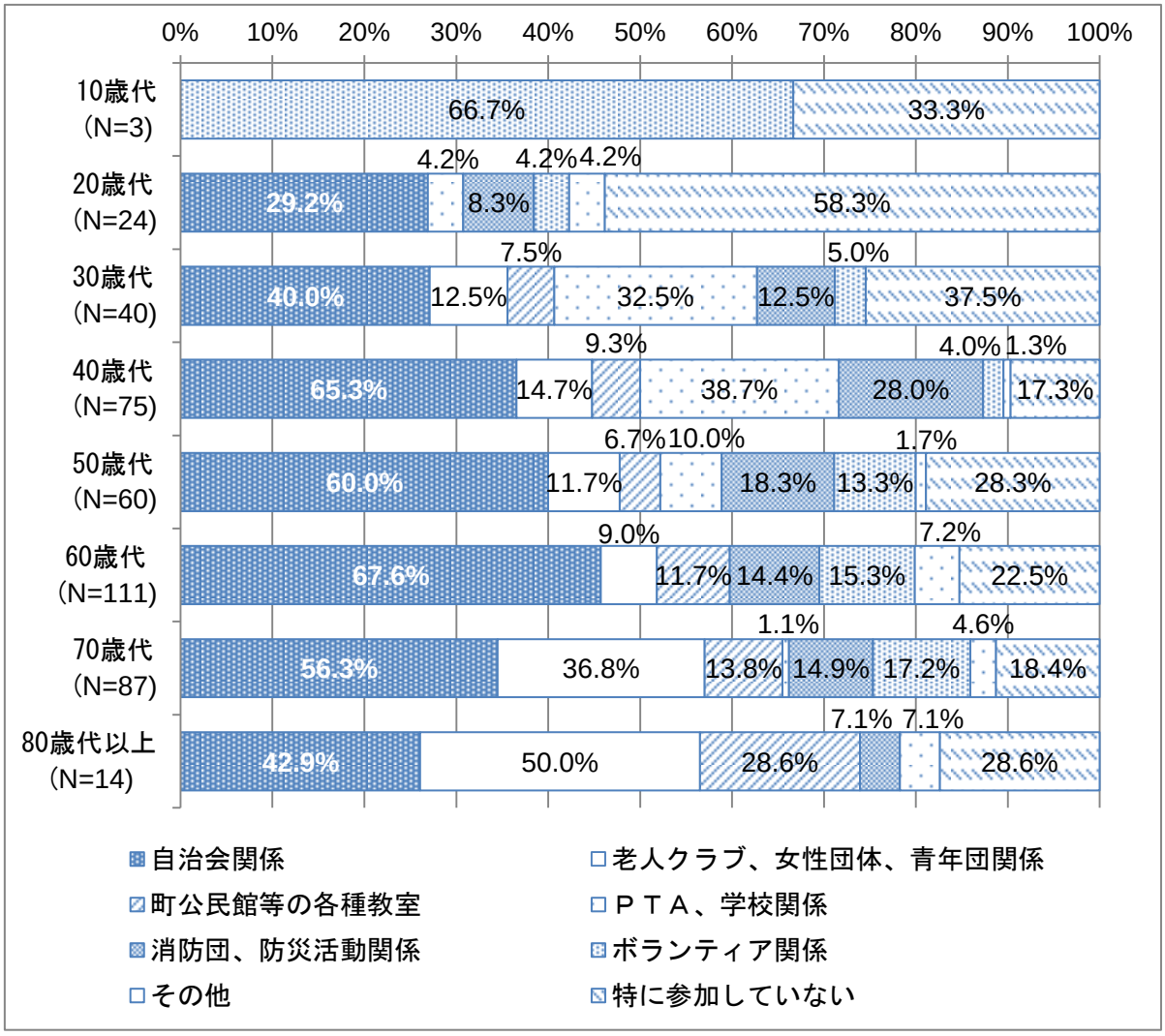
【その他の回答】

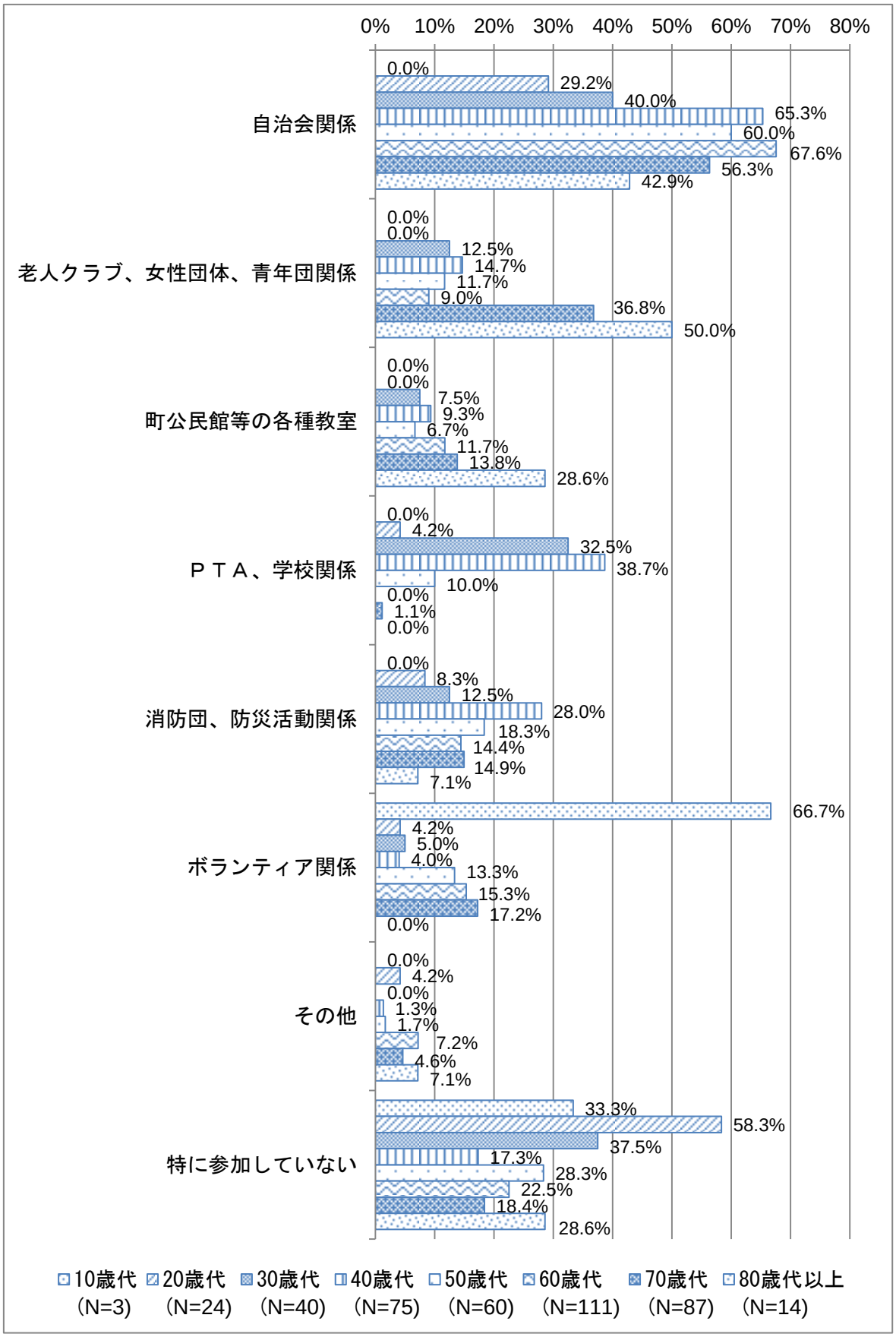
・スポーツ大会　・グランドゴルフ　・農業関係団体　・町の事業の手伝い

・地区の運動会、納涼祭　・Ｂ＆Ｇスポーツ教室


0%
20%
40%
60%
80%
自治会関係
60.9%
54.6%
老人クラブ、女性団体、青年団関係
15.7%
18.5%
町公民館等の各種教室
7.1%
13.4%
ＰＴＡ、学校関係
8.1%
15.7%
消防団、防災活動関係
29.4%
5.1%
ボランティア関係
10.2%
13.0%
その他
5.6%
2.3%
特に参加していない
22.3%
28.2%
男性（N=197）
女性（N=216）


0%
20%
40%
60%
80%
自治会関係
51.0%
64.6%
老人クラブ、女性団体、青年団…
17.5%
17.2%
町公民館等の各種教室
12.0%
9.1%
ＰＴＡ、学校関係
12.0%
12.4%
消防団、防災活動関係
17.5%
16.3%
ボランティア関係
11.0%
12.0%
その他
3.5%
4.3%
特に参加していない
28.0%
22.0%
北条地区（N=200）
大栄地区（N=209）

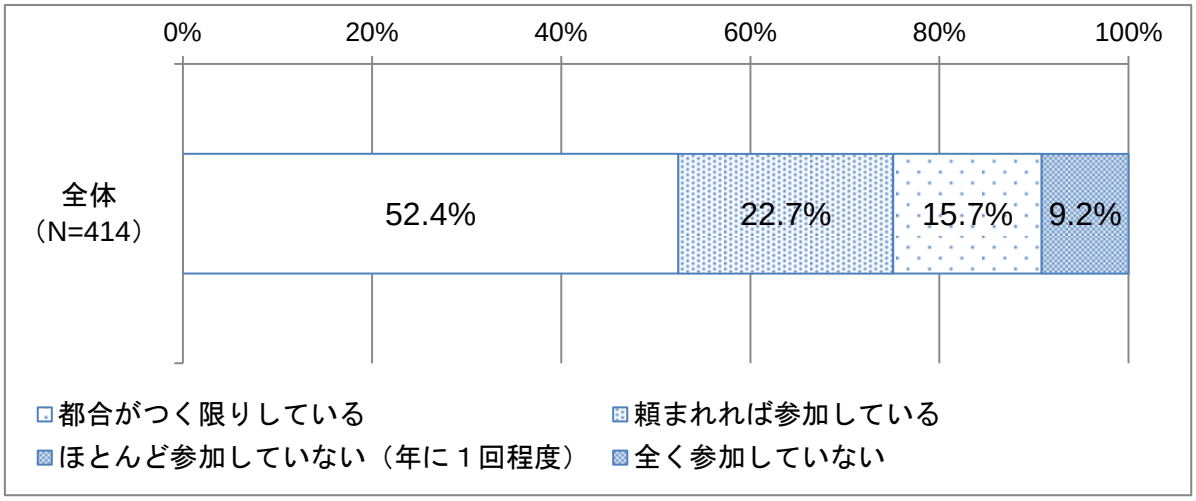

0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
10歳代
(N=3)
66.7%
33.3%
20歳代
(N=24)
29.2%
4.2%
8.3%
4.2%
4.2%
58.3%
30歳代
(N=40)
40.0%
12.5%
7.5%
32.5%
12.5%
5.0%
37.5%
40歳代
(N=75)
65.3%
14.7%
9.3%
38.7%
28.0%
4.0%
1.3%
17.3%
50歳代
(N=60)
60.0%
11.7%
6.7%
10.0%
18.3%
13.3%
1.7%
28.3%
60歳代
(N=111)
67.6%
9.0%
11.7%
14.4%
15.3%
7.2%
22.5%
70歳代
(N=87)
56.3%
36.8%
13.8%
1.1%
14.9%
17.2%
4.6%
18.4%
80歳代以上
(N=14)
42.9%
50.0%
28.6%
7.1%
7.1%
28.6%
自治会関係
老人クラブ、女性団体、青年団関係
町公民館等の各種教室
ＰＴＡ、学校関係
消防団、防災活動関係
ボランティア関係
その他
特に参加していない

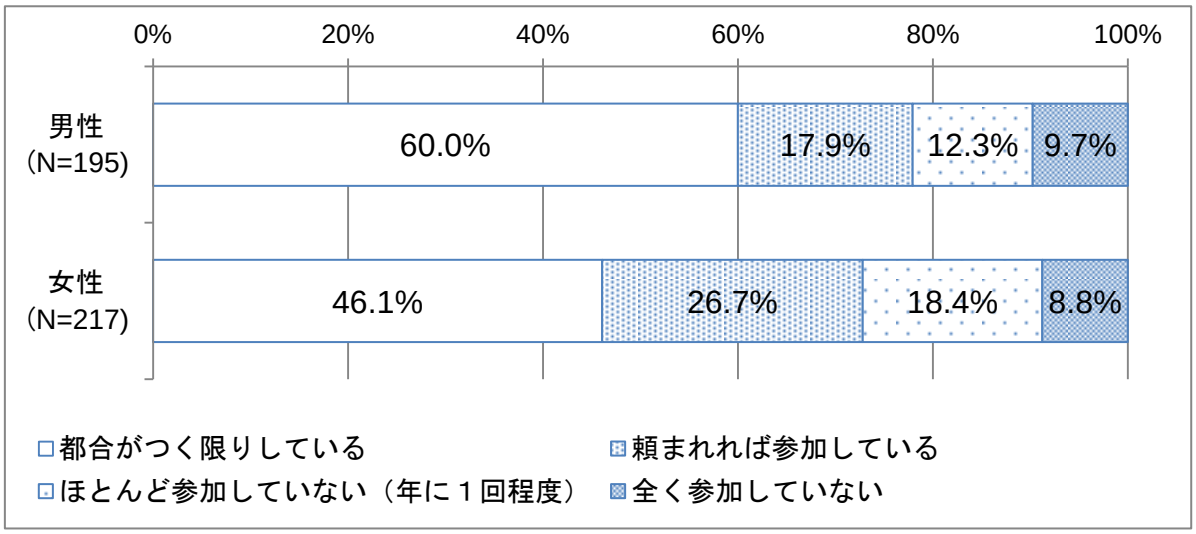

0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
自治会関係
0.0%
29.2%
40.0%
65.3%
60.0%
67.6%
56.3%
42.9%
老人クラブ、女性団体、青年団関係
0.0%
0.0%
12.5%
14.7%
11.7%
9.0%
36.8%
50.0%
町公民館等の各種教室
0.0%
0.0%
7.5%
9.3%
6.7%
11.7%
13.8%
28.6%
ＰＴＡ、学校関係
0.0%
4.2%
32.5%
38.7%
10.0%
0.0%
1.1%
0.0%
消防団、防災活動関係
0.0%
8.3%
12.5%
28.0%
18.3%
14.4%
14.9%
7.1%
ボランティア関係
66.7%
4.2%
5.0%
4.0%
13.3%
15.3%
17.2%
0.0%
その他
0.0%
4.2%
0.0%
1.3%
1.7%
7.2%
4.6%
7.1%
特に参加していない
33.3%
58.3%
37.5%
17.3%
28.3%
22.5%
18.4%
28.6%
10歳代 (N=3)
20歳代 (N=24)
30歳代 (N=40)
40歳代 (N=75)
50歳代 (N=60)
60歳代 (N=111)
70歳代 (N=87)
80歳代以上 (N=14)

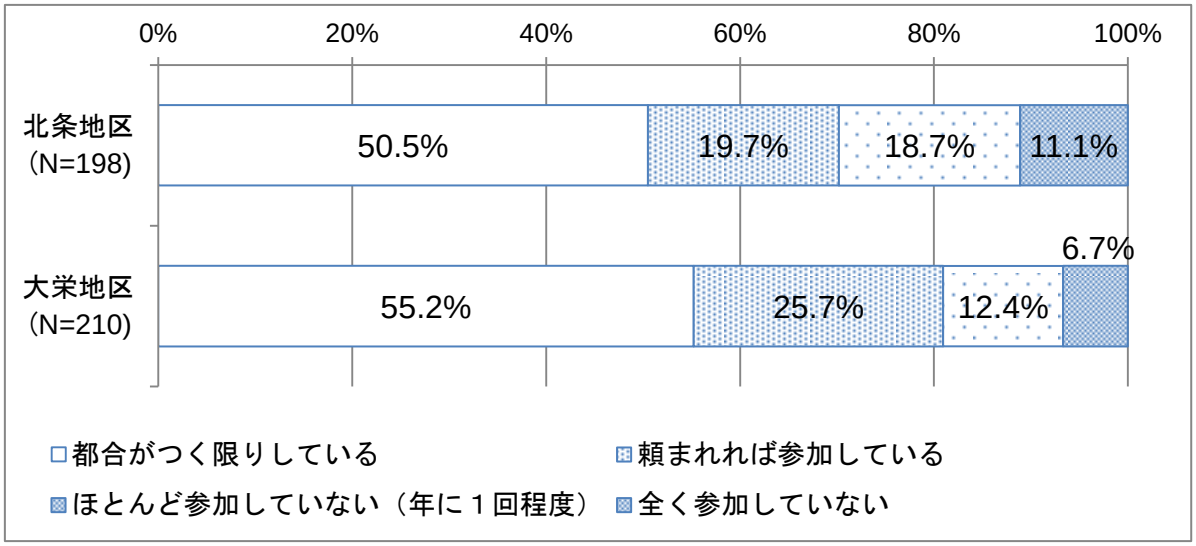
問９　自治会や地域での行事や活動にどの程度参加していますか。

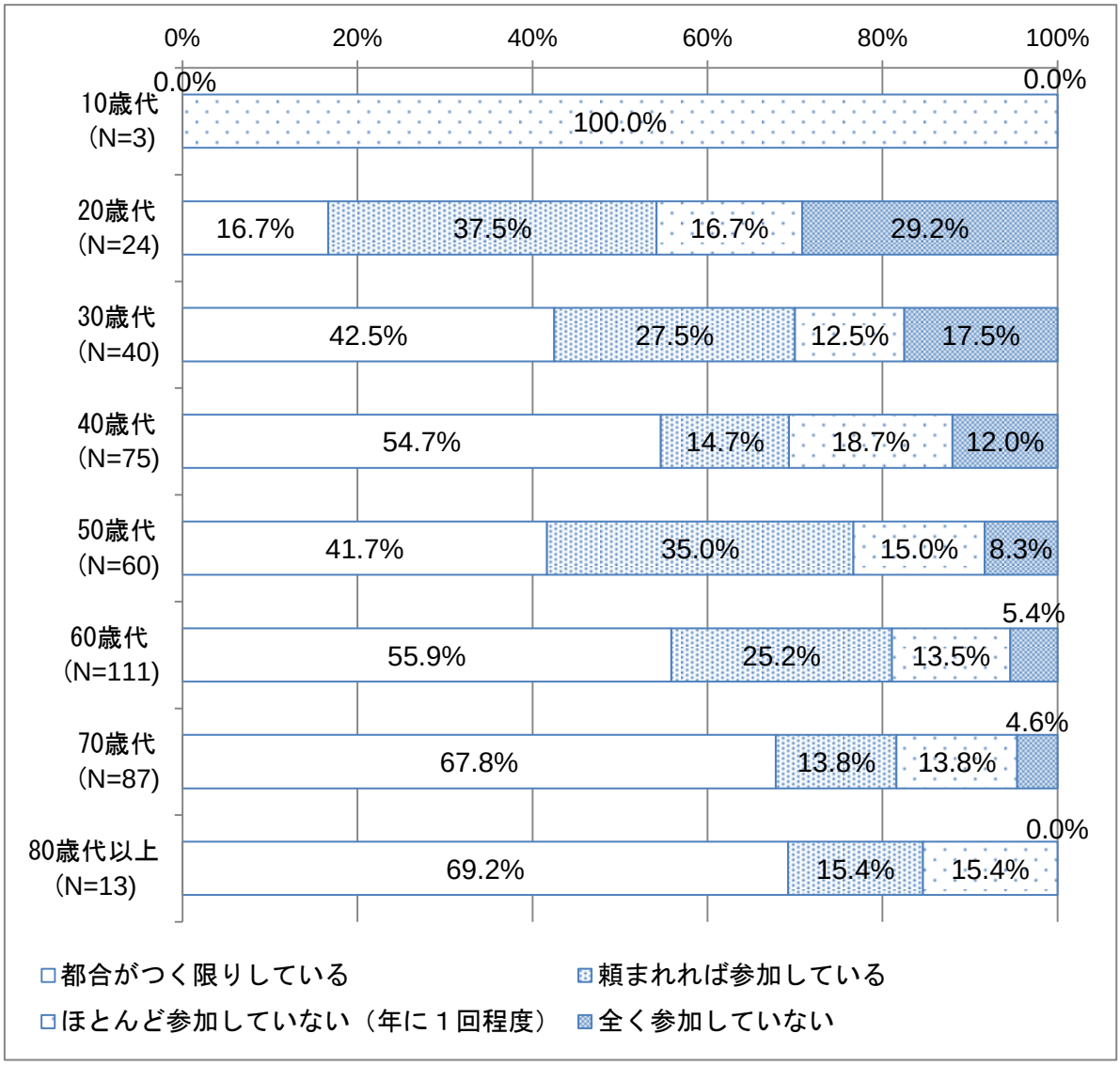
「都合がつく限りしている」「頼まれれば参加している」をあわせると、７割強が参加しています。年代別では 40 代では７割弱、50 代では８割弱、60 代以上になると８割を超えた参加となっており、年代があがるにつれて参加している実態となっています。

また、特に 50 代は、「頼まれれば参加している」と回答された割合が高く、例えば、問 10 の設問で見られるように、「仕事や家事の忙しさ」などが影響している可能性が考えられます。





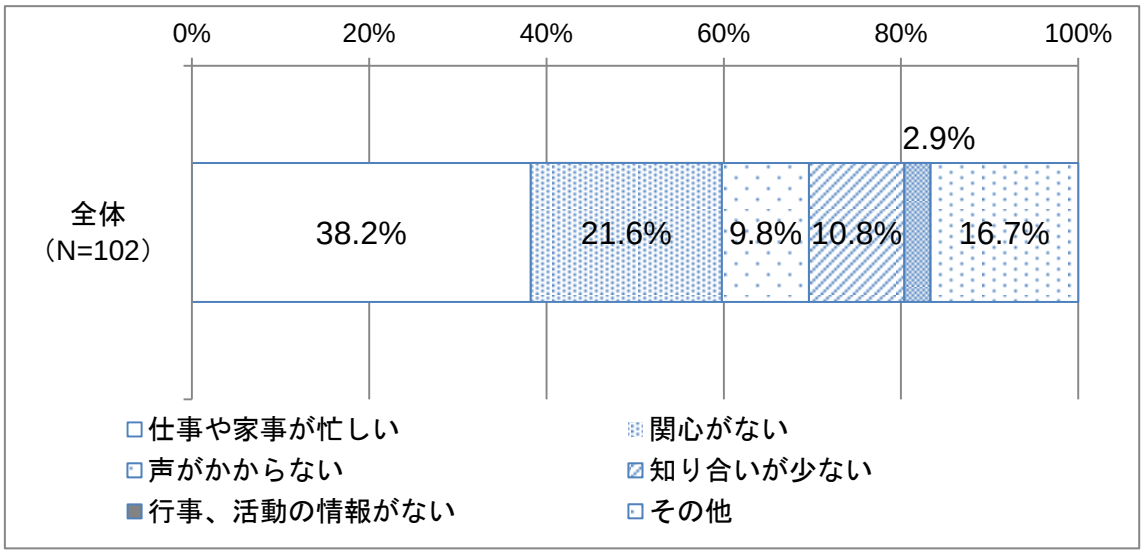

0%
20%
40%
60%
80%
100%
北条地区
(N=198)
50.5%
19.7%
18.7%
11.1%
大栄地区
(N=210)
55.2%
25.7%
12.4%
6.7%
都合がつく限りしている
頼まれれば参加している
ほとんど参加していない（年に１回程度）
全く参加していない


0%
20%
40%
60%
80%
100%
10歳代
(N=3)
0.0%
100.0%
0.0%
20歳代
(N=24)
16.7%
37.5%
16.7%
29.2%
30歳代
(N=40)
42.5%
27.5%
12.5%
17.5%
40歳代
(N=75)
54.7%
14.7%
18.7%
12.0%
50歳代
(N=60)
41.7%
35.0%
15.0%
8.3%
60歳代
(N=111)
55.9%
25.2%
13.5%
5.4%
70歳代
(N=87)
67.8%
13.8%
13.8%
4.6%
80歳代以上
(N=13)
69.2%
15.4%
15.4%
0.0%
都合がつく限りしている
頼まれれば参加している
ほとんど参加していない（年に１回程度）
全く参加していない

問１０　問９で「３．ほとんど参加していない」「４．全く参加していない」と回答された方は、その理由で一番近いものを教えてください。

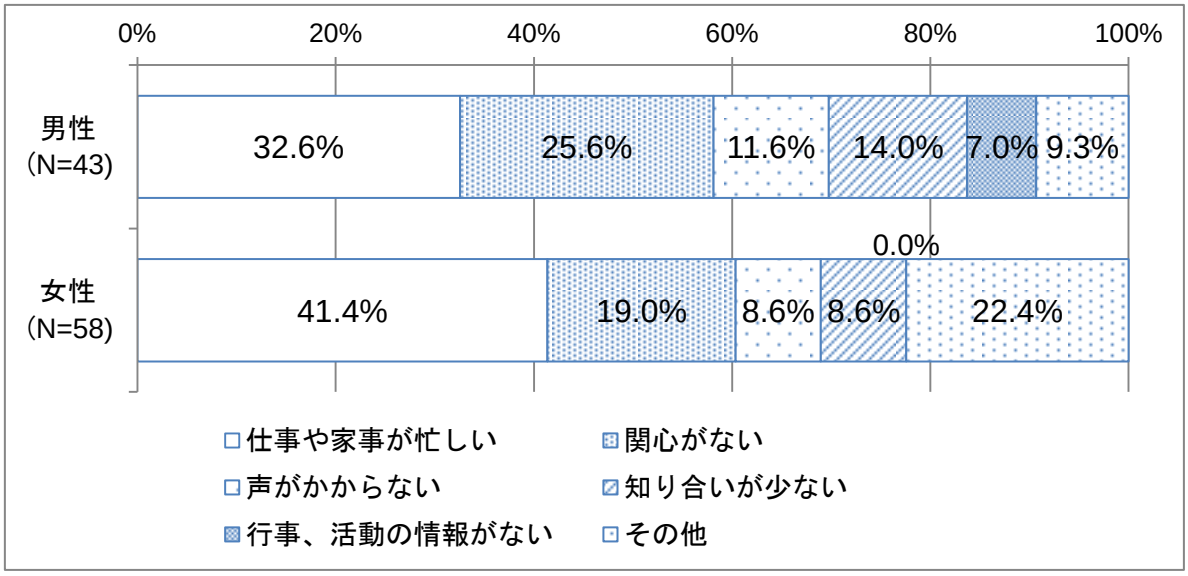
「仕事や家事が忙しい」「関心がない」といった自身の状況や意識による理由となっているものが半数以上になります。また、「声がかからない」「知り合いが少ない」「行事、活動の情報がない」といった周囲からの影響によるものが２割を超えた結果となっています。

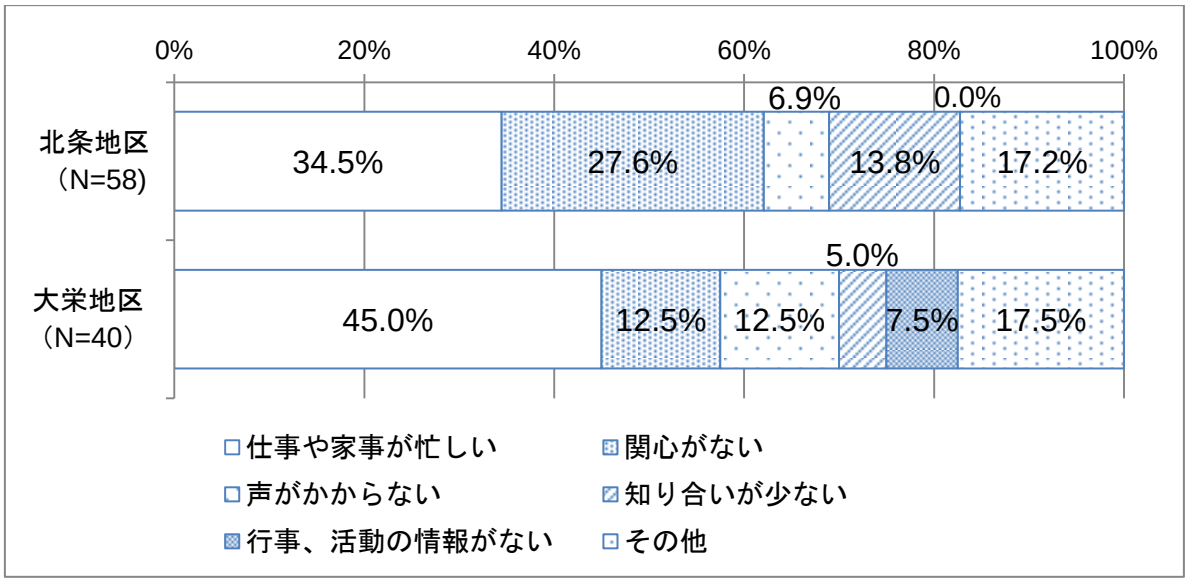
年代別にみると 30 代から 50 代は「仕事や家事が忙しい」と回答した方が多い結果となっています。また、「関心がない」と回答した割合は 20 代、30 代で大きく、20 代では「知り合いが少ない」ことが参加しない原因となっています。これは、回答数が少なく明確には判断できないものの、地域とのつながりの少なさ等により参加のきっかけが少ないことも考えられるため、地域の中での仲間づくりの推進や若い世代を呼び込んだ地域づくりなどを検討していくことも必要であると考えられます。

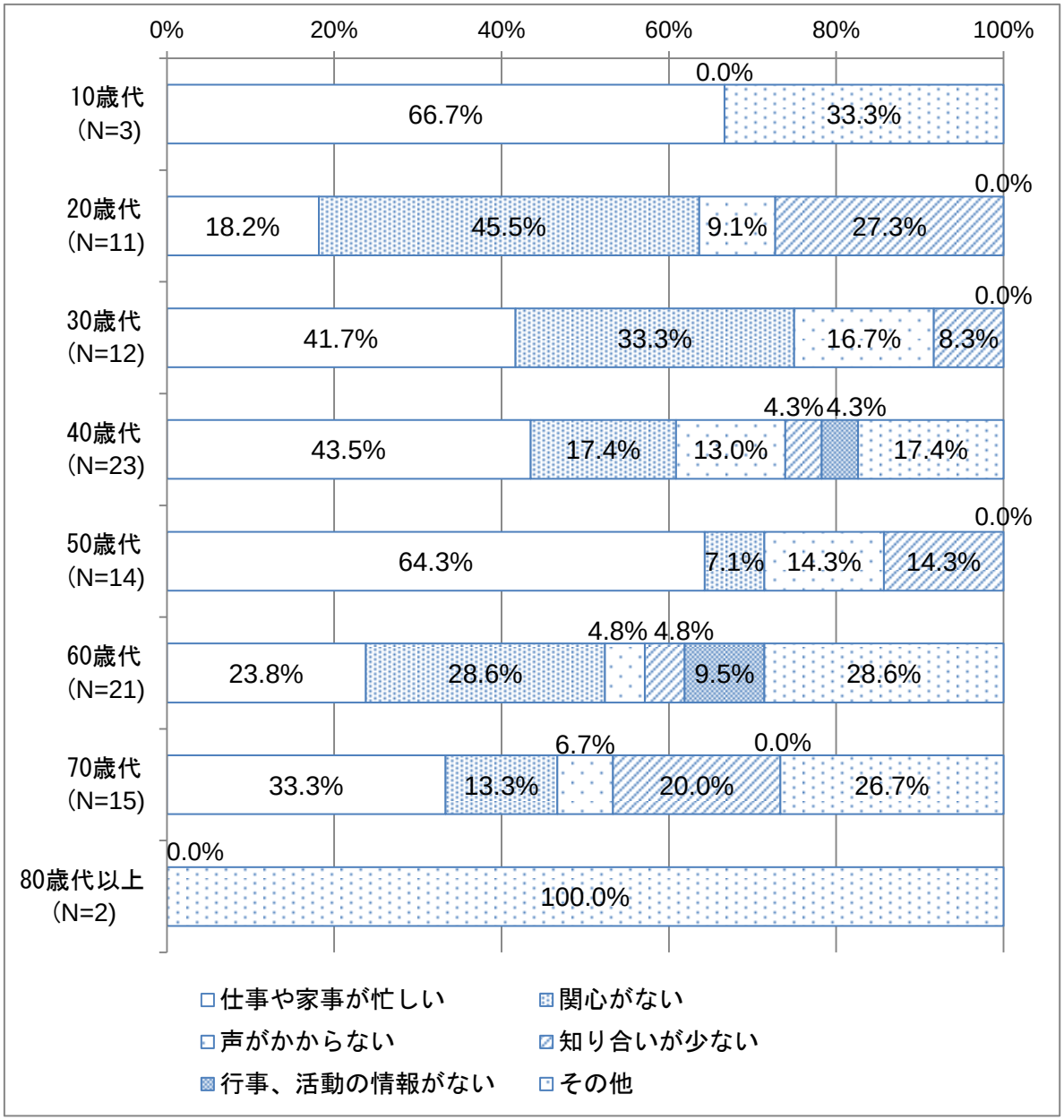


【その他の回答】

・病気がち等の健康上の理由　　・年齢の差　　・家族が参加している


0%
20%
40%
60%
80%
100%
男性
(N=43)
32.6%
25.6%
11.6%
14.0%
7.0%
9.3%
0.0%
女性
(N=58)
41.4%
19.0%
8.6%
8.6%
22.4%
仕事や家事が忙しい
関心がない
声がかからない
知り合いが少ない
行事、活動の情報がない
その他

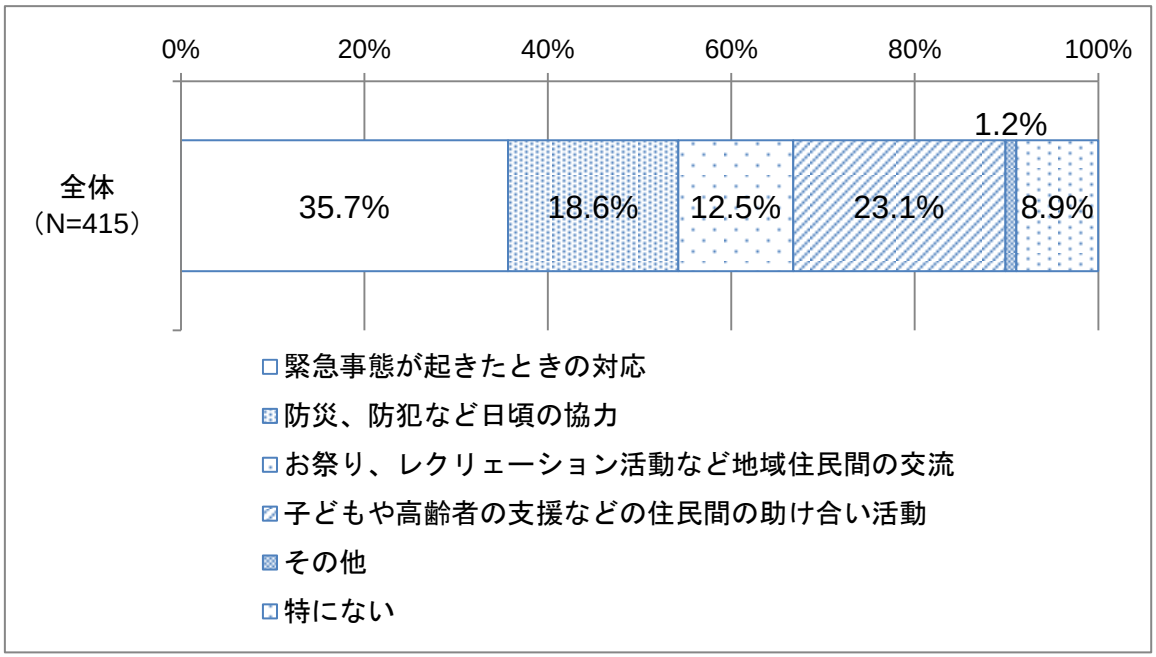

0%
20%
40%
60%
80%
100%
北条地区
（N=58)
34.5%
27.6%
6.9%
13.8%
0.0%
17.2%
大栄地区
（N=40）
45.0%
12.5%
12.5%
5.0%
7.5%
17.5%
仕事や家事が忙しい
関心がない
声がかからない
知り合いが少ない
行事、活動の情報がない
その他


0%
20%
40%
60%
80%
100%
10歳代
(N=3)
66.7%
0.0%
33.3%
20歳代
(N=11)
18.2%
45.5%
9.1%
27.3%
0.0%
30歳代
(N=12)
41.7%
33.3%
16.7%
8.3%
0.0%
40歳代
(N=23)
43.5%
17.4%
13.0%
4.3%
4.3%
17.4%
50歳代
(N=14)
64.3%
7.1%
14.3%
14.3%
0.0%
60歳代
(N=21)
23.8%
28.6%
4.8%
4.8%
9.5%
28.6%
70歳代
(N=15)
33.3%
13.3%
6.7%
20.0%
0.0%
26.7%
80歳代以上
(N=2)
0.0%
100.0%
仕事や家事が忙しい
関心がない
声がかからない
知り合いが少ない
行事、活動の情報がない
その他

問１１　地域社会（自治会等）の役割にどのようなことを期待していますか。最も必要なものをお選びください。

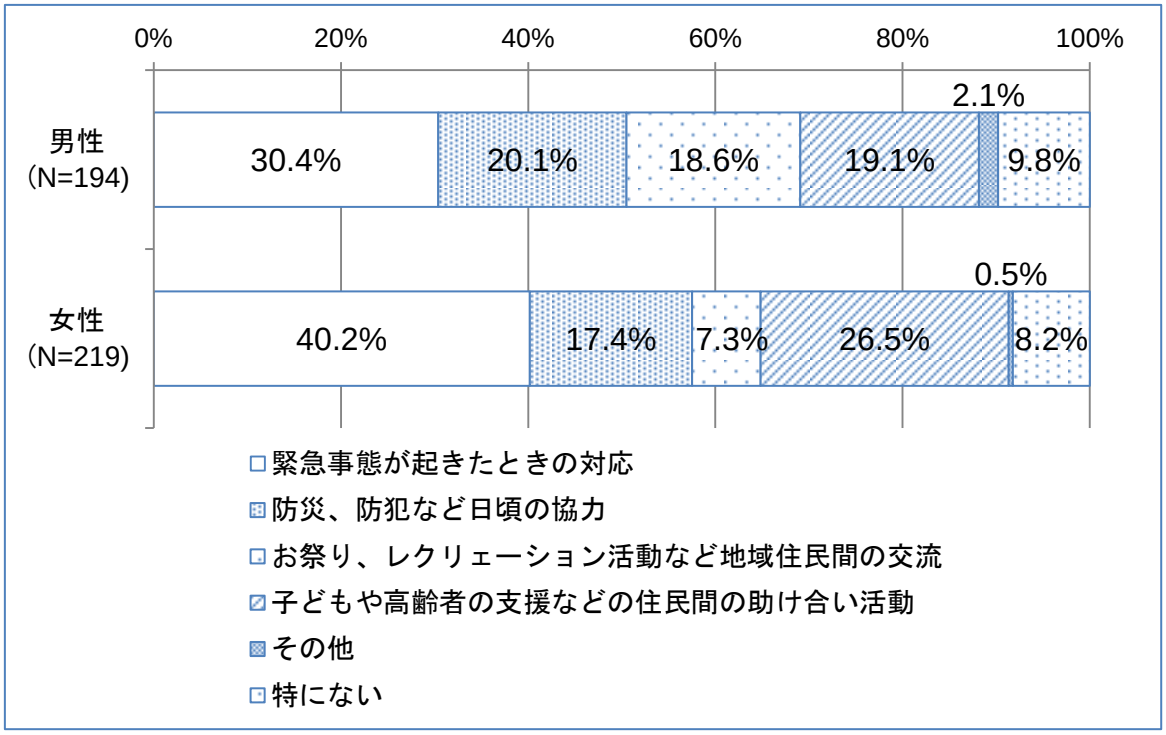
「緊急事態が起きたときの対応」「防災、防犯など日頃の協力」を合わせると半数を超えています。性別にみると女性のほうがその割合が高く、「住民間の助け合い活動」も含め、地域社会の役割に、何かの際の「支援」や「助け合い」を期待していると考えられます。

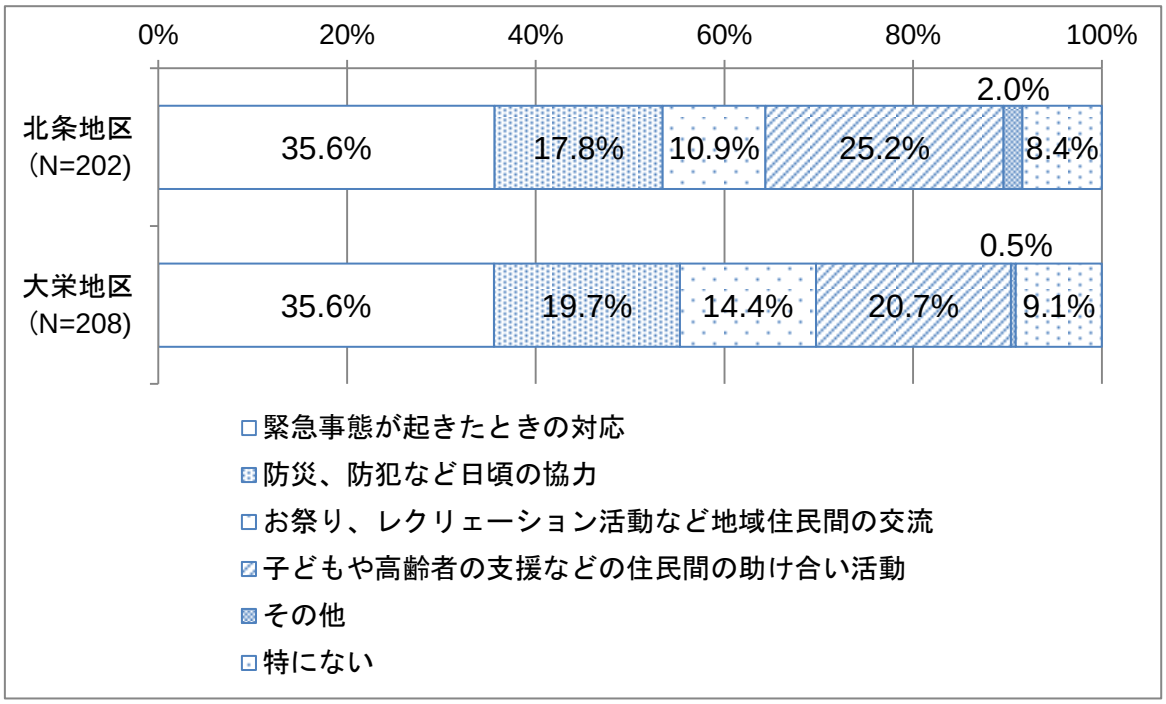
年代別にみると、30 代の「住民間の助け合い活動」に期待する割合が高く、このことは、子育て等の理由によるリフレッシュや手助けへの期待が考えられます。また、全体的にみると若い世代の方が「防災、防犯」より「支え合い」を期待している傾向がありますが、「防災、防犯」はどの世代にも求められており、自治会等の役割として、「安心」「安全」につながる活動は最低限求められていると言えます。

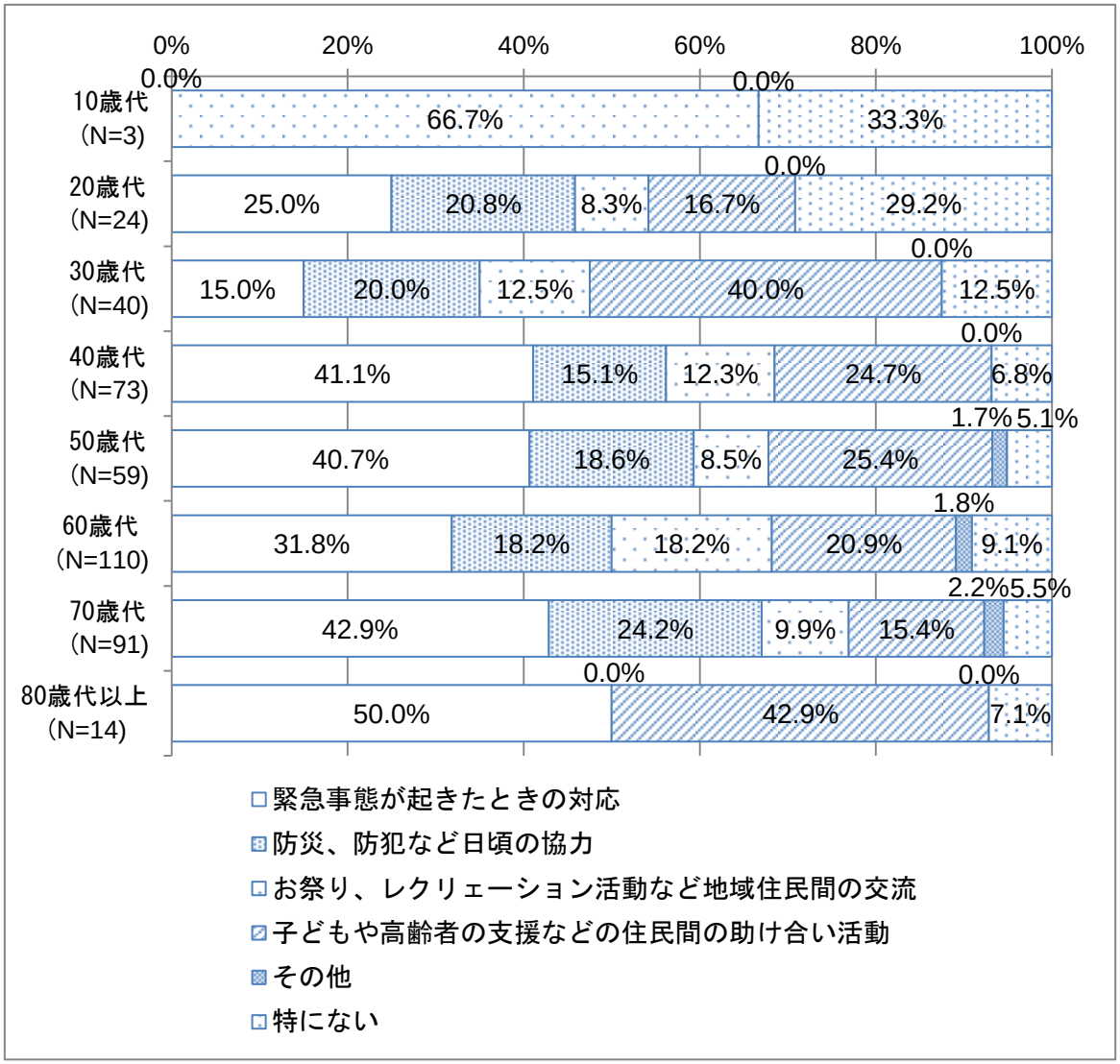


【その他の回答】

・国県町の事業への要望　　・虐待防止　　・相談しない

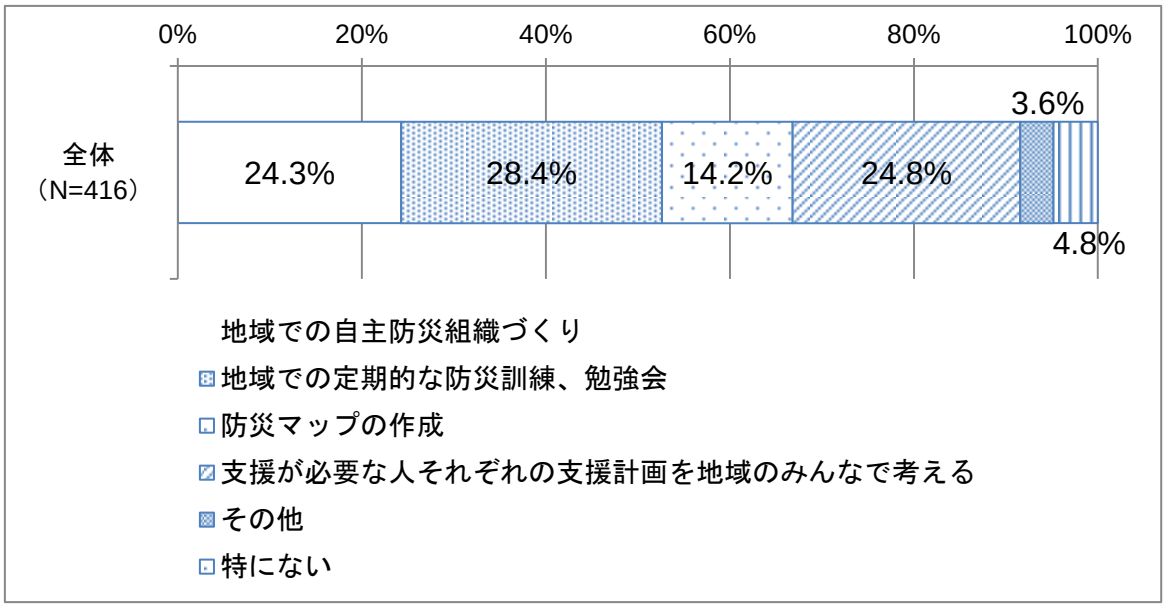

0%
20%
40%
60%
80%
100%
男性
(N=194)
30.4%
20.1%
18.6%
19.1%
2.1%
9.8%
女性
(N=219)
40.2%
17.4%
7.3%
26.5%
0.5%
8.2%
緊急事態が起きたときの対応
防災、防犯など日頃の協力
お祭り、レクリェーション活動など地域住民間の交流
子どもや高齢者の支援などの住民間の助け合い活動
その他
特にない


0%
20%
40%
60%
80%
100%
北条地区
(N=202)
35.6%
17.8%
10.9%
25.2%
2.0%
8.4%
大栄地区
(N=208)
35.6%
19.7%
14.4%
20.7%
0.5%
9.1%
緊急事態が起きたときの対応
防災、防犯など日頃の協力
お祭り、レクリェーション活動など地域住民間の交流
子どもや高齢者の支援などの住民間の助け合い活動
その他
特にない



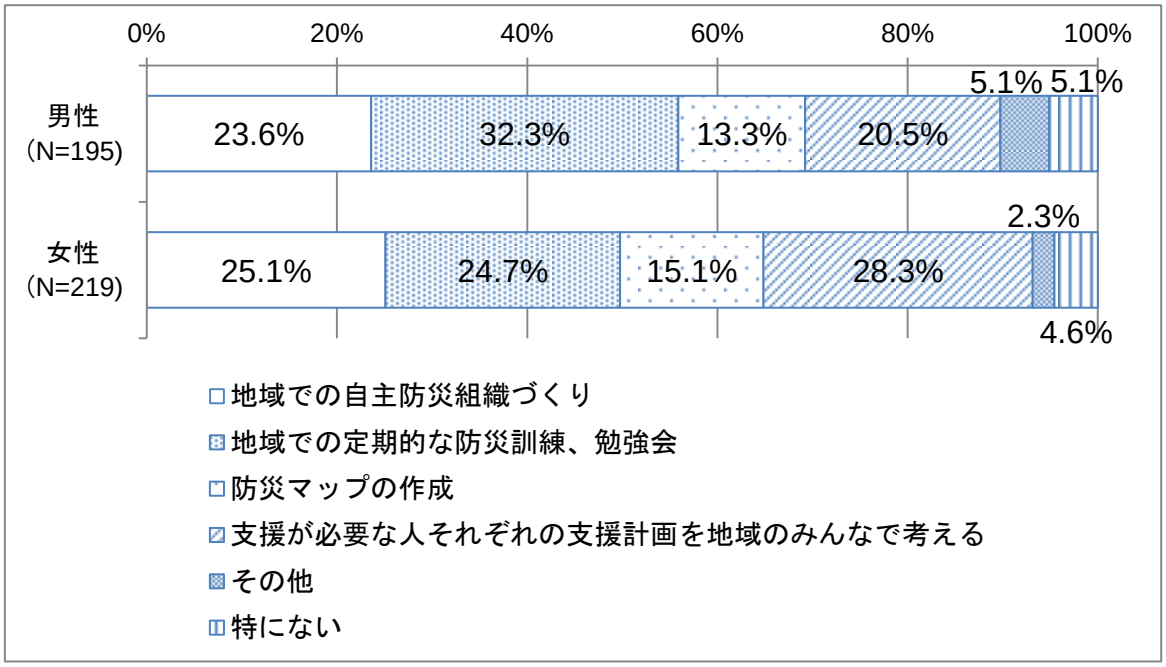
問１２　地震や火災等の災害時に住民同士が協力しあえるためには、どのようなことが必要だと思いますか。最も必要だと思うものをお選びください。

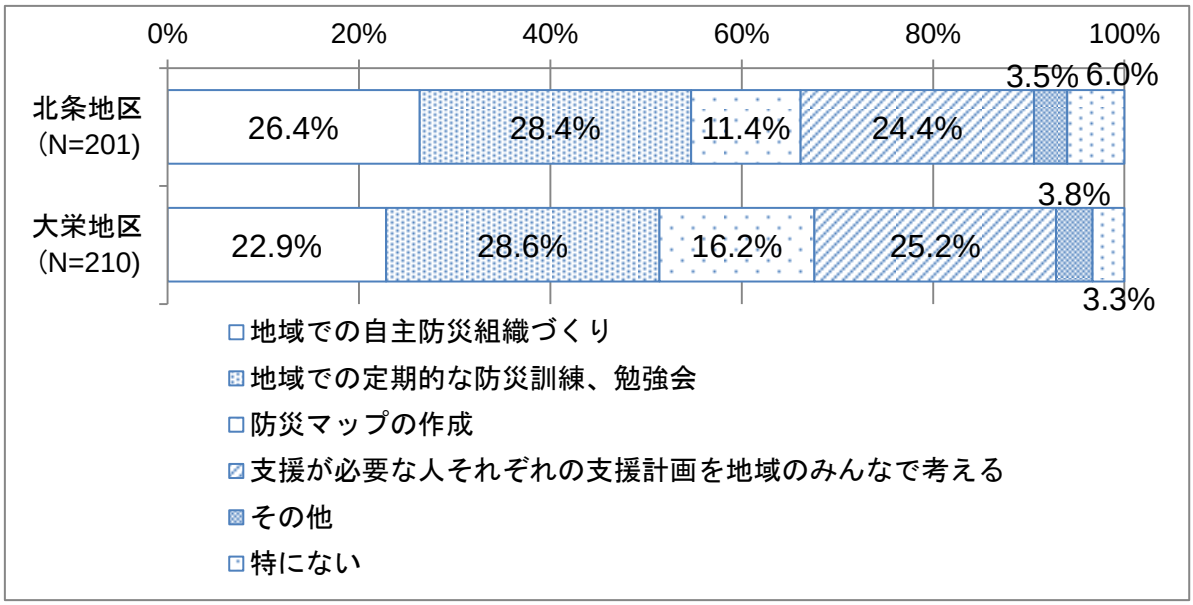
災害時の協力体制のためには、「定期的な防災訓練、勉強会」が必要であると回答した方の割合が最も高い結果となっています。ついで、「支援が必要な人それぞれの支援計画を地域のみんなで考える」、「自主防災組織づくり」と続いています。

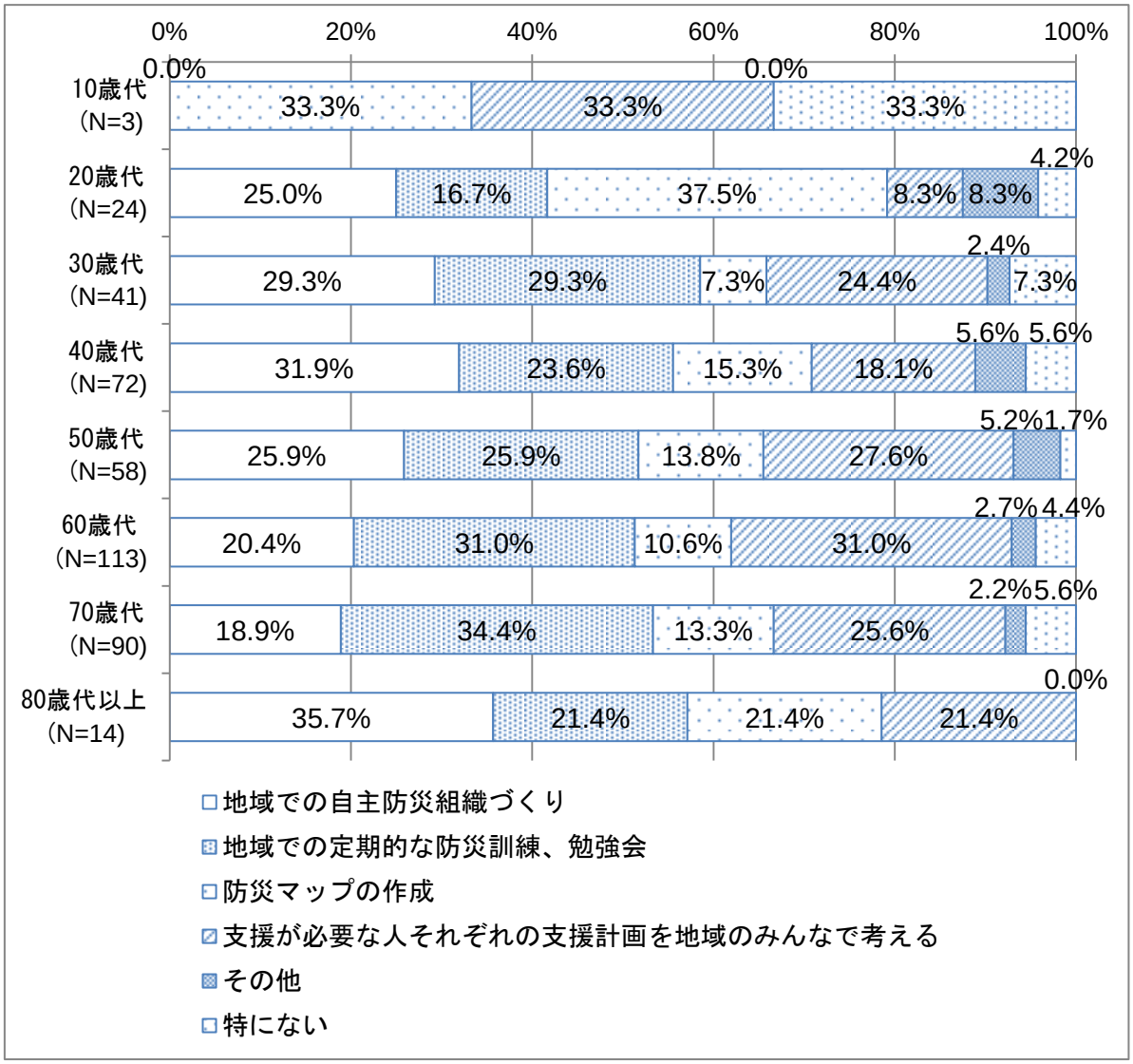


【その他の回答】

・普段からの付き合い　・役をする人への報酬　・大きな地震の場合の放送
・除雪　・日常生活の関わりあい




0%
20%
40%
60%
80%
100%
北条地区
(N=201)
26.4%
28.4%
11.4%
24.4%
3.5%
6.0%
大栄地区
(N=210)
22.9%
28.6%
16.2%
25.2%
3.8%
3.3%
地域での自主防災組織づくり
地域での定期的な防災訓練、勉強会
防災マップの作成
支援が必要な人それぞれの支援計画を地域のみんなで考える
その他
特にない

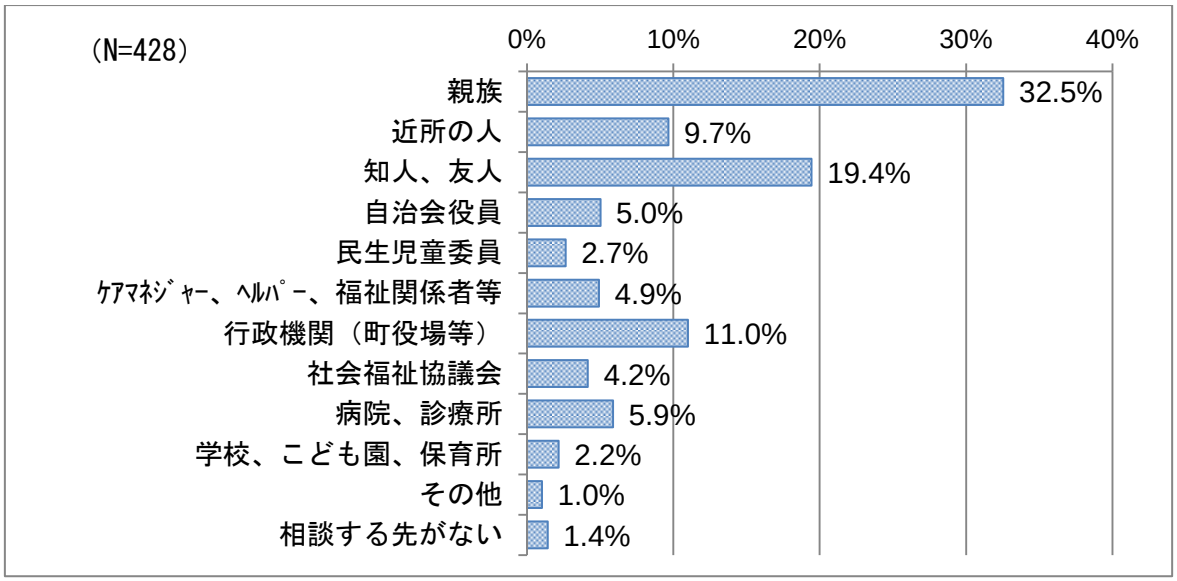

0%
20%
40%
60%
80%
100%
10歳代
(N=3)
0.0%
33.3%
33.3%
0.0%
33.3%
20歳代
(N=24)
25.0%
16.7%
37.5%
8.3%
8.3%
4.2%
30歳代
(N=41)
29.3%
29.3%
7.3%
24.4%
2.4%
7.3%
40歳代
(N=72)
31.9%
23.6%
15.3%
18.1%
5.6%
5.6%
50歳代
(N=58)
25.9%
25.9%
13.8%
27.6%
5.2%
1.7%
60歳代
(N=113)
20.4%
31.0%
10.6%
31.0%
2.7%
4.4%
70歳代
(N=90)
18.9%
34.4%
13.3%
25.6%
2.2%
5.6%
80歳代以上
(N=14)
35.7%
21.4%
21.4%
21.4%
0.0%
地域での自主防災組織づくり
地域での定期的な防災訓練、勉強会
防災マップの作成
支援が必要な人それぞれの支援計画を地域のみんなで考える
その他
特にない

５　地域福祉（住民による身近な支え合い）について

問１３　困った時や生活の問題を解決したい時、誰に相談しますか。（複数回答）

困った時等の相談先としては、地域の関係者よりも、「親族」「知人、友人」といった顔の見える関係の方（「親しい方」）が多い結果となっています。

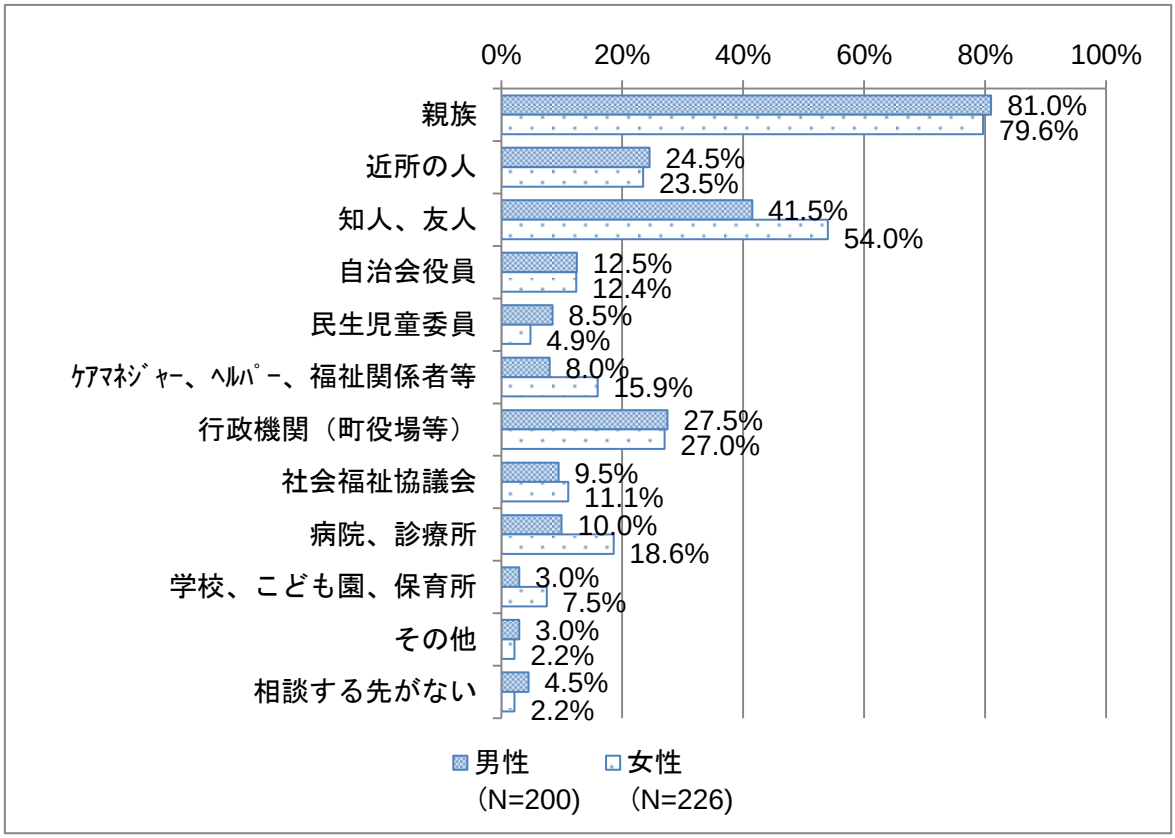
これに加え、今後、「近所の人」や「自治会役員」「民生児童委員」といった、顔の見える地域の人への相談の割合が高まれば、地域の中での問題の解決がより図れるようになり、地域福祉の充実につながる可能性があると考えられます。

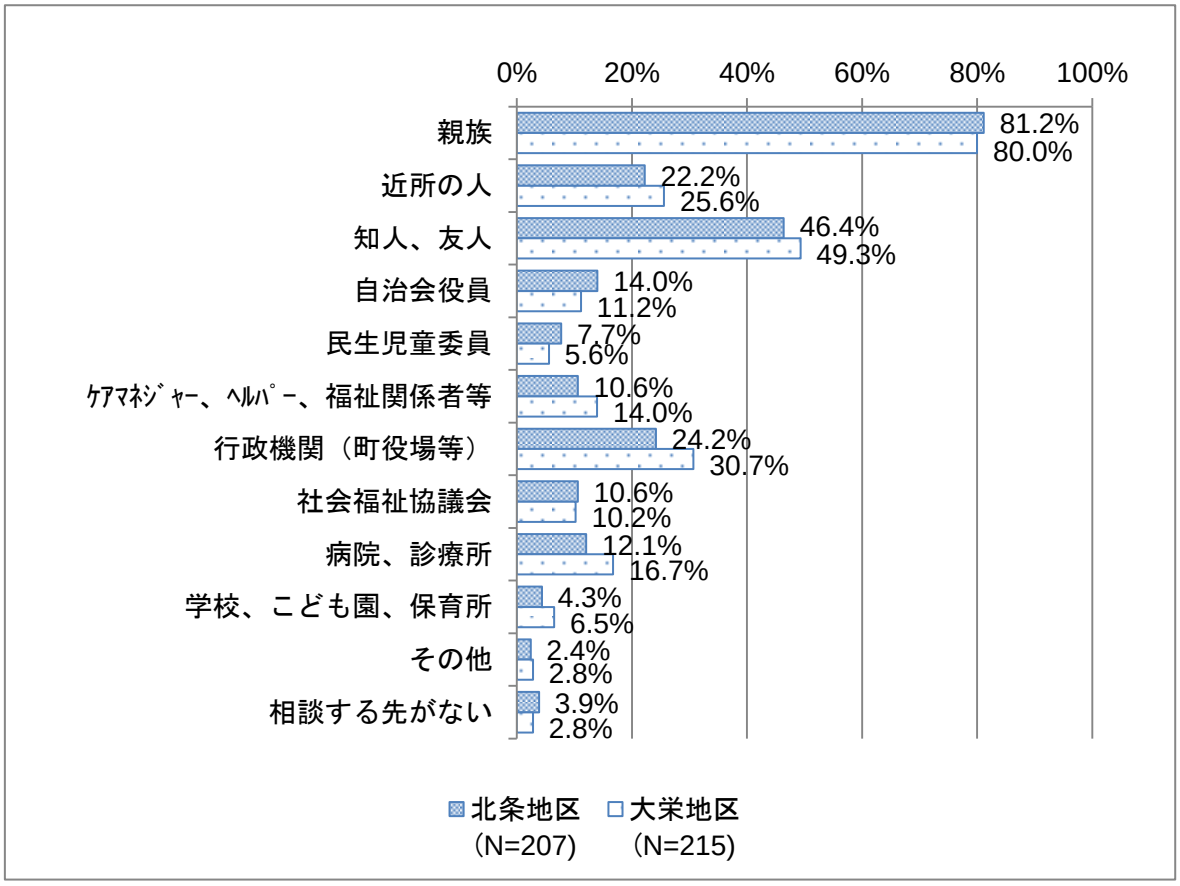


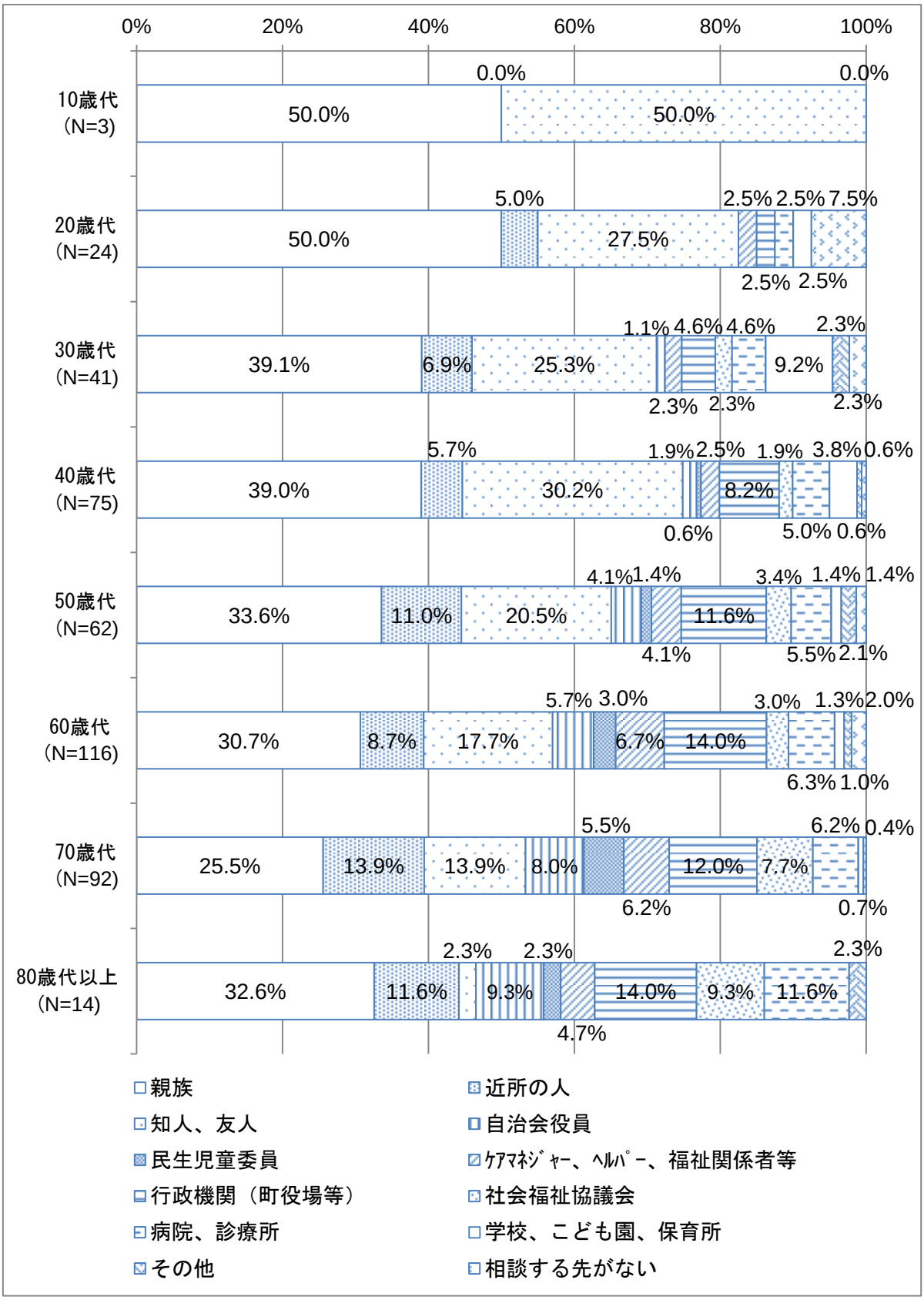
【その他の回答】

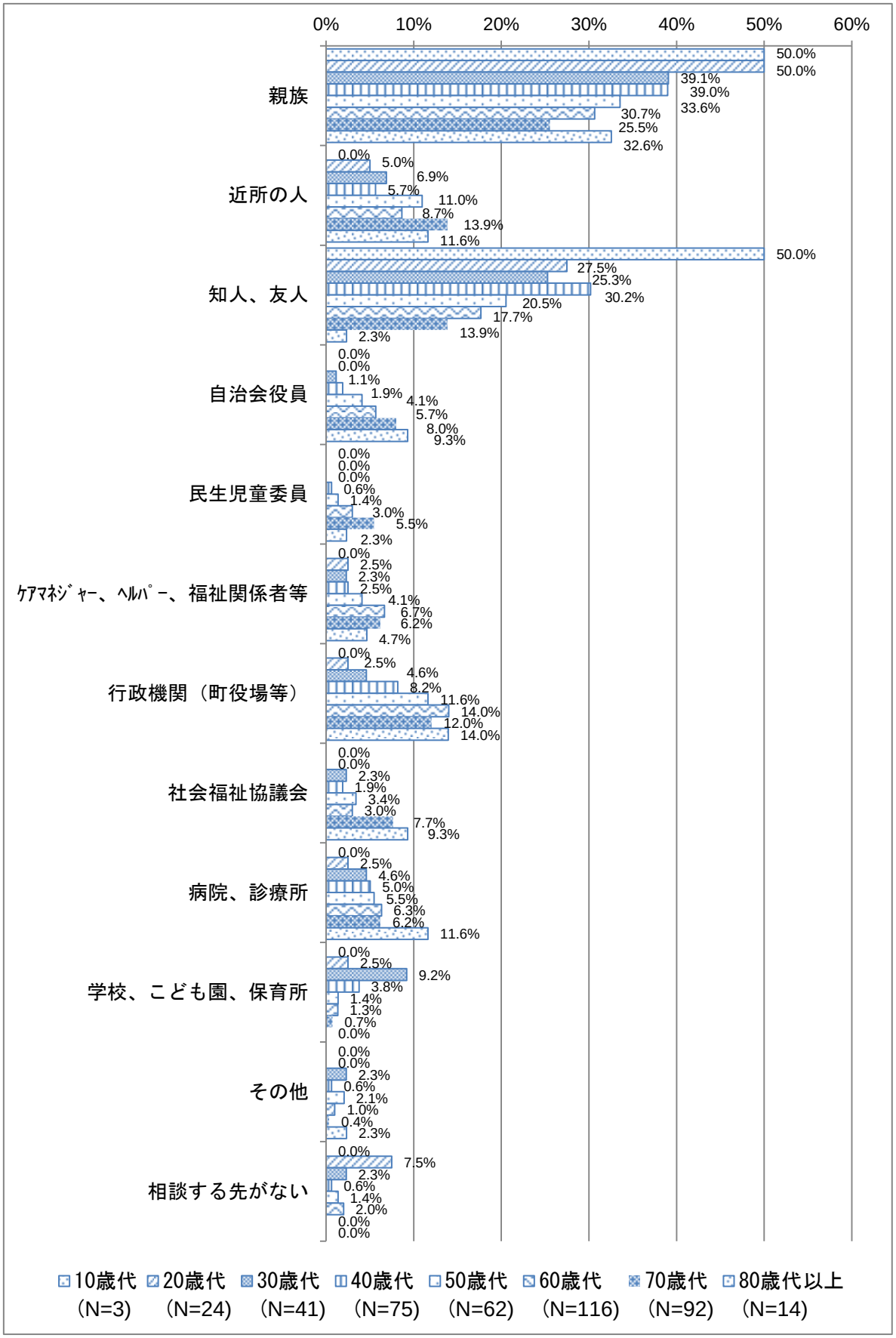
・弁護士等司法関係者　　・職場　　・インターネット　　・警察

・内容による


0%
20%
40%
60%
80%
100%
親族
81.0%
79.6%
近所の人
24.5%
23.5%
知人、友人
41.5%
54.0%
自治会役員
12.5%
12.4%
民生児童委員
8.5%
4.9%
ｹｱﾏﾈｼﾞｬｰ、ﾍﾙﾊﾟｰ、福祉関係者等
8.0%
15.9%
行政機関（町役場等）
27.5%
27.0%
社会福祉協議会
9.5%
11.1%
病院、診療所
10.0%
18.6%
学校、こども園、保育所
3.0%
7.5%
その他
3.0%
2.2%
相談する先がない
4.5%
2.2%
男性
(N=200)
女性
(N=226)


0%
20%
40%
60%
80%
100%
親族
81.2%
80.0%
近所の人
22.2%
25.6%
知人、友人
46.4%
49.3%
自治会役員
14.0%
11.2%
民生児童委員
7.7%
5.6%
ｹｱﾏﾈｼﾞｬｰ、ﾍﾙﾊﾟｰ、福祉関係者等
10.6%
14.0%
行政機関（町役場等）
24.2%
30.7%
社会福祉協議会
10.6%
10.2%
病院、診療所
12.1%
16.7%
学校、こども園、保育所
4.3%
6.5%
その他
2.4%
2.8%
相談する先がない
3.9%
2.8%
北条地区
(N=207)
大栄地区
(N=215)


0%
20%
40%
60%
80%
100%
10歳代
(N=3)
0.0%
0.0%
50.0%
50.0%
20歳代
(N=24)
5.0%
2.5%
2.5%
7.5%
50.0%
27.5%
2.5%
2.5%
30歳代
(N=41)
1.1%
4.6%
4.6%
2.3%
39.1%
6.9%
25.3%
9.2%
2.3%
2.3%
2.3%
40歳代
(N=75)
5.7%
1.9%
2.5%
1.9%
3.8%
0.6%
39.0%
30.2%
8.2%
0.6%
5.0%
0.6%
50歳代
(N=62)
4.1%
1.4%
3.4%
1.4%
1.4%
33.6%
11.0%
20.5%
11.6%
4.1%
5.5%
2.1%
60歳代
(N=116)
5.7%
3.0%
3.0%
1.3%
2.0%
30.7%
8.7%
17.7%
6.7%
14.0%
6.3%
1.0%
70歳代
(N=92)
5.5%
6.2%
0.4%
25.5%
13.9%
13.9%
8.0%
12.0%
7.7%
6.2%
0.7%
80歳代以上
(N=14)
2.3%
2.3%
2.3%
32.6%
11.6%
9.3%
14.0%
9.3%
11.6%
4.7%
親族
近所の人
知人、友人
自治会役員
民生児童委員
ｹｱﾏﾈｼﾞｬｰ、ﾍﾙﾊﾟｰ、福祉関係者等
行政機関（町役場等）
社会福祉協議会
病院、診療所
学校、こども園、保育所
その他
相談する先がない


0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
親族
50.0%
50.0%
39.1%
39.0%
33.6%
30.7%
25.5%
32.6%
近所の人
0.0%
5.0%
6.9%
5.7%
11.0%
8.7%
13.9%
11.6%
知人、友人
50.0%
27.5%
25.3%
30.2%
20.5%
17.7%
13.9%
2.3%
自治会役員
0.0%
0.0%
1.1%
1.9%
4.1%
5.7%
8.0%
9.3%
民生児童委員
0.0%
0.0%
0.0%
0.6%
1.4%
3.0%
5.5%
2.3%
ｹｱﾏﾈｼﾞｬｰ、ﾍﾙﾊﾟｰ、福祉関係者等
0.0%
2.5%
2.3%
2.5%
4.1%
6.7%
6.2%
4.7%
行政機関（町役場等）
0.0%
2.5%
4.6%
8.2%
11.6%
14.0%
12.0%
14.0%
社会福祉協議会
0.0%
0.0%
2.3%
1.9%
3.4%
3.0%
7.7%
9.3%
病院、診療所
0.0%
2.5%
4.6%
5.0%
5.5%
6.3%
6.2%
11.6%
学校、こども園、保育所
0.0%
2.5%
9.2%
3.8%
1.4%
1.3%
0.7%
0.0%
その他
0.0%
0.0%
2.3%
0.6%
2.1%
1.0%
0.4%
2.3%
相談する先がない
0.0%
7.5%
2.3%
0.6%
1.4%
2.0%
0.0%
0.0%
10歳代 (N=3)
20歳代 (N=24)
30歳代 (N=41)
40歳代 (N=75)
50歳代 (N=62)
60歳代 (N=116)
70歳代 (N=92)
80歳代以上 (N=14)

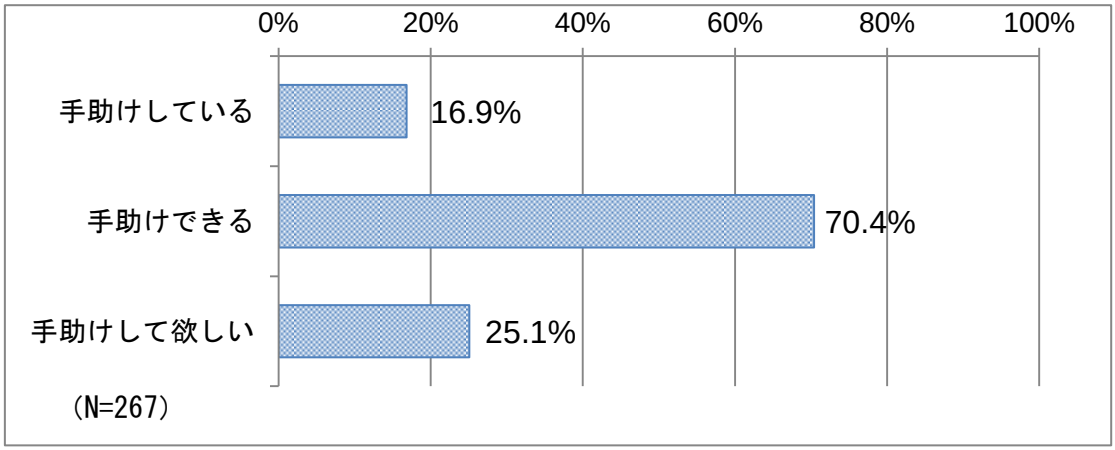
問１４　近所（班等）に住む一人暮らし高齢者、高齢者世帯、障がいのある人、子育て中の家族などで、困っている人がいる場合、「①現在、手助けしていること」「②今後、手助けできると思うこと」「③現在又は将来、あなた自身が手助けして欲しいと思うこと」はありますか。（複数回答）

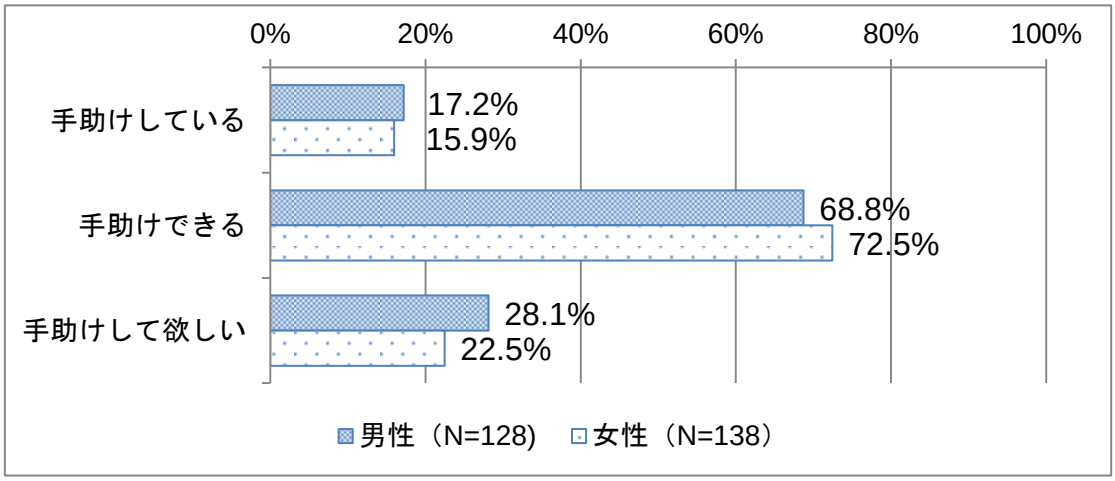
「安否確認、話し相手」、「ちょっとした支援」、「子どもの預かり、送迎」、「通院、外出の支援」、「相談」のどの項目においても、「手助けできる」と回答した方の割合が高く、活動への潜在的な意識の高さがうかがえます。このことは、北栄町の大切な「資源」の一つであると言えます。

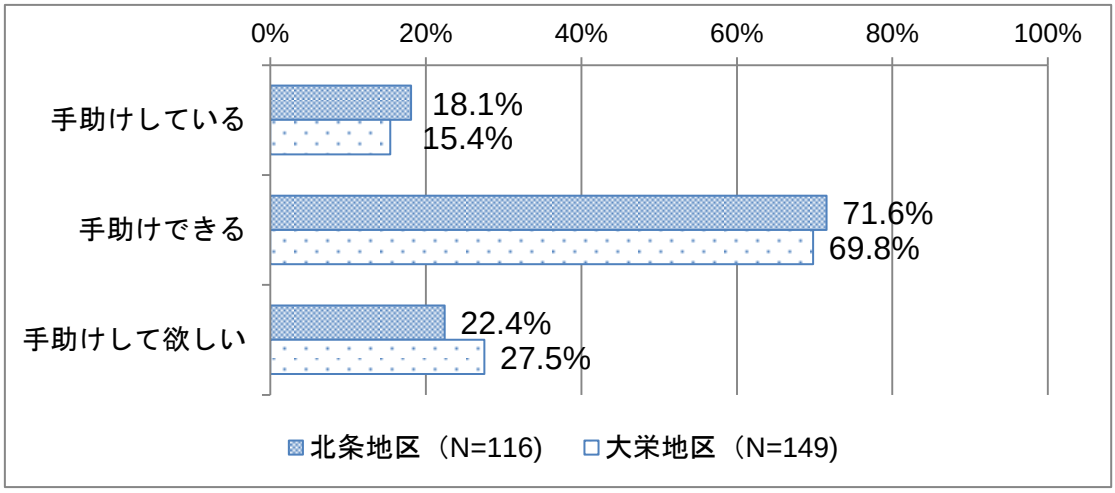
一方で、実際に「手助けしている」割合は低く、「手助けして欲しい」と回答している割合とのバランスが取れていないため、これらの「手助けできる」の割合を、実際に「手助けしている」に転換していくための取組が必要です。

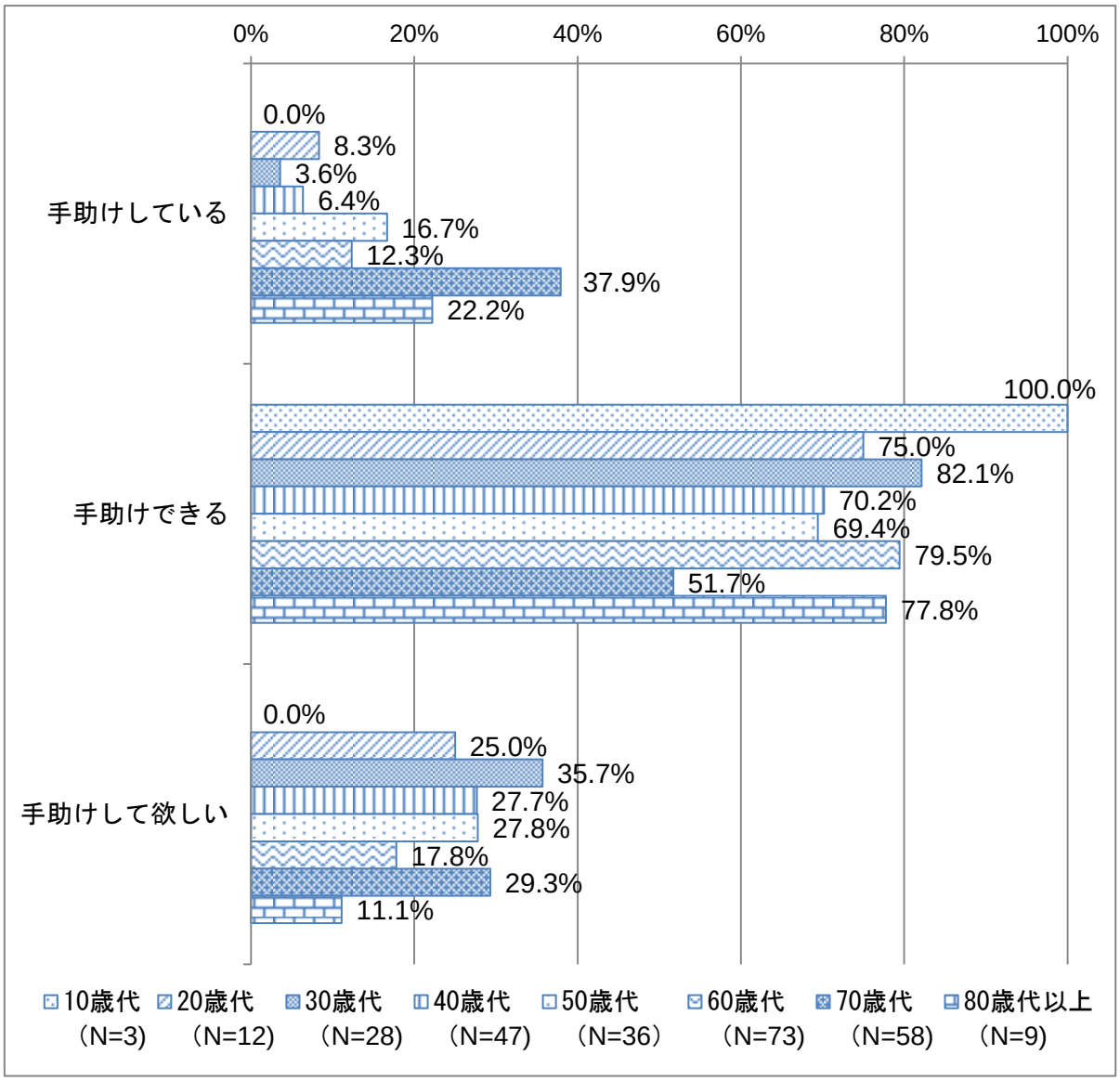
また、気軽に手助けを依頼できるように、「頼みやすさ」「信頼感」など関係性にも注目した取組が必要であると考えられます。

■安否確認の声かけ、話し相手

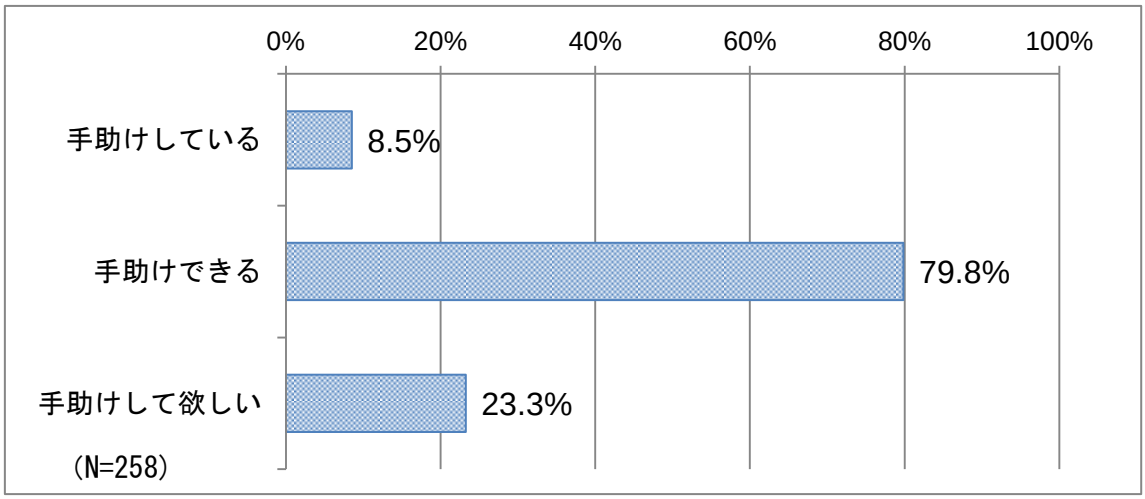


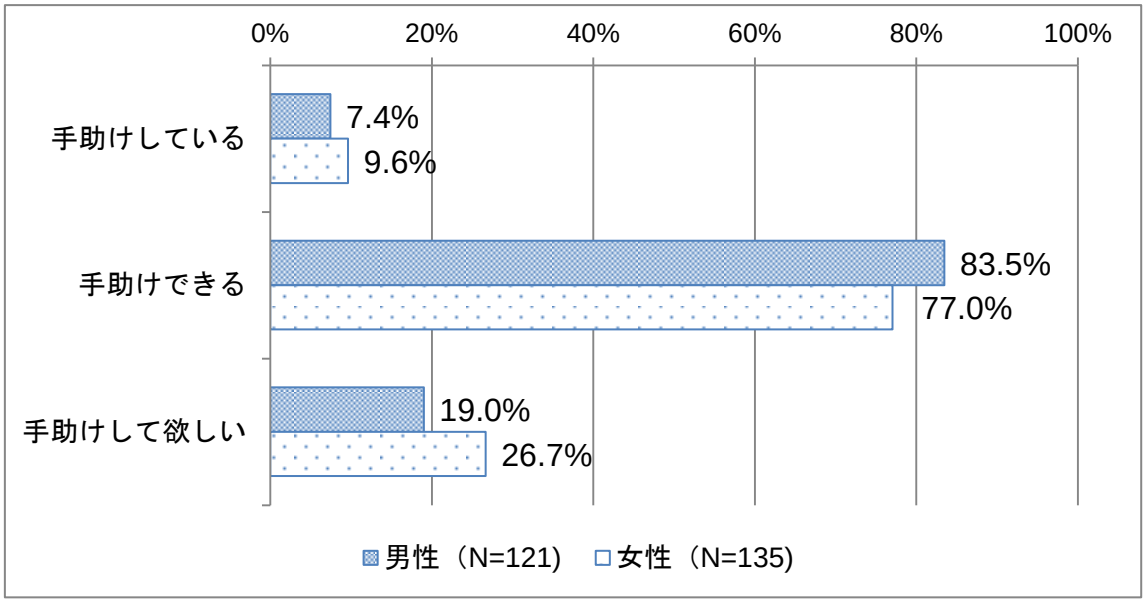


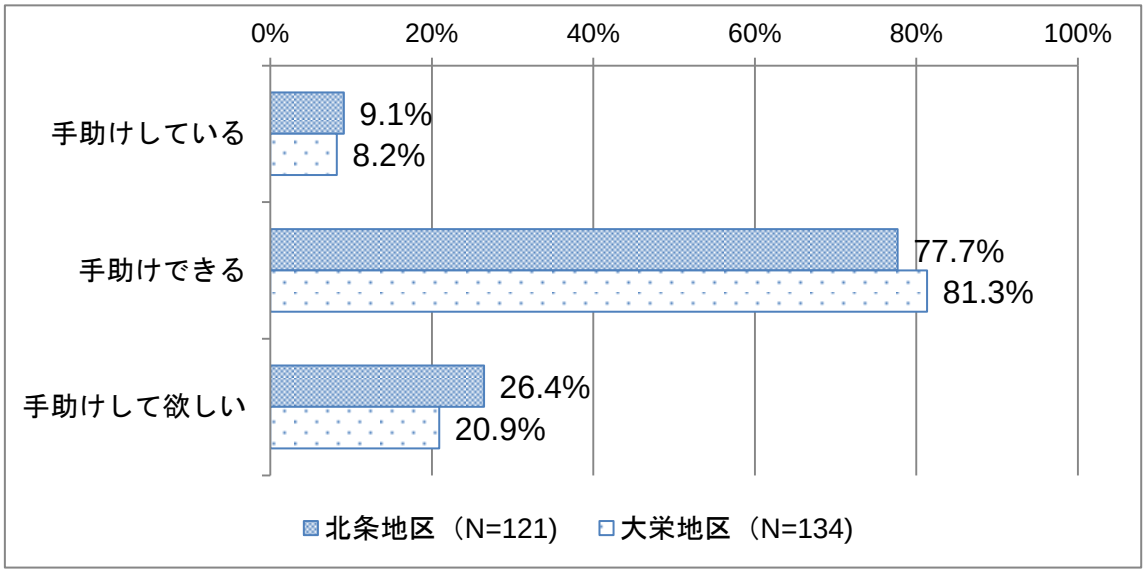

0%
20%
40%
60%
80%
100%
手助けしている
18.1%
15.4%
手助けできる
71.6%
69.8%
手助けして欲しい
22.4%
27.5%
北条地区（N=116）
大栄地区（N=149）

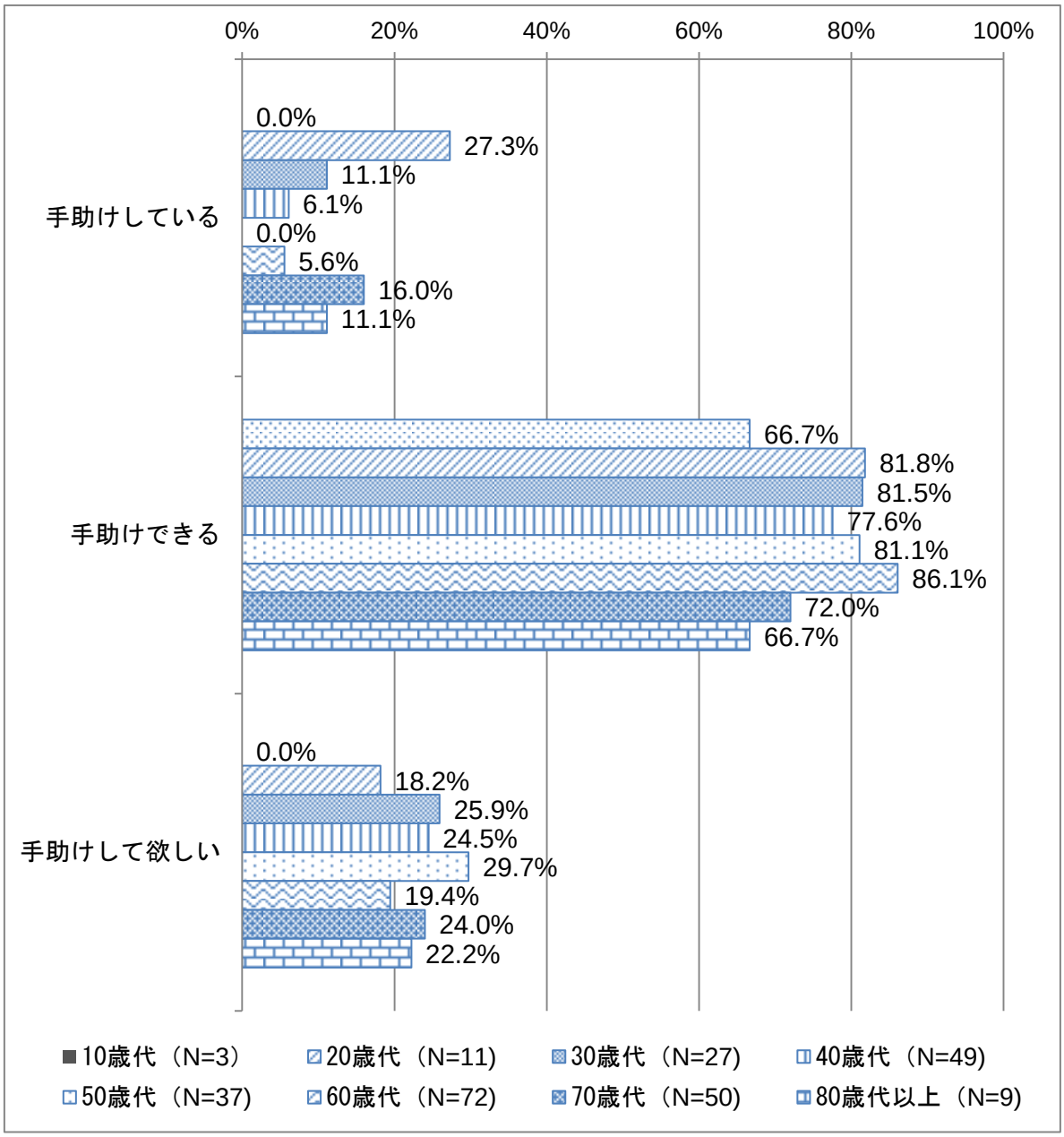

0%
20%
40%
60%
80%
100%
手助けしている
0.0%
8.3%
3.6%
6.4%
16.7%
12.3%
37.9%
22.2%
手助けできる
100.0%
75.0%
82.1%
70.2%
69.4%
79.5%
51.7%
77.8%
手助けして欲しい
0.0%
25.0%
35.7%
27.7%
27.8%
17.8%
29.3%
11.1%
10歳代（N=3）
20歳代（N=12）
30歳代（N=28）
40歳代（N=47）
50歳代（N=36）
60歳代（N=73）
70歳代（N=58）
80歳代以上（N=9）

■ちょっとした電球の取り替えや買い物、ゴミだしなど

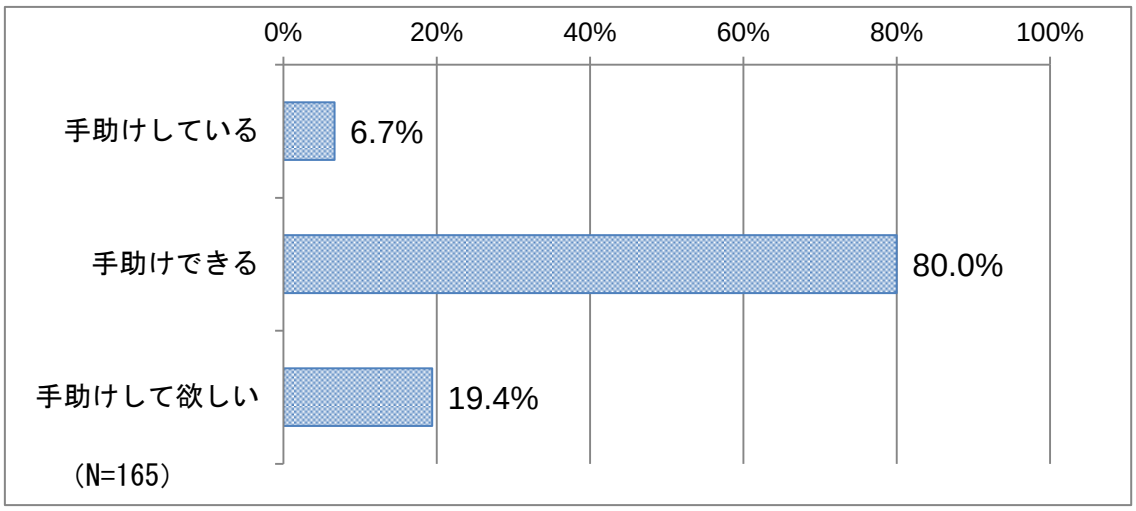


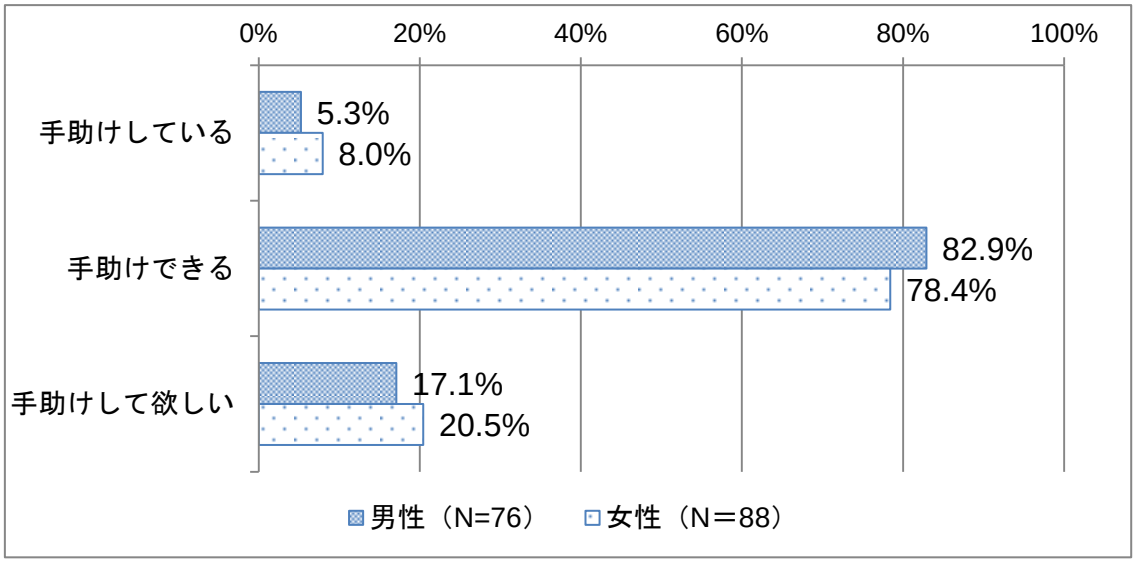


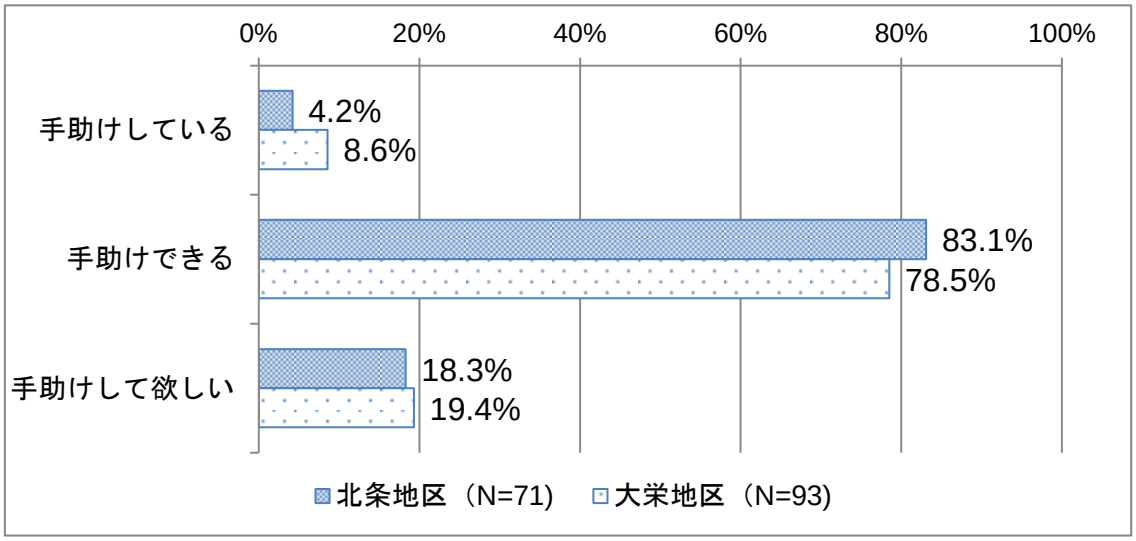


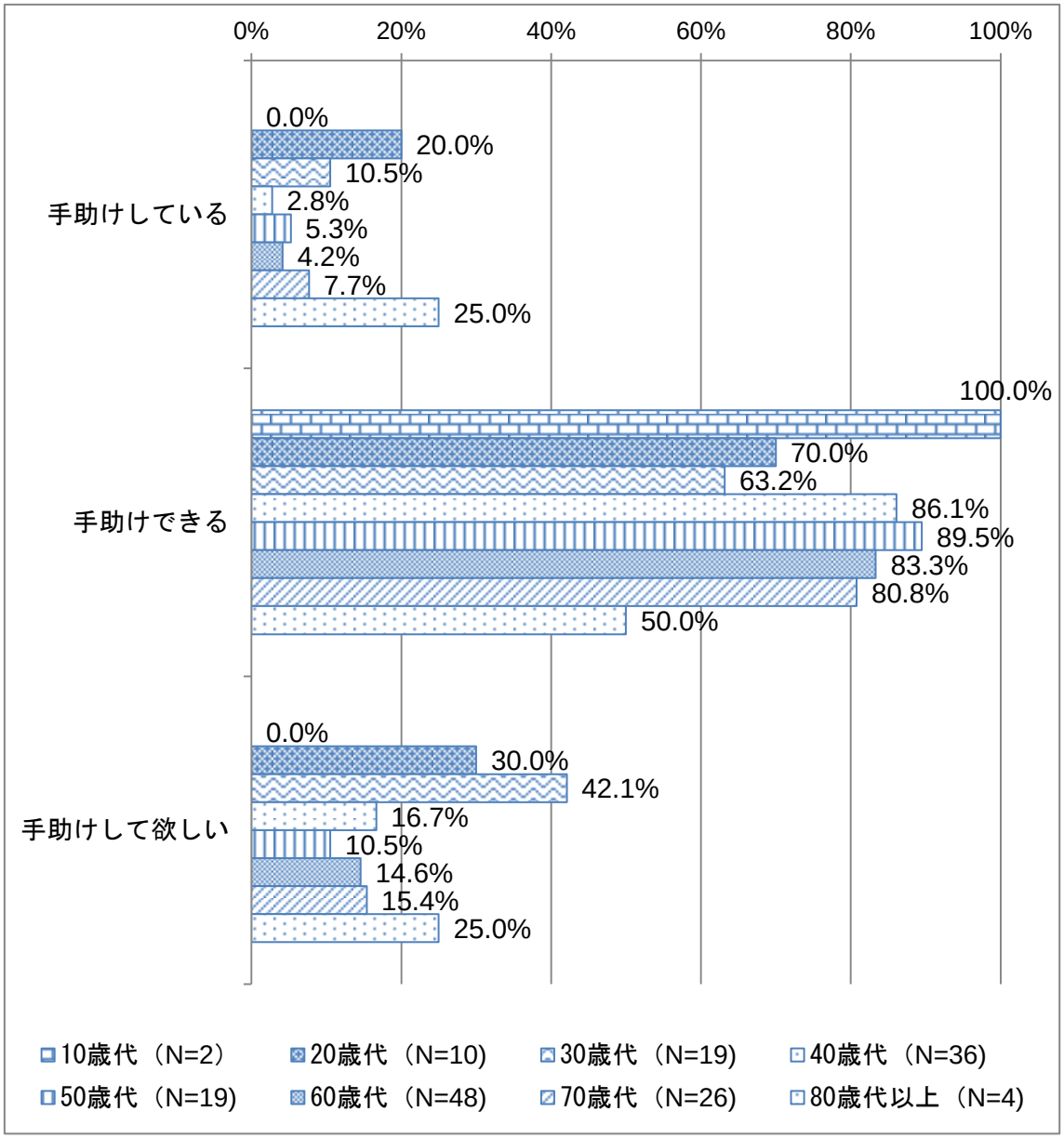

0%
20%
40%
60%
80%
100%
手助けしている
0.0%
27.3%
11.1%
6.1%
0.0%
5.6%
16.0%
11.1%
手助けできる
66.7%
81.8%
81.5%
77.6%
81.1%
86.1%
72.0%
66.7%
手助けして欲しい
0.0%
18.2%
25.9%
24.5%
29.7%
19.4%
24.0%
22.2%
10歳代（N=3）
20歳代（N=11）
30歳代（N=27）
40歳代（N=49）
50歳代（N=37）
60歳代（N=72）
70歳代（N=50）
80歳代以上（N=9）

■子どもの一時預かりや保育園等の送迎

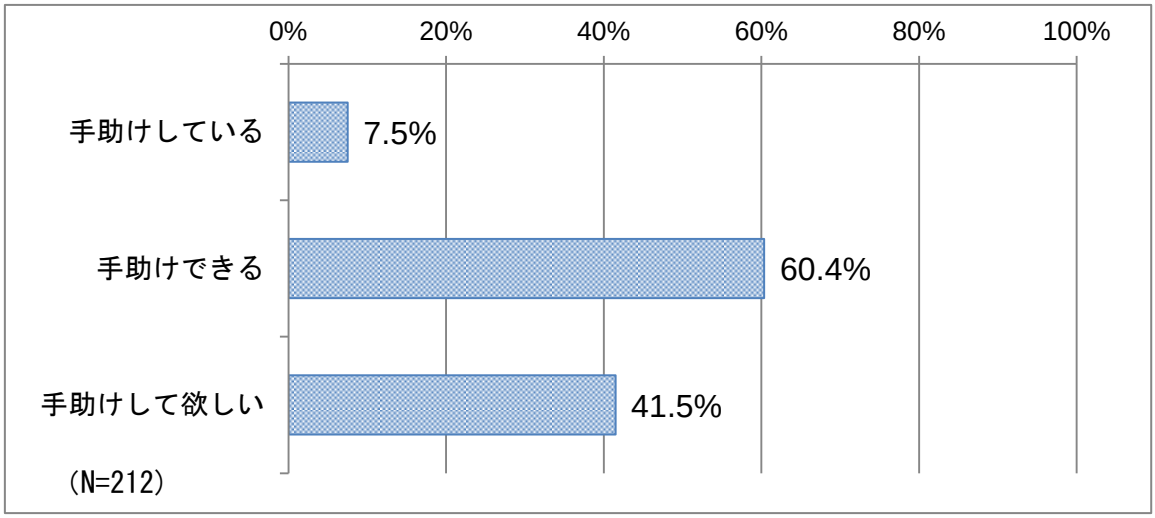


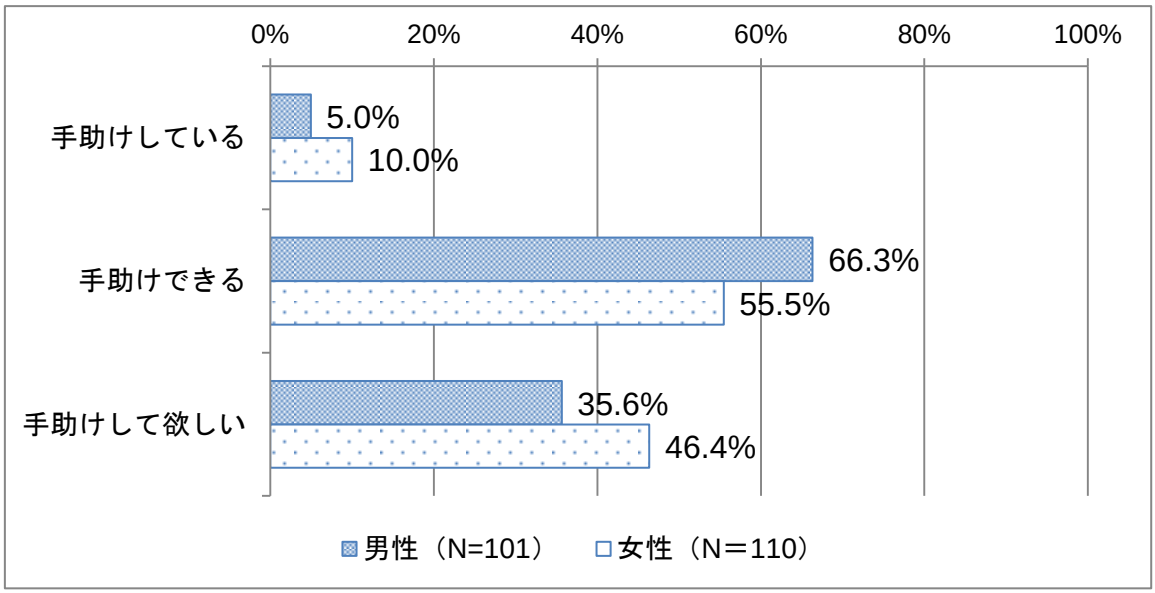


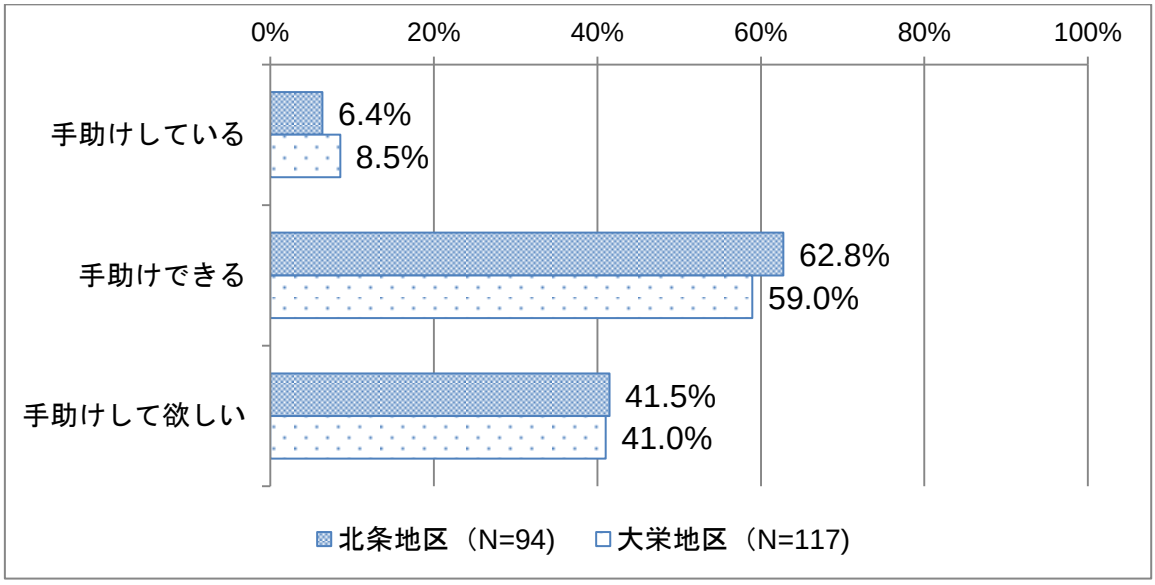


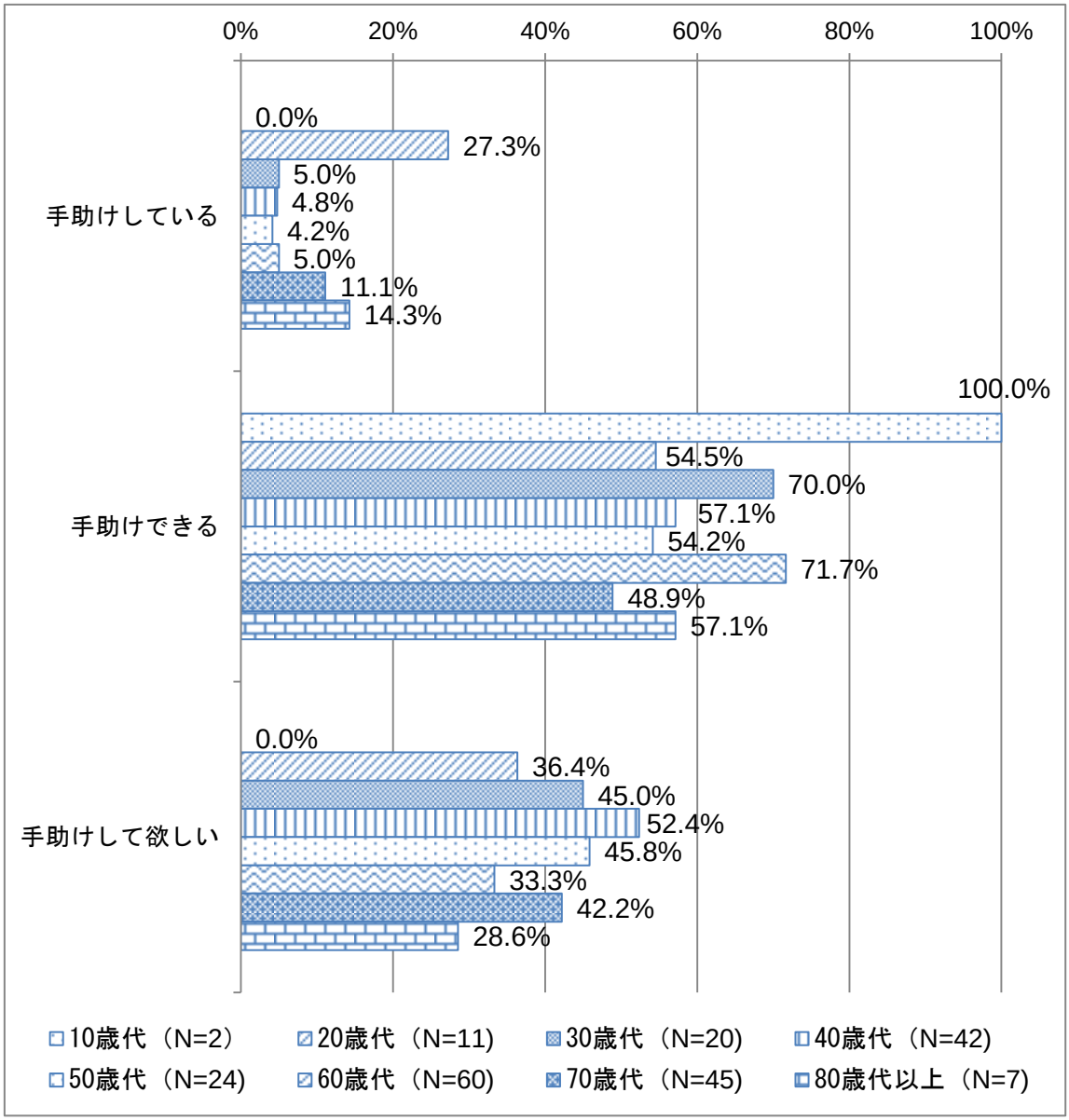

0%
20%
40%
60%
80%
100%
手助けしている
0.0%
20.0%
10.5%
2.8%
5.3%
4.2%
7.7%
25.0%
手助けできる
100.0%
70.0%
63.2%
86.1%
89.5%
83.3%
80.8%
50.0%
手助けして欲しい
0.0%
30.0%
42.1%
16.7%
10.5%
14.6%
15.4%
25.0%
10歳代（N=2）
20歳代（N=10）
30歳代（N=19）
40歳代（N=36）
50歳代（N=19）
60歳代（N=48）
70歳代（N=26）
80歳代以上（N=4）

■通院の送迎や外出の支援

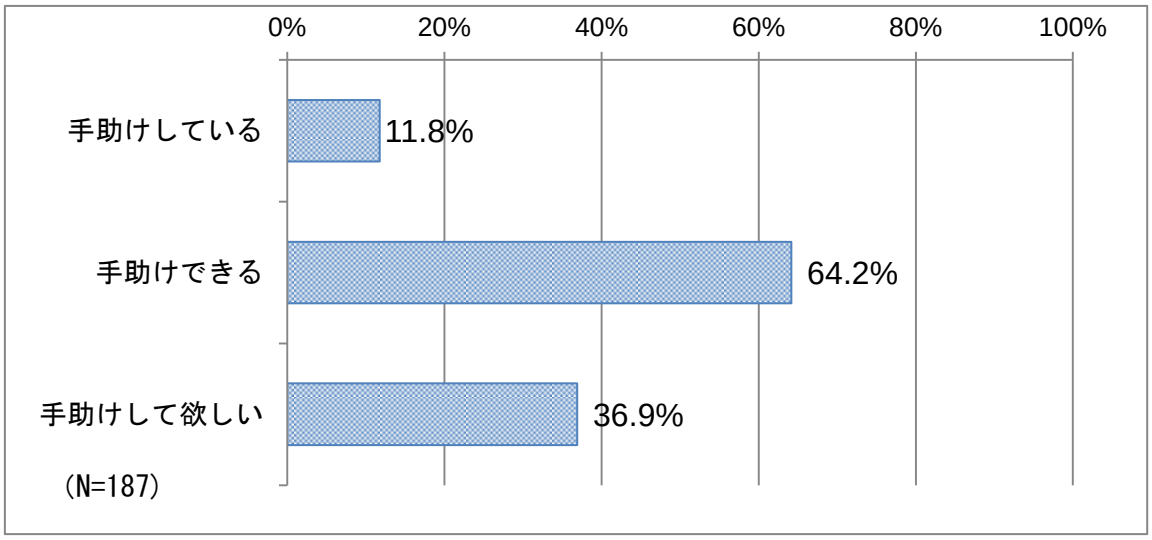


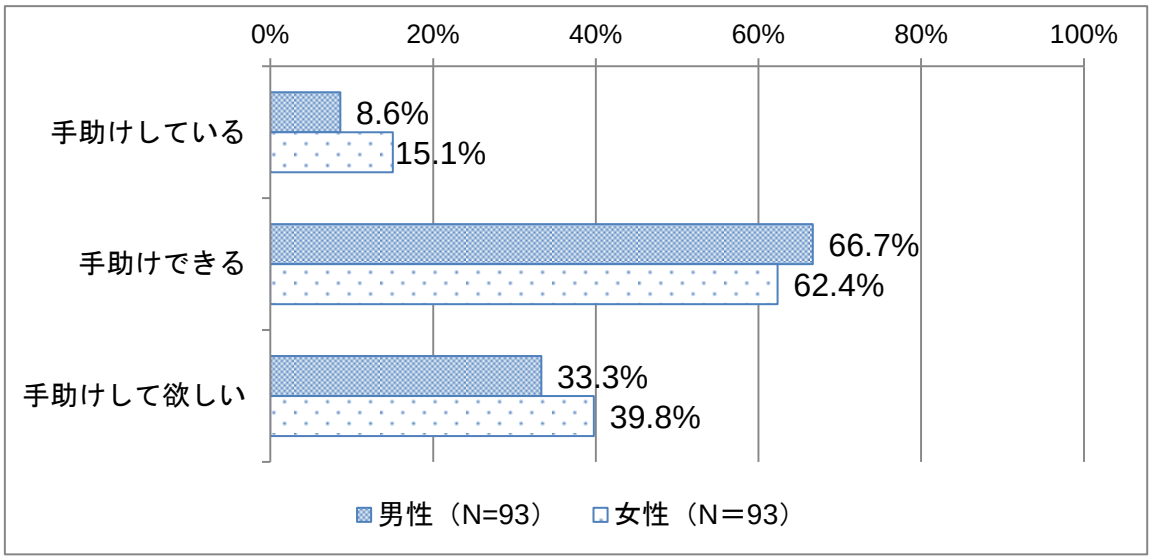


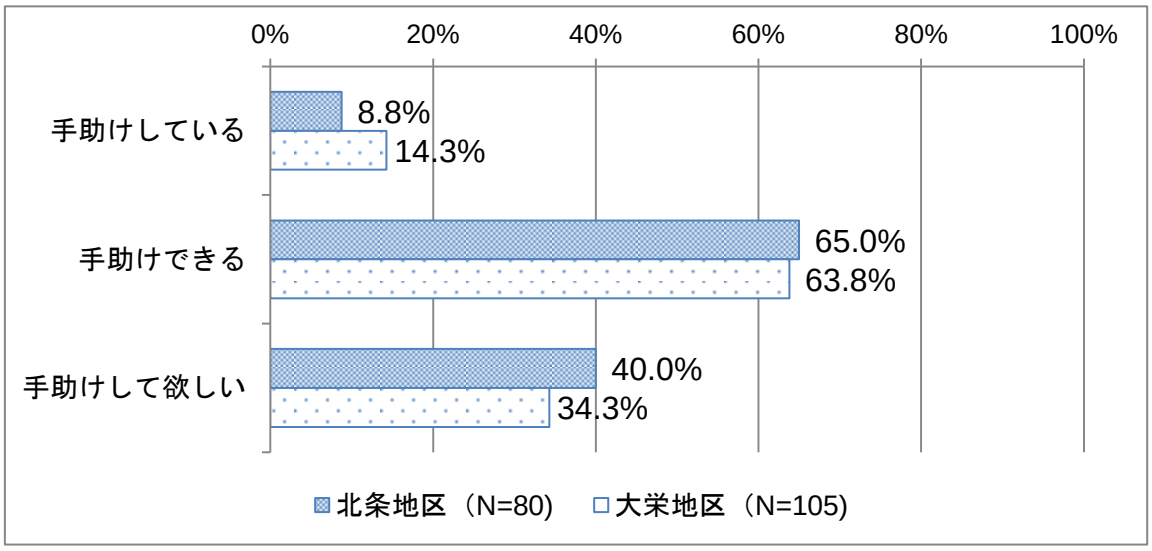


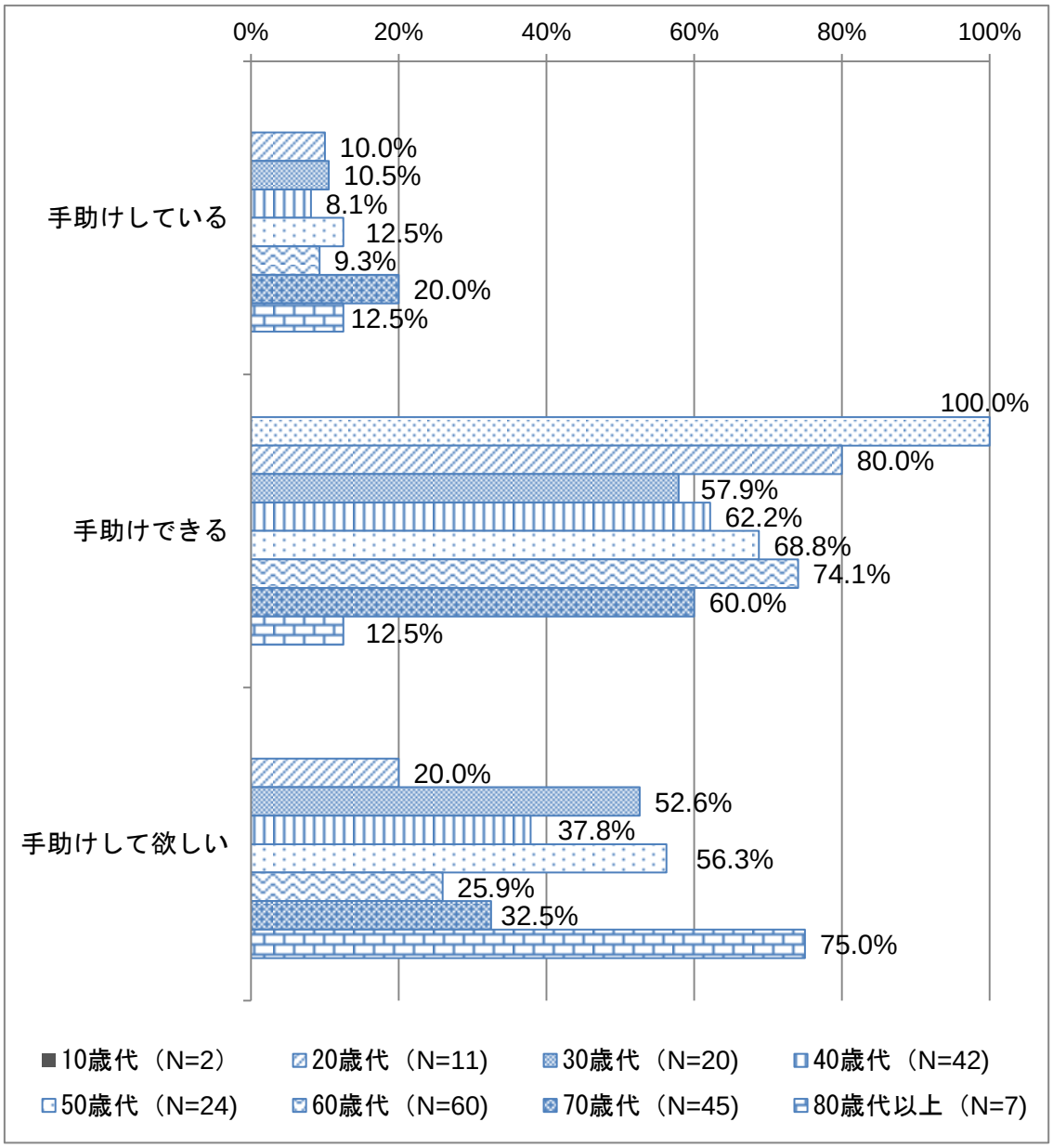

0%
20%
40%
60%
80%
100%
手助けしている
0.0%
27.3%
5.0%
4.8%
4.2%
5.0%
11.1%
14.3%
手助けできる
100.0%
54.5%
70.0%
57.1%
54.2%
71.7%
48.9%
57.1%
手助けして欲しい
0.0%
36.4%
45.0%
52.4%
45.8%
33.3%
42.2%
28.6%
10歳代（N=2）
20歳代（N=11）
30歳代（N=20）
40歳代（N=42）
50歳代（N=24）
60歳代（N=60）
70歳代（N=45）
80歳代以上（N=7）

■悩み事、心配ごとの相談

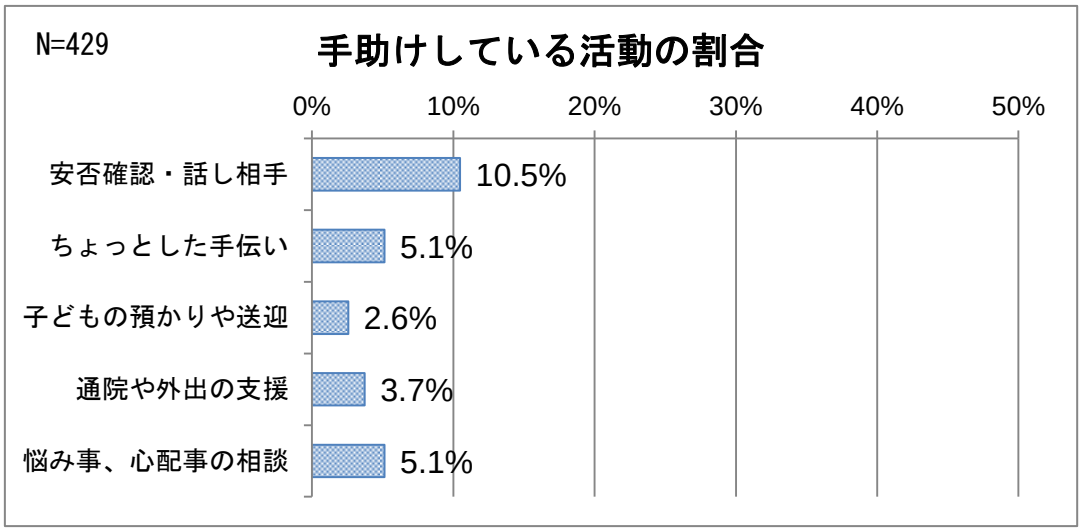

0%
20%
40%
60%
80%
100%
手助けしている
11.8%
手助けできる
64.2%
手助けして欲しい
36.9%
(N=187)

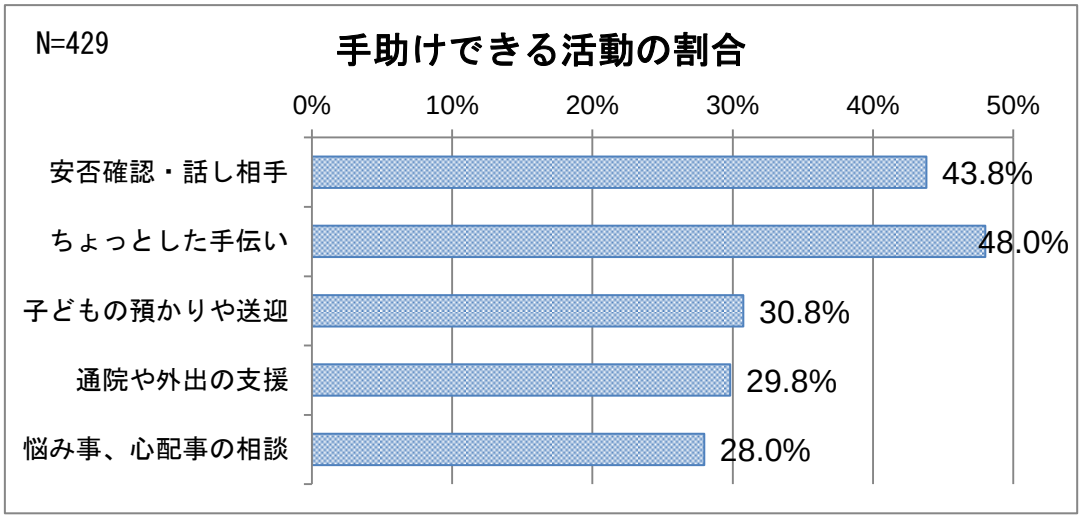

0%
20%
40%
60%
80%
100%
手助けしている
8.6%
15.1%
手助けできる
66.7%
62.4%
手助けして欲しい
33.3%
39.8%
男性（N=93）
女性（N＝93）

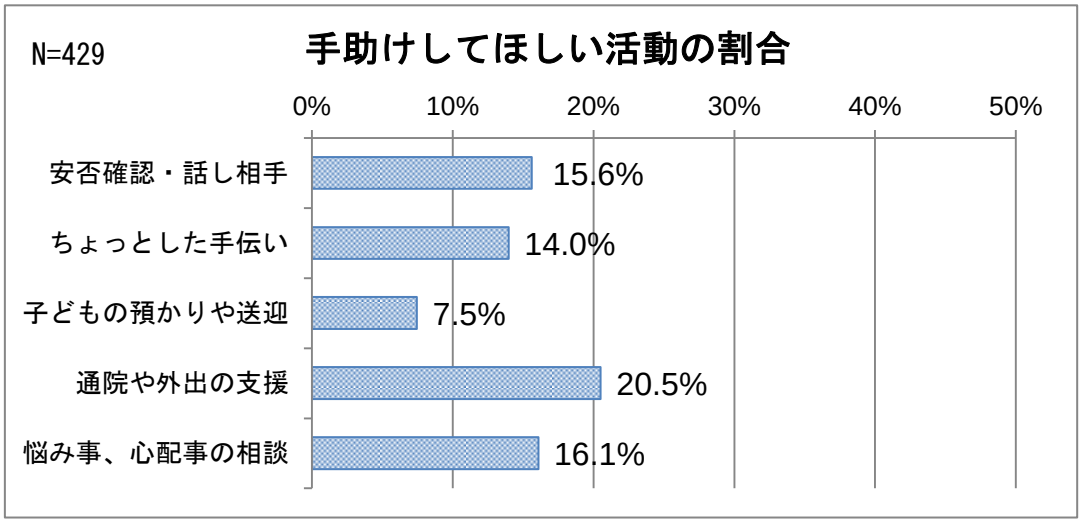

0%
20%
40%
60%
80%
100%
手助けしている
8.8%
14.3%
手助けできる
65.0%
63.8%
手助けして欲しい
40.0%
34.3%
北条地区（N=80)
大栄地区（N=105)

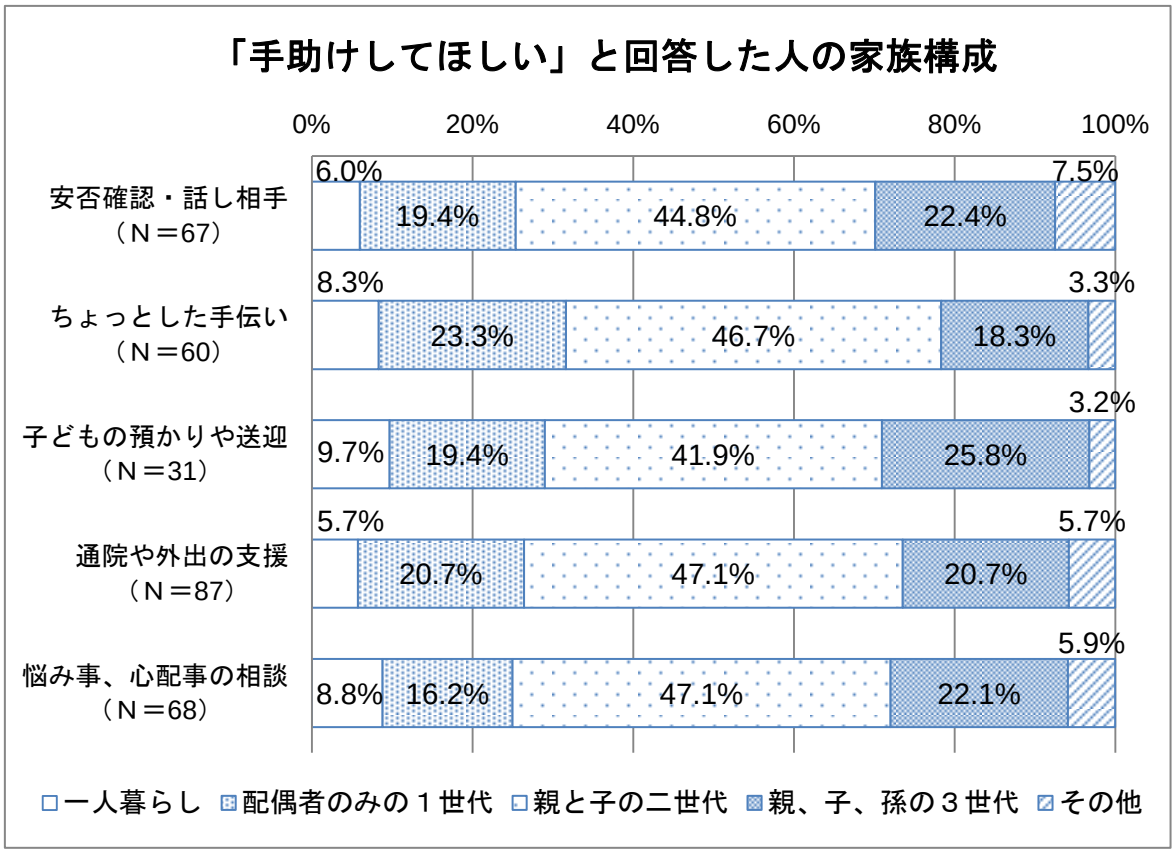

0%
20%
40%
60%
80%
100%
手助けしている
10.0%
10.5%
8.1%
12.5%
9.3%
20.0%
12.5%
手助けできる
100.0%
80.0%
57.9%
62.2%
68.8%
74.1%
60.0%
12.5%
手助けして欲しい
20.0%
52.6%
37.8%
56.3%
25.9%
32.5%
75.0%
10歳代（N=2）
20歳代（N=11）
30歳代（N=20）
40歳代（N=42）
50歳代（N=24）
60歳代（N=60）
70歳代（N=45）
80歳代以上（N=7）

（参考：Ｎ＝429 とした割合）





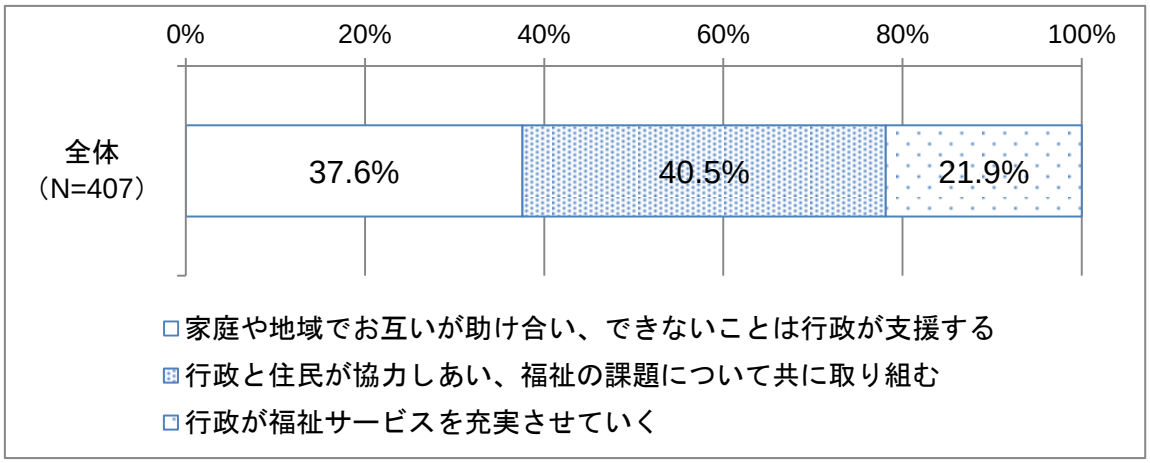


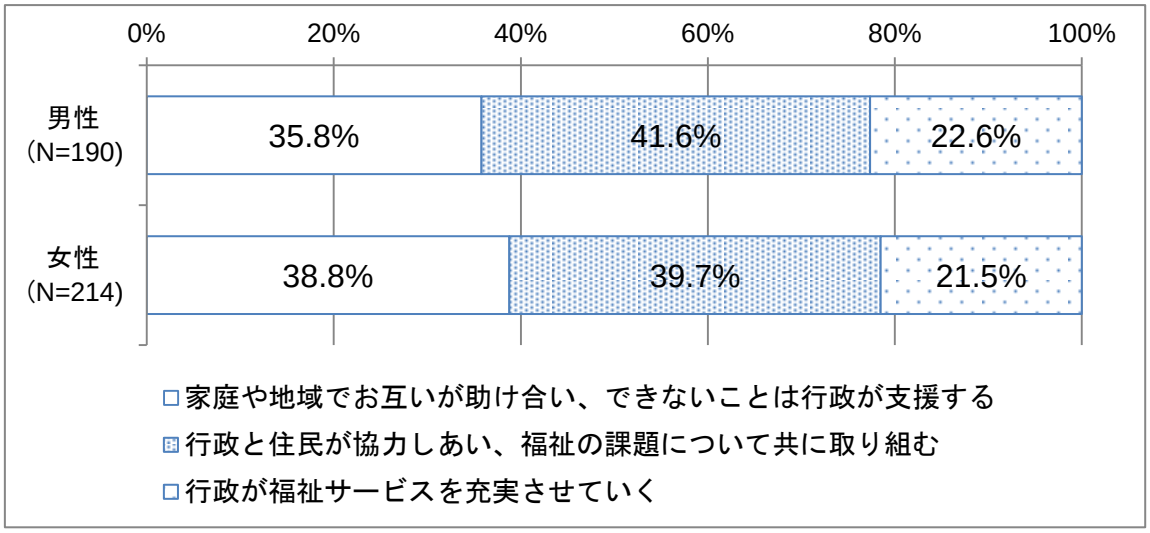


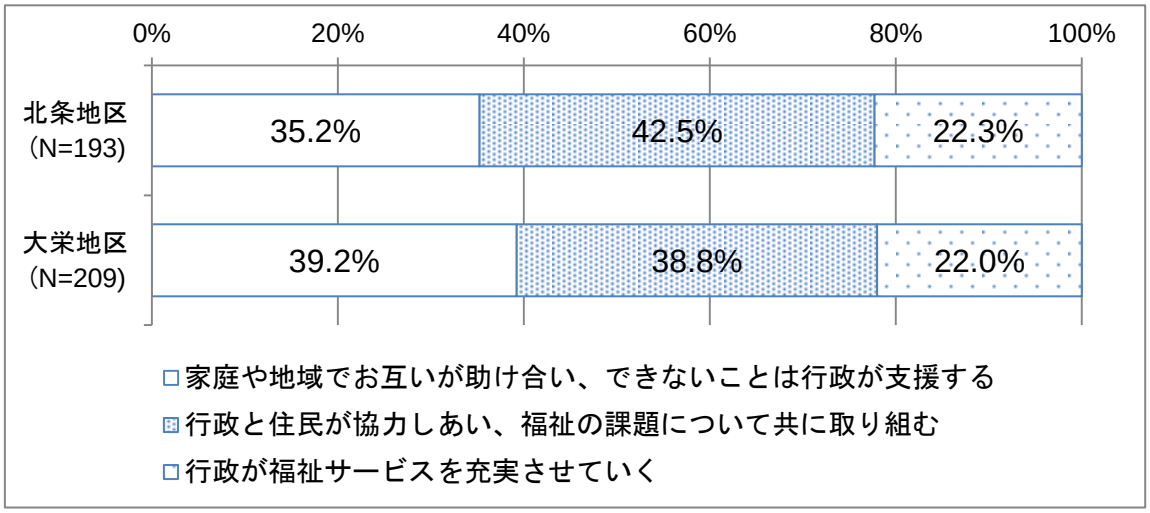
問１５　地域福祉（＝住民による身近な支え合い）を充実させていくうえで、行政と地域住民の関係について、考えが最も近いものをお選びください。

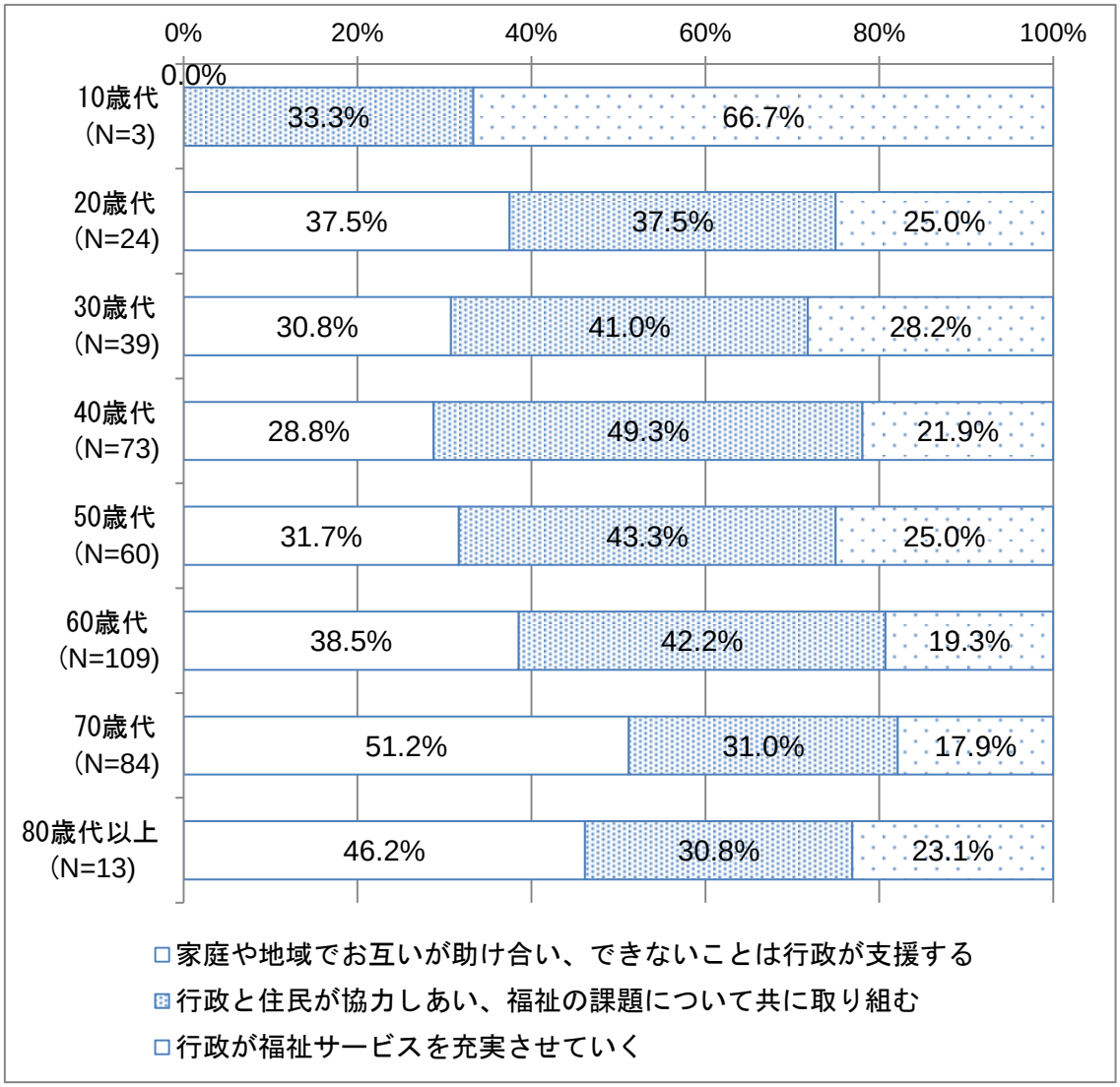
地域福祉を充実させるためには、地域と行政が「役割分担」、または「協力して取り組む」と回答した割合が約８割となっています。このことは性別や地区別でみても同じような傾向となっており、どちらか一方だけでなく、両者が関わってすすめていくという意識であることが考えられます。

年代別にみると、年代があがるにつれ「家庭や地域で助け合い、できないことは行政が支援」の割合が比較的高まるのに対し、特に 60 代、70 代は「行政が福祉サービスを充実」の割合が低くなっています。60 代になると自治会運営の中心になることが多く、地域での活動機会の増加と地域に対する意識の変化が生じていることも考えられます。


0%
20%
40%
60%
80%
100%
全体
（N=407）
37.6%
40.5%
21.9%
家庭や地域でお互いが助け合い、できないことは行政が支援する
行政と住民が協力しあい、福祉の課題について共に取り組む
行政が福祉サービスを充実させていく

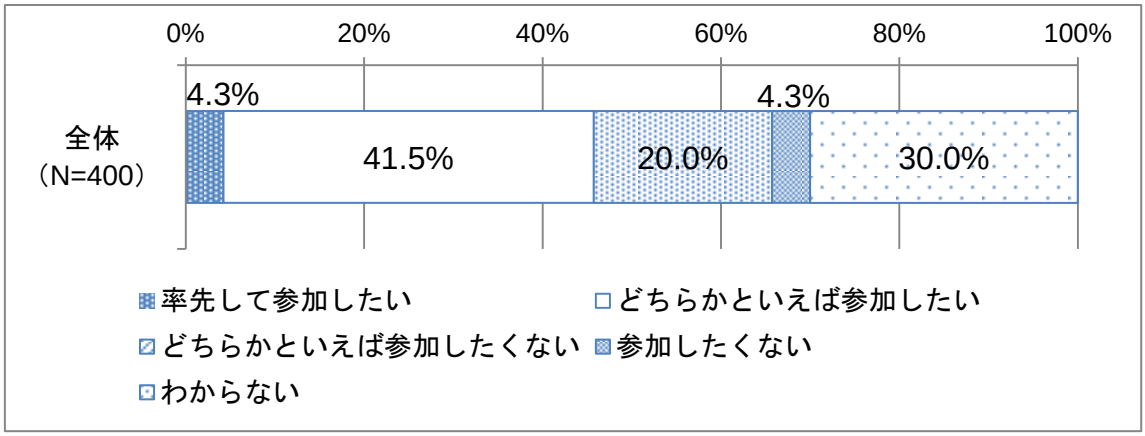

0%
20%
40%
60%
80%
100%
男性
(N=190)
35.8%
41.6%
22.6%
女性
(N=214)
38.8%
39.7%
21.5%
家庭や地域でお互いが助け合い、できないことは行政が支援する
行政と住民が協力しあい、福祉の課題について共に取り組む
行政が福祉サービスを充実させていく

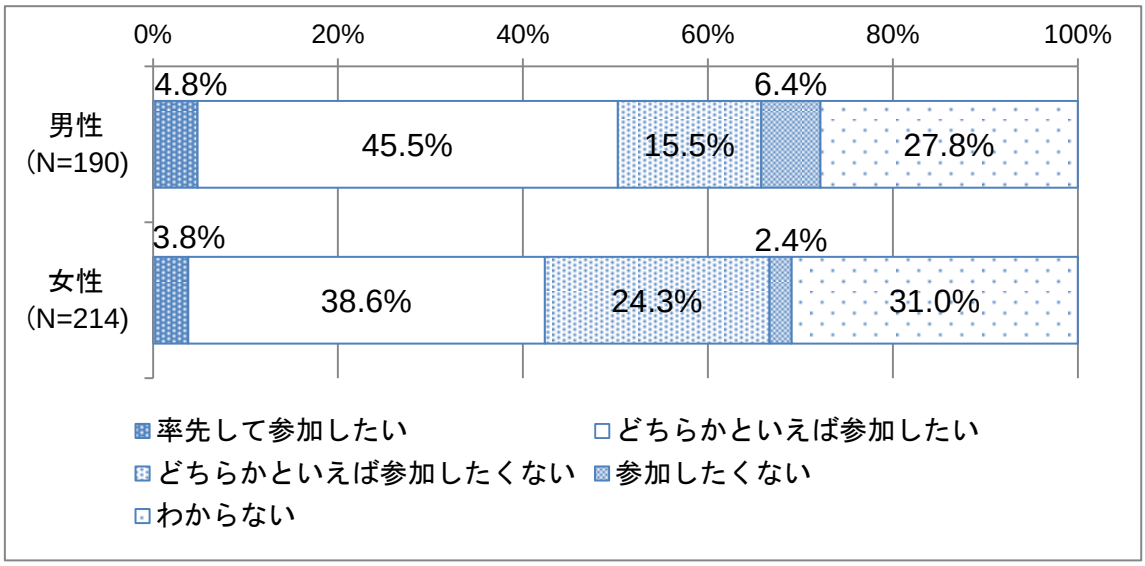

0%
20%
40%
60%
80%
100%
北条地区
(N=193)
35.2%
42.5%
22.3%
大栄地区
(N=209)
39.2%
38.8%
22.0%
家庭や地域でお互いが助け合い、できないことは行政が支援する
行政と住民が協力しあい、福祉の課題について共に取り組む
行政が福祉サービスを充実させていく

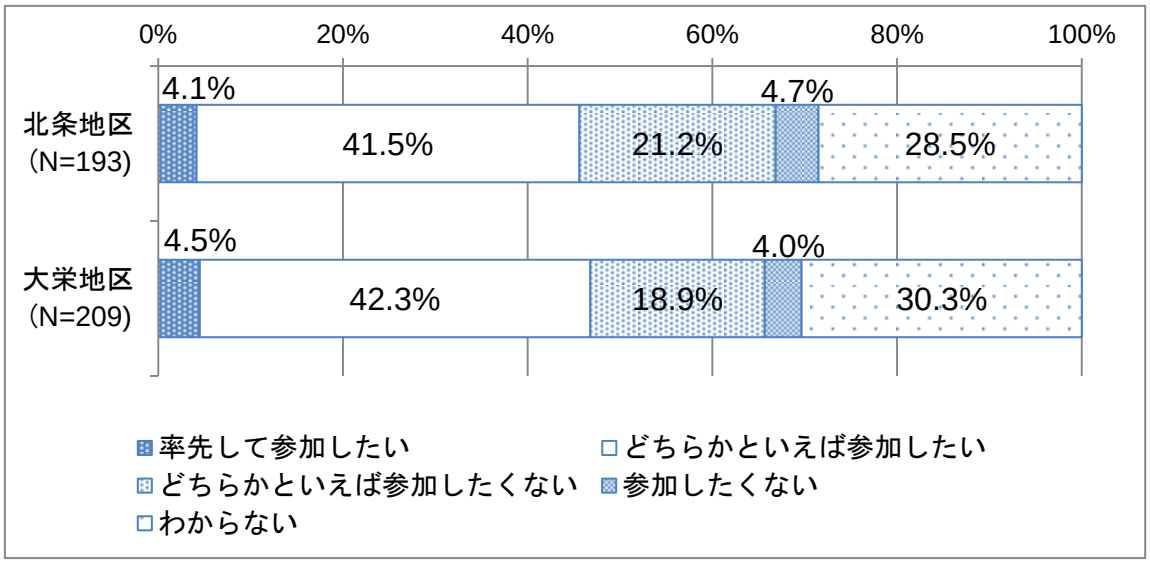

0%
20%
40%
60%
80%
100%
10歳代 (N=3)
0.0%
33.3%
66.7%
20歳代 (N=24)
37.5%
37.5%
25.0%
30歳代 (N=39)
30.8%
41.0%
28.2%
40歳代 (N=73)
28.8%
49.3%
21.9%
50歳代 (N=60)
31.7%
43.3%
25.0%
60歳代 (N=109)
38.5%
42.2%
19.3%
70歳代 (N=84)
51.2%
31.0%
17.9%
80歳代以上 (N=13)
46.2%
30.8%
23.1%
家庭や地域でお互いが助け合い、できないことは行政が支援する
行政と住民が協力しあい、福祉の課題について共に取り組む
行政が福祉サービスを充実させていく

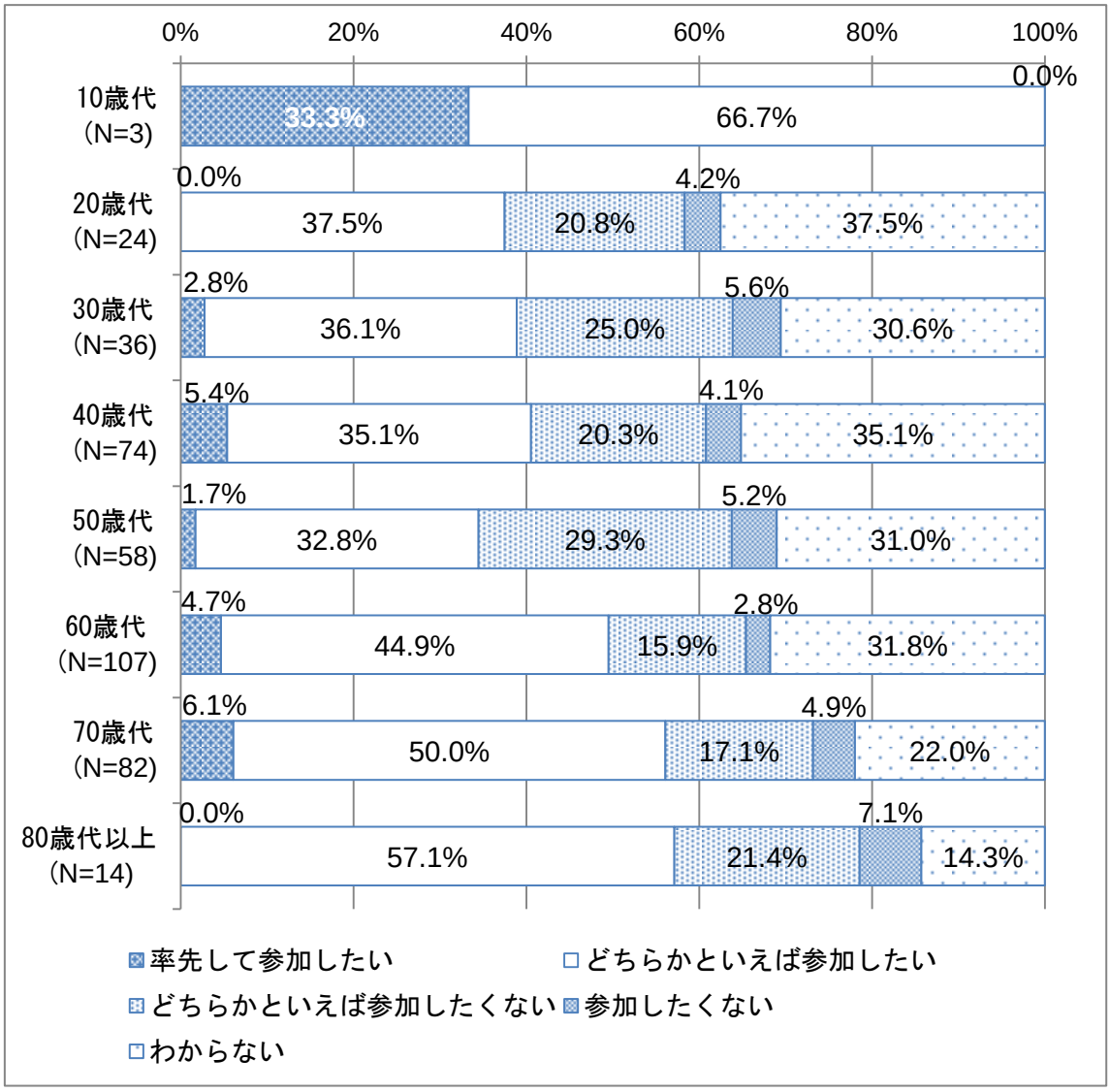
問１６　あなたは、「地域福祉活動（＝住民による身近な支え合いの活動）」に参加したいと思いますか。

「率先して参加したい」「どちらかといえば参加したい」をあわせると約 45%の結果になっています。男女別では、男性の方が参加に対する意識が高く、年代別では、50 代で参加割合が一時落ち込み、60 代以降で再び増加する傾向となっています。





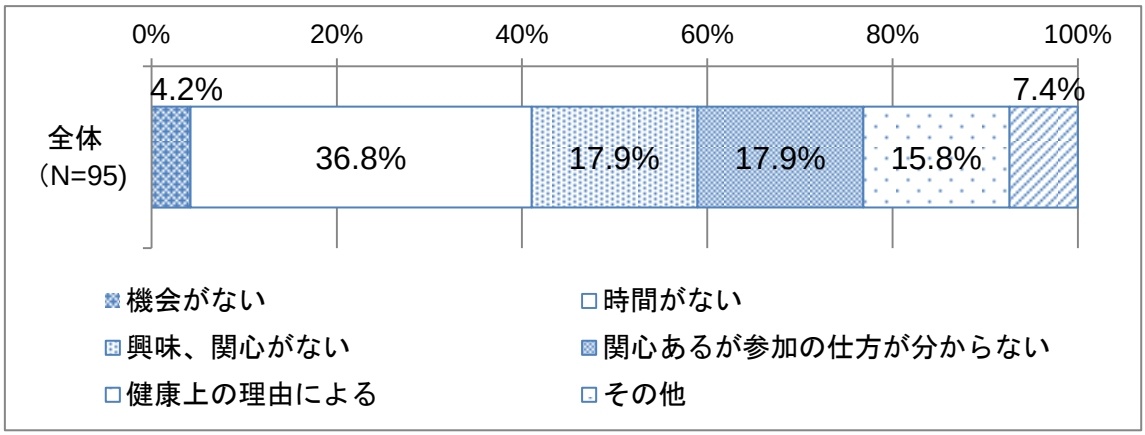

0%
20%
40%
60%
80%
100%
北条地区
(N=193)
4.1%
41.5%
21.2%
4.7%
28.5%
大栄地区
(N=209)
4.5%
42.3%
18.9%
4.0%
30.3%
率先して参加したい
どちらかといえば参加したい
どちらかといえば参加したくない
参加したくない
わからない


0%
20%
40%
60%
80%
100%
10歳代
(N=3)
33.3%
66.7%
0.0%
20歳代
(N=24)
0.0%
37.5%
20.8%
4.2%
37.5%
30歳代
(N=36)
2.8%
36.1%
25.0%
5.6%
30.6%
40歳代
(N=74)
5.4%
35.1%
20.3%
4.1%
35.1%
50歳代
(N=58)
1.7%
32.8%
29.3%
5.2%
31.0%
60歳代
(N=107)
4.7%
44.9%
15.9%
2.8%
31.8%
70歳代
(N=82)
6.1%
50.0%
17.1%
4.9%
22.0%
80歳代以上
(N=14)
0.0%
57.1%
21.4%
7.1%
14.3%
率先して参加したい
どちらかといえば参加したい
どちらかといえば参加したくない
参加したくない
わからない

問１７　問１６で、地域福祉活動に「３．どちらかといえば参加したくない」「４．参加したくない」と回答した方は、主な理由をお選びください。

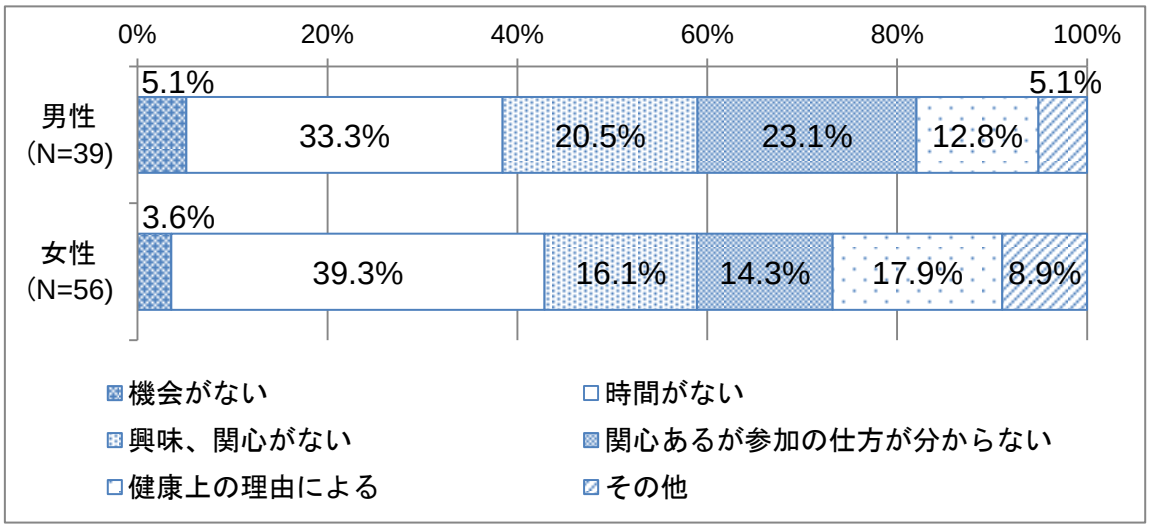
地域福祉活動に「どちらかといえば参加したくない」「参加したくない」と回答した理由は、「時間がない」が最も多く、36%を超える結果となっており、特に 30 代、40 代、50 代で多い結果となっています。また、60 代になると、時間的な制約は少なくなりますが、「興味関心がない」「参加の仕方がわからない」、70 代になると「健康上の理由」の割合が高くなっており、「参加の促し」や「情報提供」など、関心があっても参加していない方への働きかけや、健康寿命の延伸と活動への結びつけなどの取組が必要と考えられます。

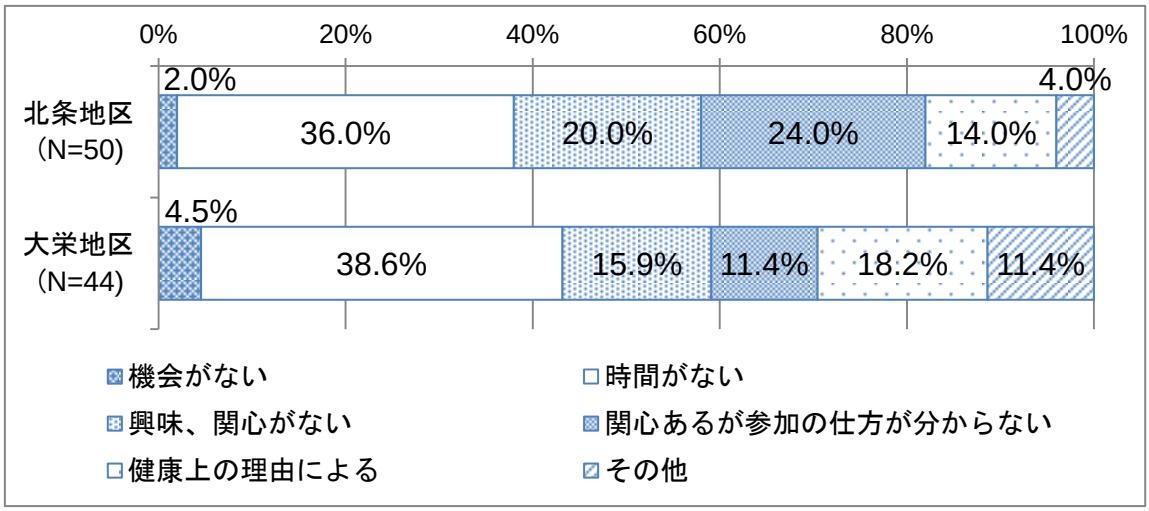
なお、「参加の仕方が分からない」割合は、北条地区に多い傾向となっており、地区別、年代別の取組の検討も必要です。

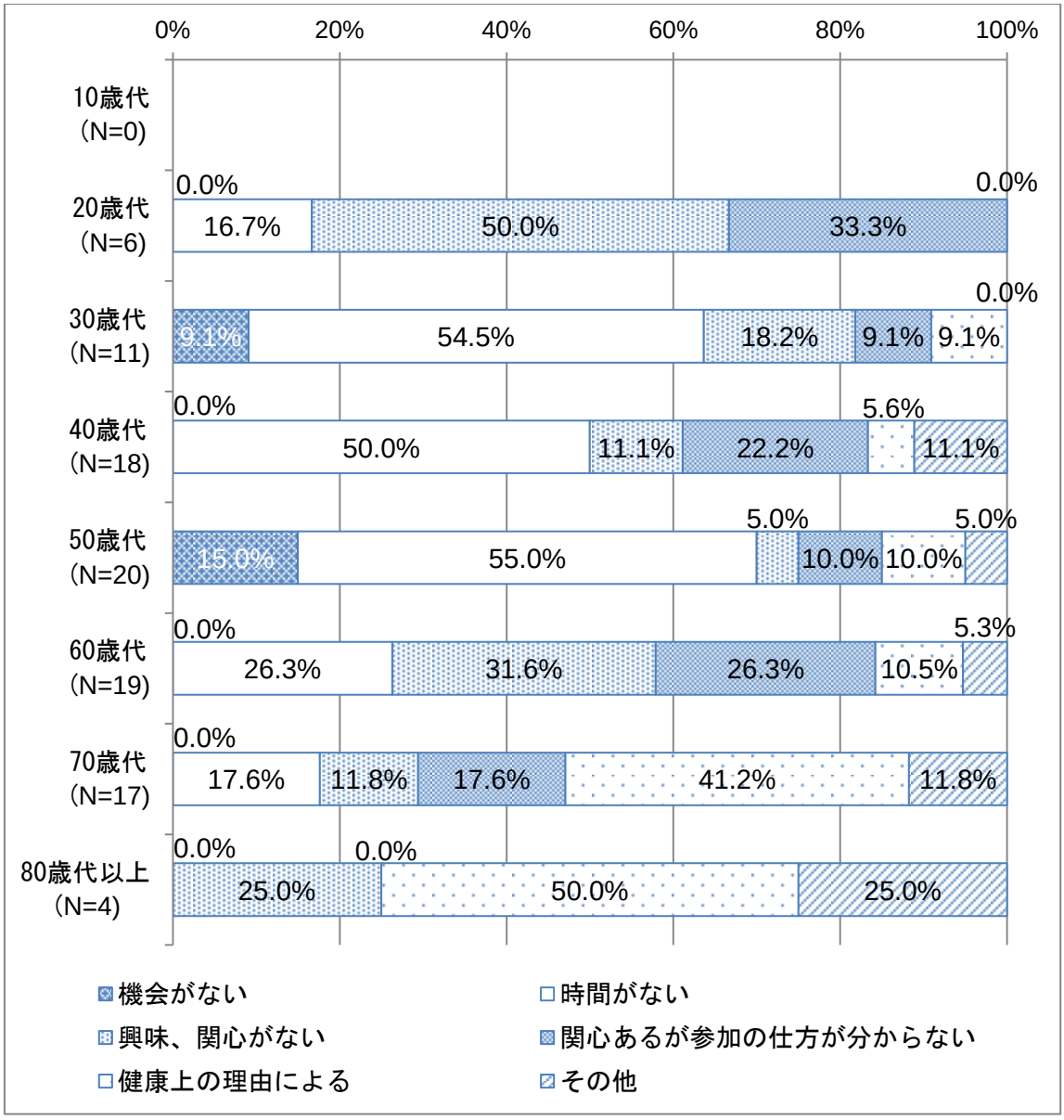


【その他の回答】

・自分のことで精一杯　・自分の時間を持ちたい　・地域に苦手な人がいる
・平日に休んでまでできない　・子どもがいるので無理　・高齢
・プライベートなことは関わりたくない




0%
20%
40%
60%
80%
100%
北条地区
(N=50)
2.0%
36.0%
20.0%
24.0%
14.0%
4.0%
大栄地区
(N=44)
4.5%
38.6%
15.9%
11.4%
18.2%
11.4%
機会がない
時間がない
興味、関心がない
関心あるが参加の仕方が分からない
健康上の理由による
その他

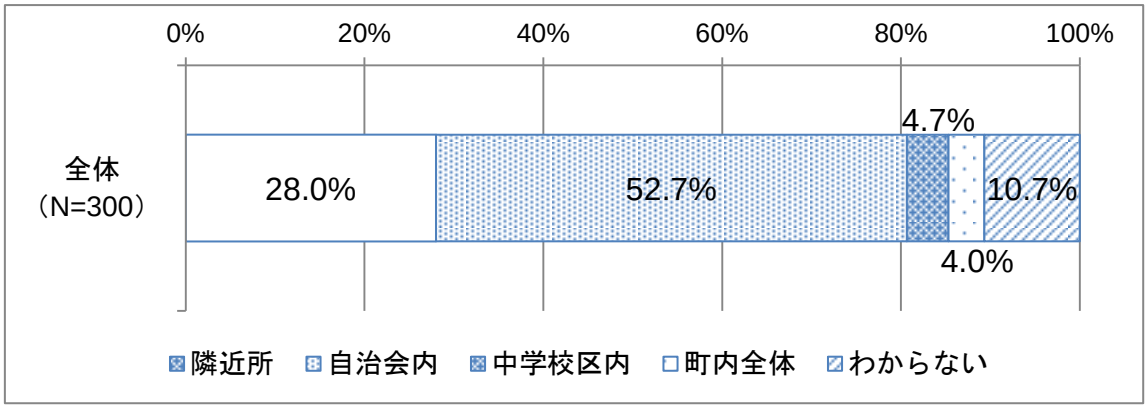

0%
20%
40%
60%
80%
100%
10歳代
(N=0)
20歳代
(N=6)
0.0%
16.7%
50.0%
33.3%
0.0%
30歳代
(N=11)
9.1%
54.5%
18.2%
9.1%
9.1%
0.0%
40歳代
(N=18)
0.0%
50.0%
11.1%
22.2%
5.6%
11.1%
50歳代
(N=20)
15.0%
55.0%
5.0%
10.0%
10.0%
5.0%
60歳代
(N=19)
0.0%
26.3%
31.6%
26.3%
10.5%
5.3%
70歳代
(N=17)
0.0%
17.6%
11.8%
17.6%
41.2%
11.8%
80歳代以上
(N=4)
0.0%
0.0%
25.0%
50.0%
25.0%
機会がない
時間がない
興味、関心がない
関心あるが参加の仕方が分からない
健康上の理由による
その他

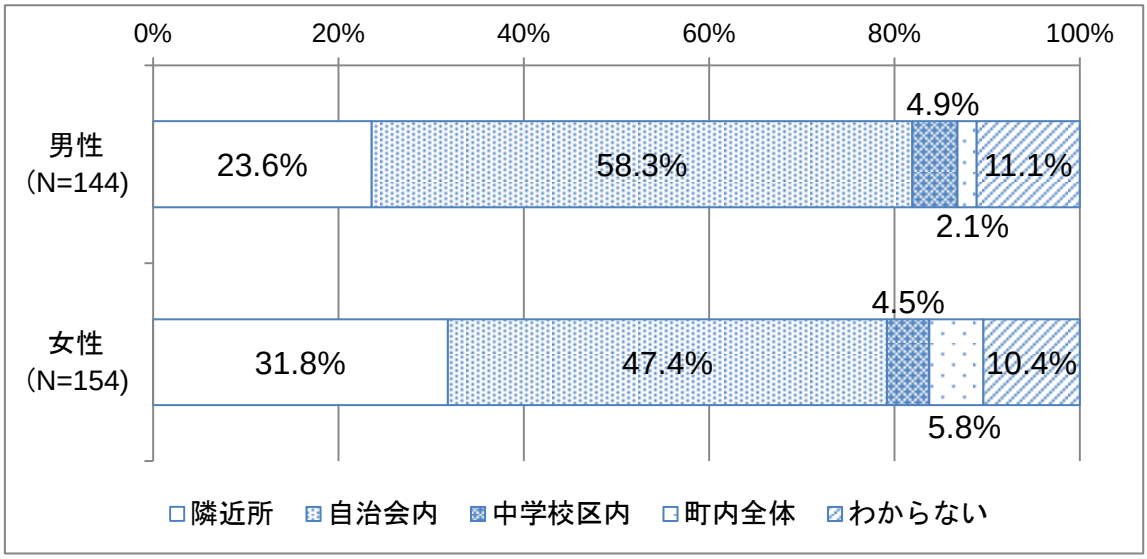
問１８　（問１６で「１．率先して参加したい」「２．どちらかといえば参加したい」「５．わからない」と回答した方は、）あなたが地域福祉活動（＝住民による身近な支え合い）に参加する場合、どの範囲まで活動ができると考えますか。

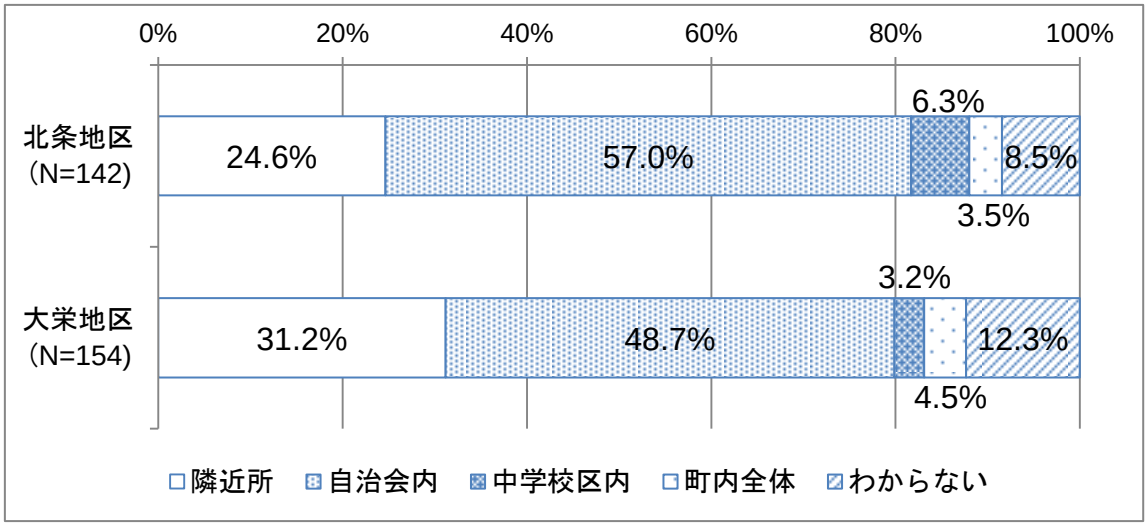
地域福祉活動の参加範囲は、「隣近所」「自治会内」といった身近な近隣地域が高い結果となっており、中学校区を超えた範囲では活動が難しいという結果になっています。

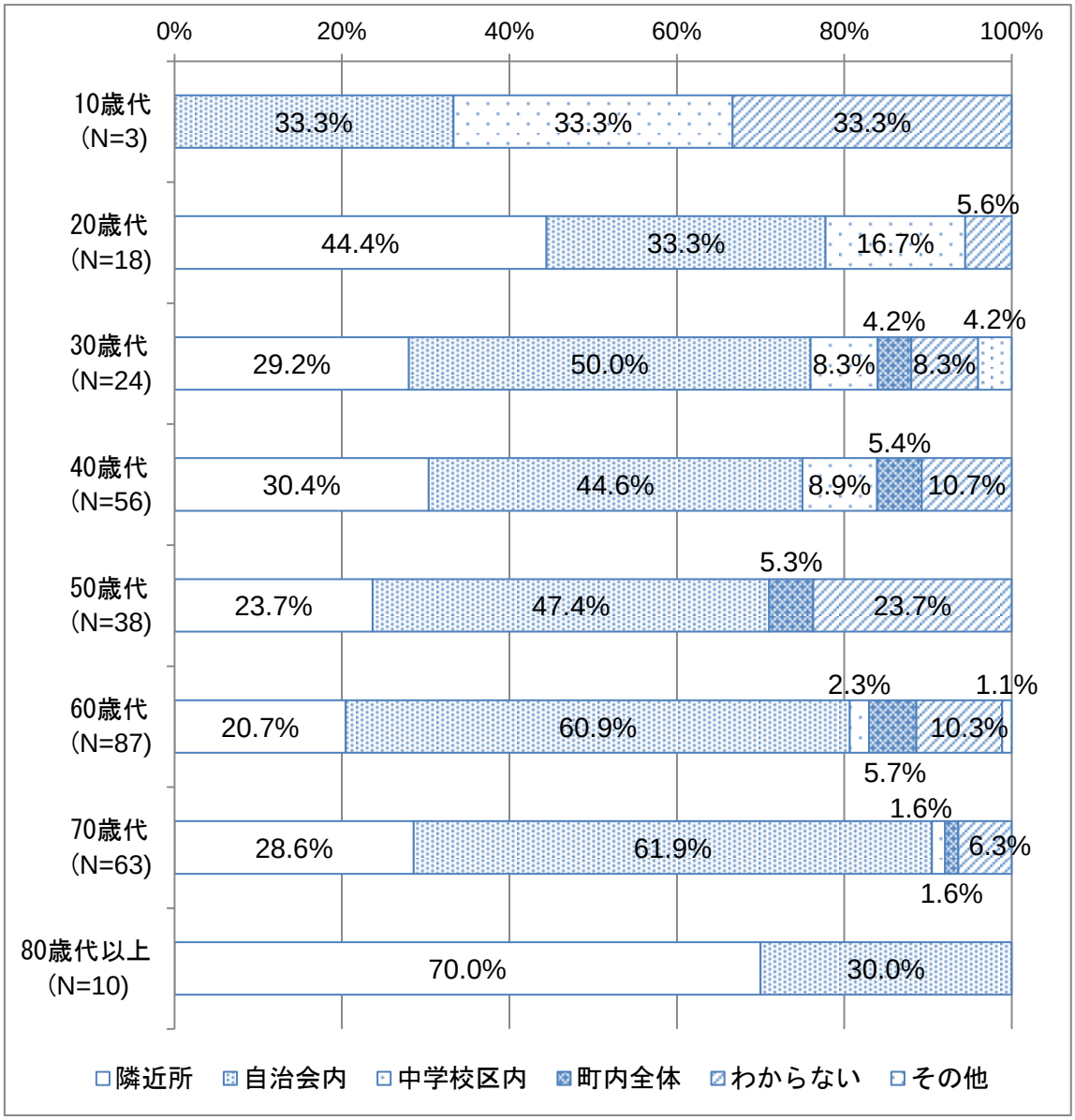
また、年代別では、「わからない」と回答した 50 代の割合が高く、活動への参加意向がありながらも、具体的な活動の場や内容がイメージできないことが考えられます。

具体的な活動へつなげるためにも、身近な地域での活動の場づくりや活動の場の情報提供などが必要であると考えられます。



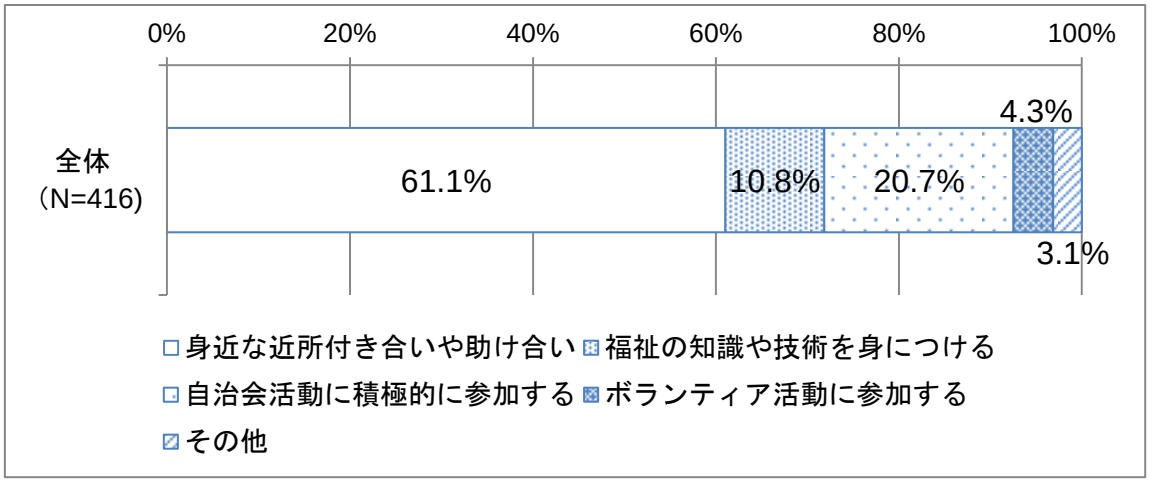



0%
20%
40%
60%
80%
100%
北条地区
(N=142)
24.6%
57.0%
6.3%
3.5%
8.5%
大栄地区
(N=154)
31.2%
48.7%
3.2%
4.5%
12.3%
隣近所
自治会内
中学校区内
町内全体
わからない


0%
20%
40%
60%
80%
100%
10歳代
(N=3)
33.3%
33.3%
33.3%
20歳代
(N=18)
44.4%
33.3%
16.7%
5.6%
30歳代
(N=24)
29.2%
50.0%
8.3%
4.2%
8.3%
4.2%
40歳代
(N=56)
30.4%
44.6%
8.9%
5.4%
10.7%
50歳代
(N=38)
23.7%
47.4%
5.3%
23.7%
60歳代
(N=87)
20.7%
60.9%
2.3%
5.7%
10.3%
1.1%
70歳代
(N=63)
28.6%
61.9%
1.6%
1.6%
6.3%
80歳代以上
(N=10)
70.0%
30.0%
隣近所
自治会内
中学校区内
町内全体
わからない
その他

問１９　これからの地域福祉（＝住民による身近な支え合い）をすすめていくために、町民一人ひとりはどのようなことに取り組むべきだと考えますか。

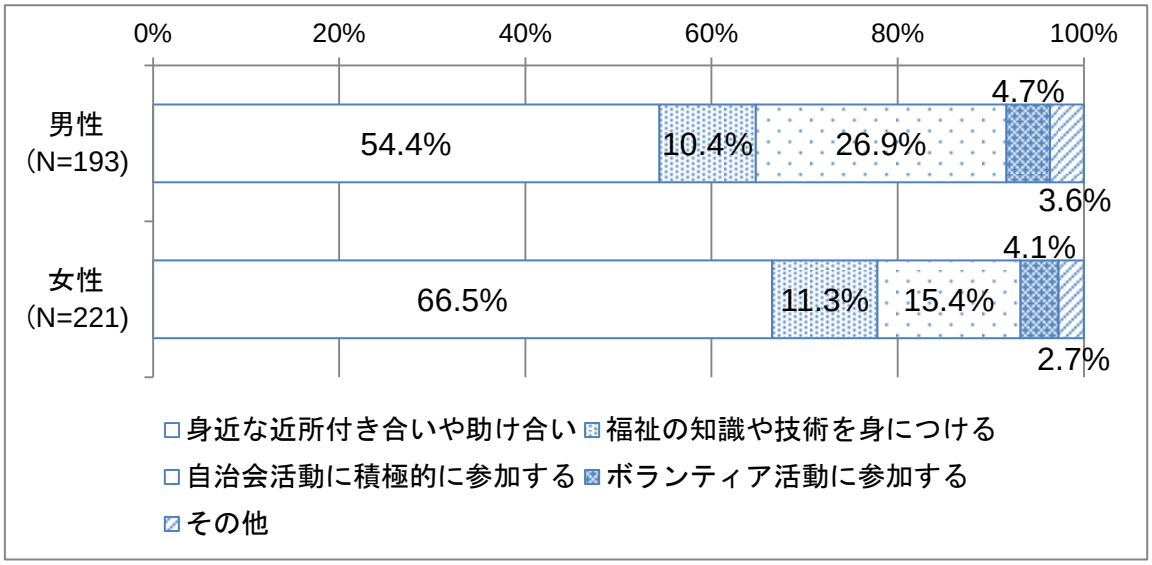
「身近な付き合いや助け合い」「自治会活動への参加」といった顔の見える関係の中での活動が大切であると考えている割合が多い結果となっています。今後も自治会の範囲、中でも隣近所での支え合いをすすめていく必要があります。

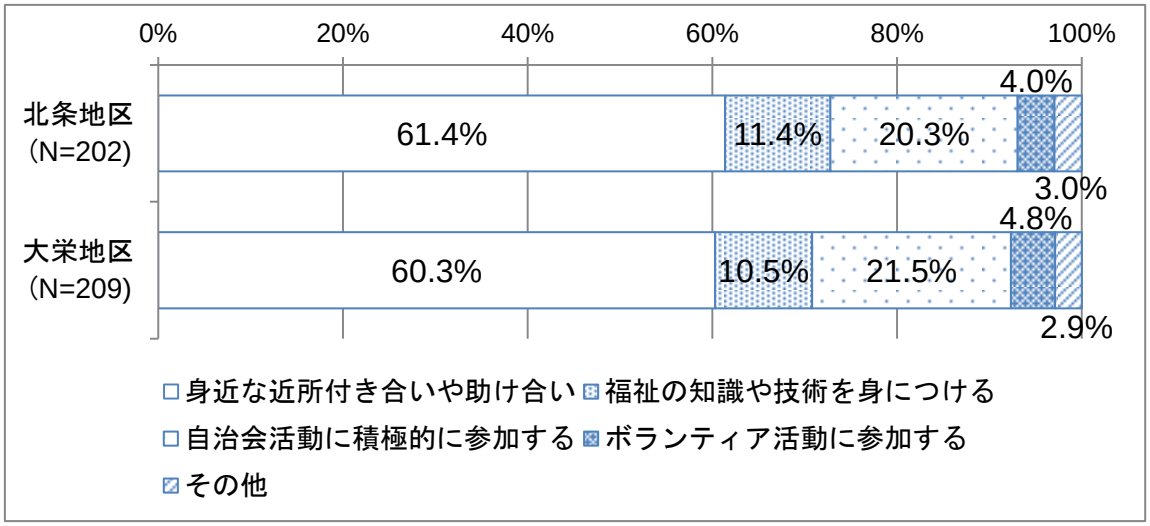


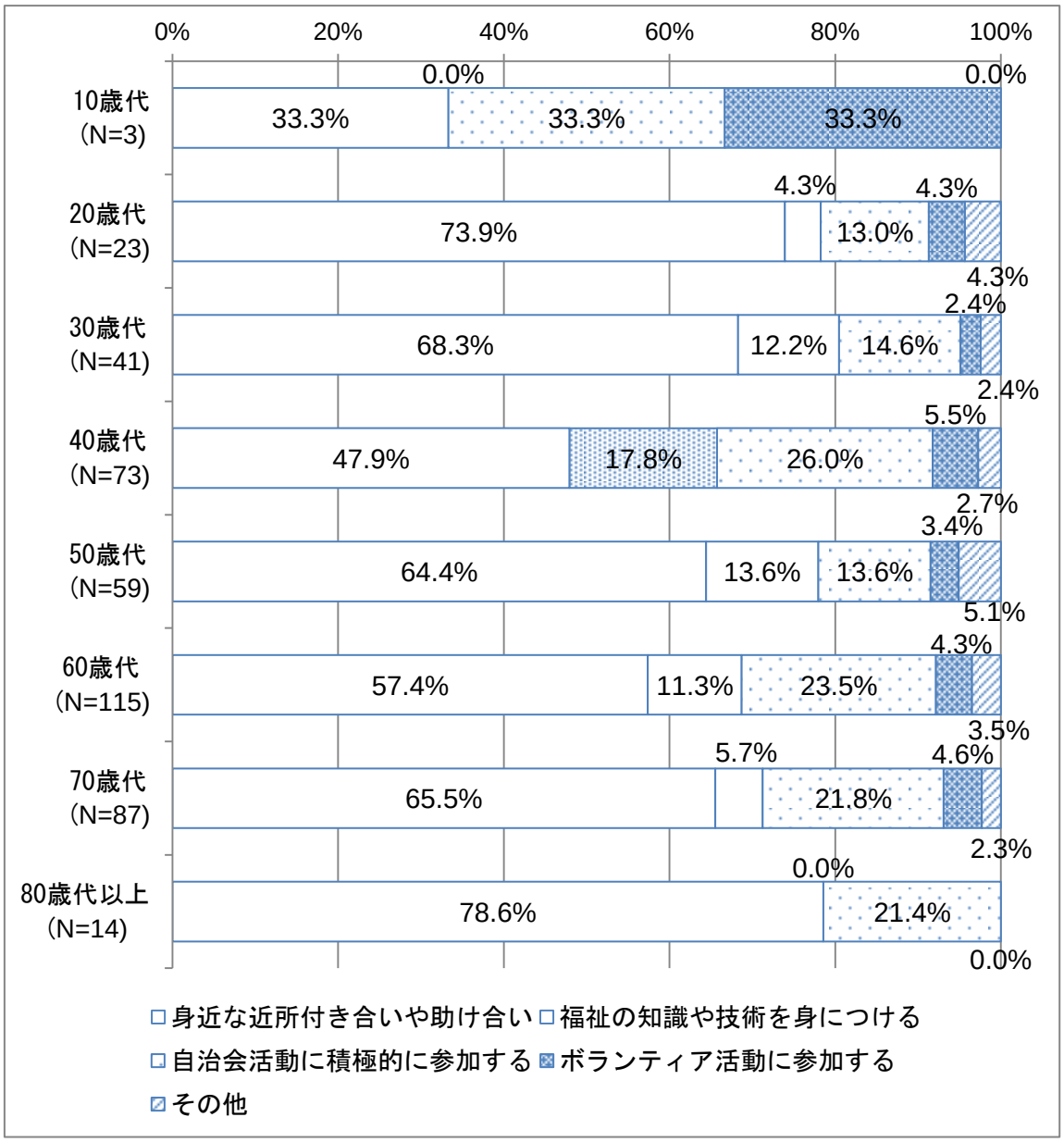
【その他の回答】

・自分の健康　　・プライバシーの保護　　・負担は困る

・助け合いしたくない　　・情報・状態の共有　　・分からない

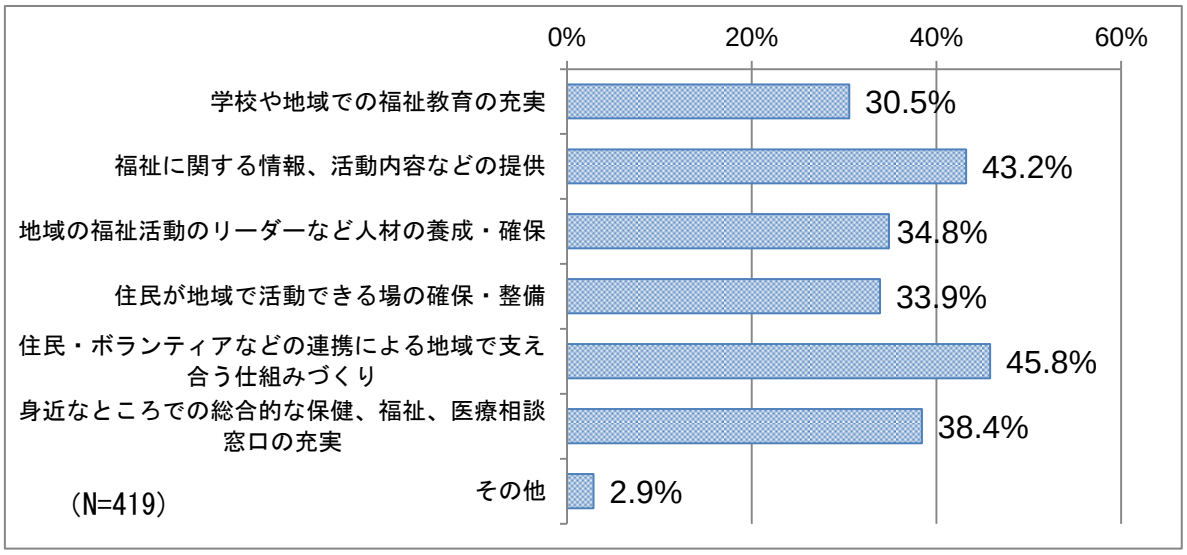



0%
20%
40%
60%
80%
100%
北条地区
(N=202)
61.4%
11.4%
20.3%
4.0%
3.0%
大栄地区
(N=209)
60.3%
10.5%
21.5%
4.8%
2.9%
身近な近所付き合いや助け合い
福祉の知識や技術を身につける
自治会活動に積極的に参加する
ボランティア活動に参加する
その他


0%
20%
40%
60%
80%
100%
10歳代
(N=3)
33.3%
0.0%
33.3%
33.3%
0.0%
20歳代
(N=23)
73.9%
4.3%
13.0%
4.3%
4.3%
30歳代
(N=41)
68.3%
12.2%
14.6%
2.4%
2.4%
40歳代
(N=73)
47.9%
17.8%
26.0%
5.5%
2.7%
50歳代
(N=59)
64.4%
13.6%
13.6%
3.4%
5.1%
60歳代
(N=115)
57.4%
11.3%
23.5%
4.3%
3.5%
70歳代
(N=87)
65.5%
5.7%
21.8%
4.6%
2.3%
80歳代以上
(N=14)
78.6%
0.0%
21.4%
0.0%
身近な近所付き合いや助け合い
福祉の知識や技術を身につける
自治会活動に積極的に参加する
ボランティア活動に参加する
その他

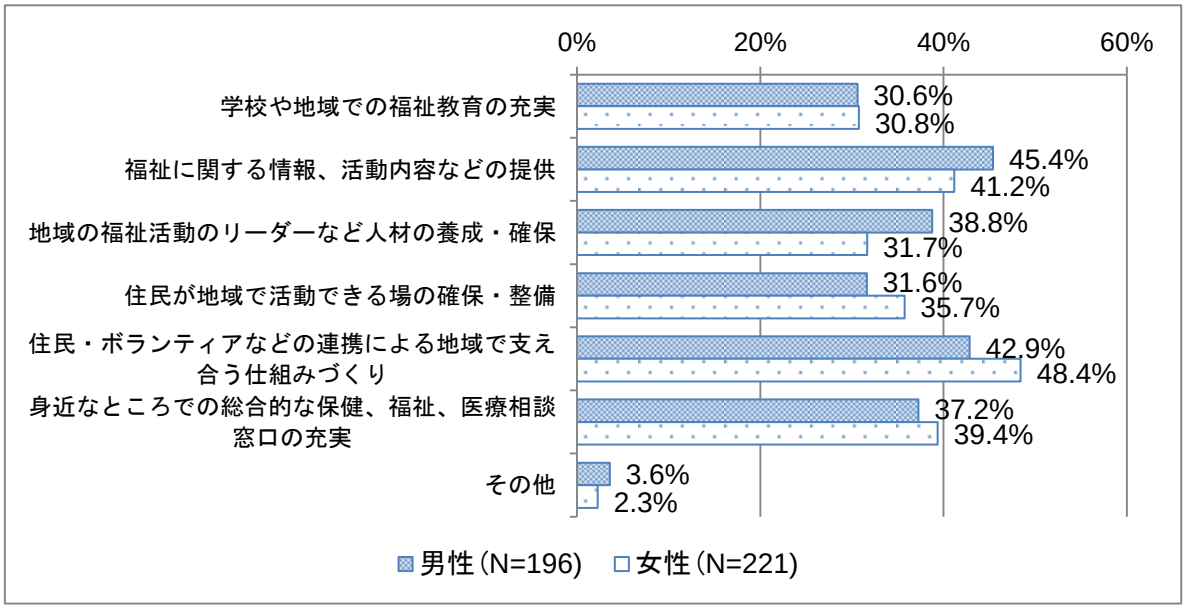
問２０　今後、取り組むべき地域福祉（＝住民による身近な支え合い）の課題として、次のうちどれを優先させるのがよいと考えますか。（３つまでお選びください）

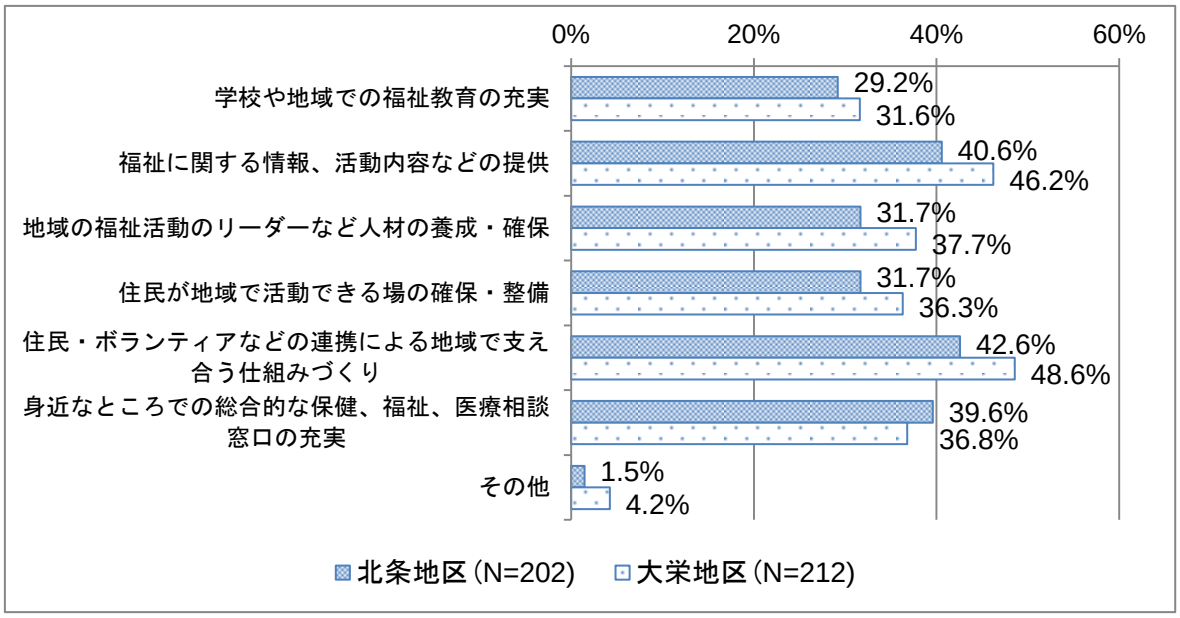
どの課題も同じように重要であると考えている傾向となっています。その中でも「地域で支え合う仕組みづくり」が最も多く、他人任せではなく自らも主体として、皆で取り組もうという意識があると考えられます。

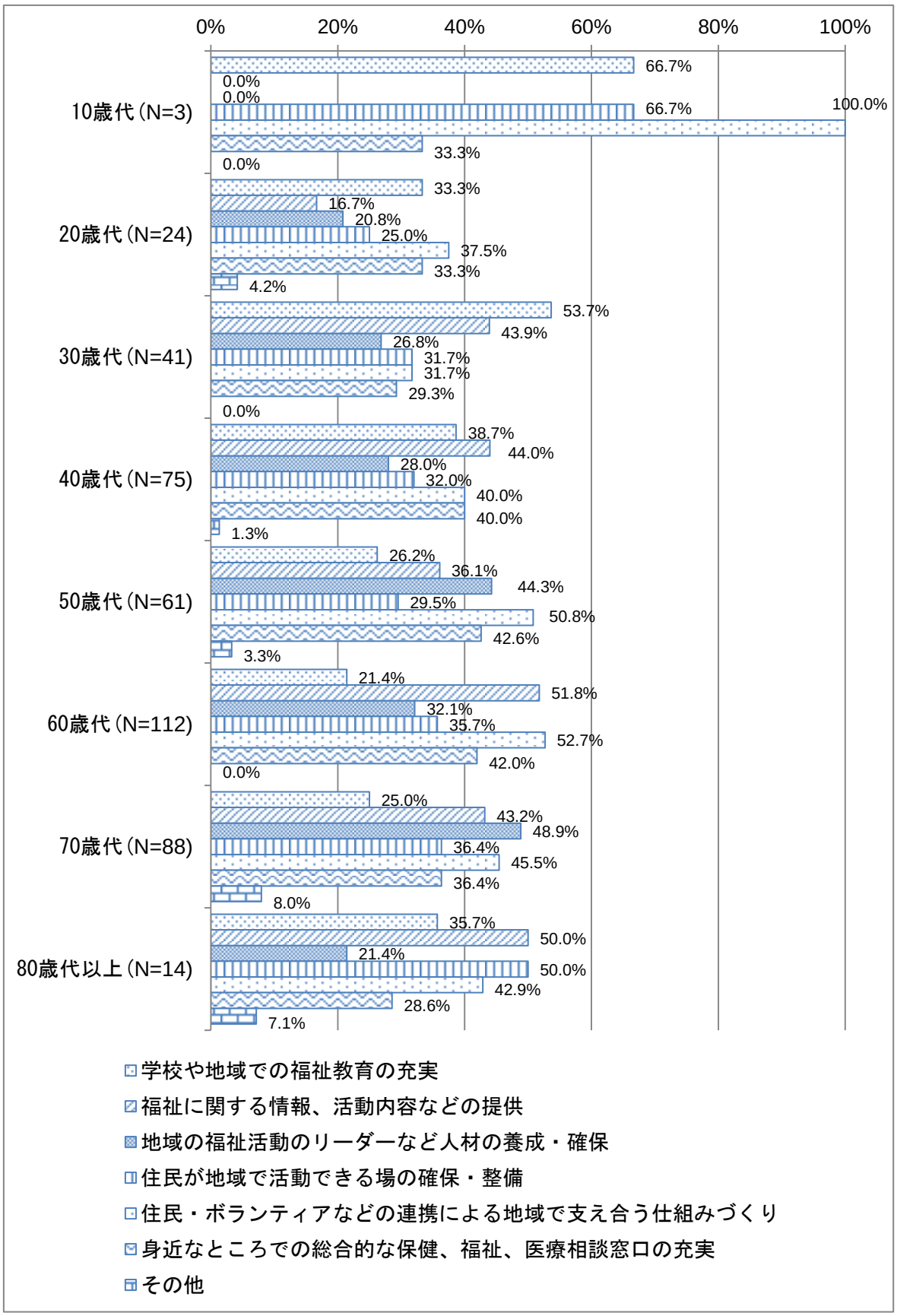


【その他の回答】

・意識啓発　・交通機関の充実　・プライバシーが守られること
・負担がないこと　・高齢化を考えると共助もすぐ限界が来る　・どれも必要
・分からない




0%
20%
40%
60%
学校や地域での福祉教育の充実
29.2%
31.6%
福祉に関する情報、活動内容などの提供
40.6%
46.2%
地域の福祉活動のリーダーなど人材の養成・確保
31.7%
37.7%
住民が地域で活動できる場の確保・整備
31.7%
36.3%
住民・ボランティアなどの連携による地域で支え合う仕組みづくり
42.6%
48.6%
身近なところでの総合的な保健、福祉、医療相談窓口の充実
39.6%
36.8%
その他
1.5%
4.2%
北条地区（N=202）
大栄地区（N=212）

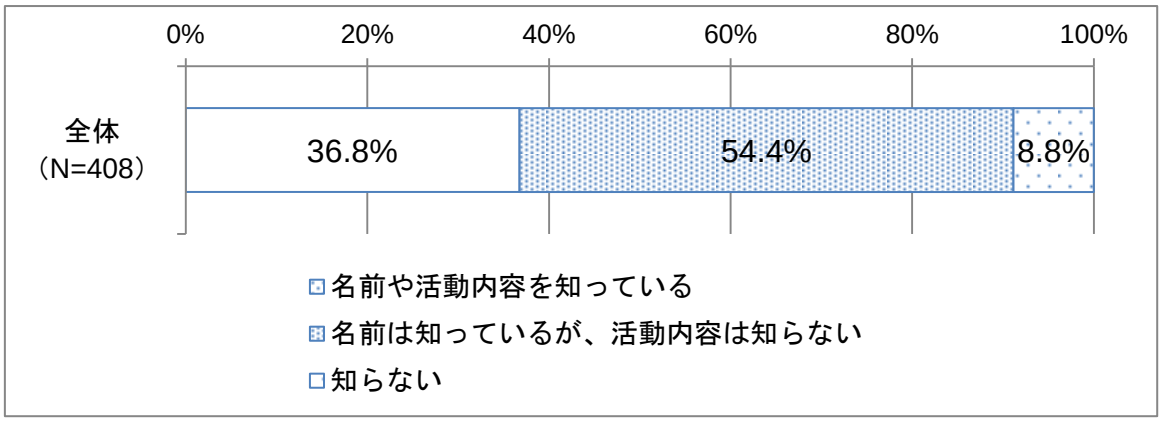

0%
20%
40%
60%
80%
100%
10歳代（N=3）
66.7%
0.0%
0.0%
66.7%
100.0%
33.3%
0.0%
20歳代（N=24）
33.3%
16.7%
20.8%
25.0%
37.5%
33.3%
4.2%
30歳代（N=41）
53.7%
43.9%
26.8%
31.7%
31.7%
29.3%
0.0%
40歳代（N=75）
38.7%
44.0%
28.0%
32.0%
40.0%
40.0%
1.3%
50歳代（N=61）
26.2%
36.1%
44.3%
29.5%
50.8%
42.6%
3.3%
60歳代（N=112）
21.4%
51.8%
32.1%
35.7%
52.7%
42.0%
0.0%
70歳代（N=88）
25.0%
43.2%
48.9%
36.4%
45.5%
36.4%
8.0%
80歳代以上（N=14）
35.7%
50.0%
21.4%
50.0%
42.9%
28.6%
7.1%
学校や地域での福祉教育の充実
福祉に関する情報、活動内容などの提供
地域の福祉活動のリーダーなど人材の養成・確保
住民が地域で活動できる場の確保・整備
住民・ボランティアなどの連携による地域で支え合う仕組みづくり
身近なところでの総合的な保健、福祉、医療相談窓口の充実
その他

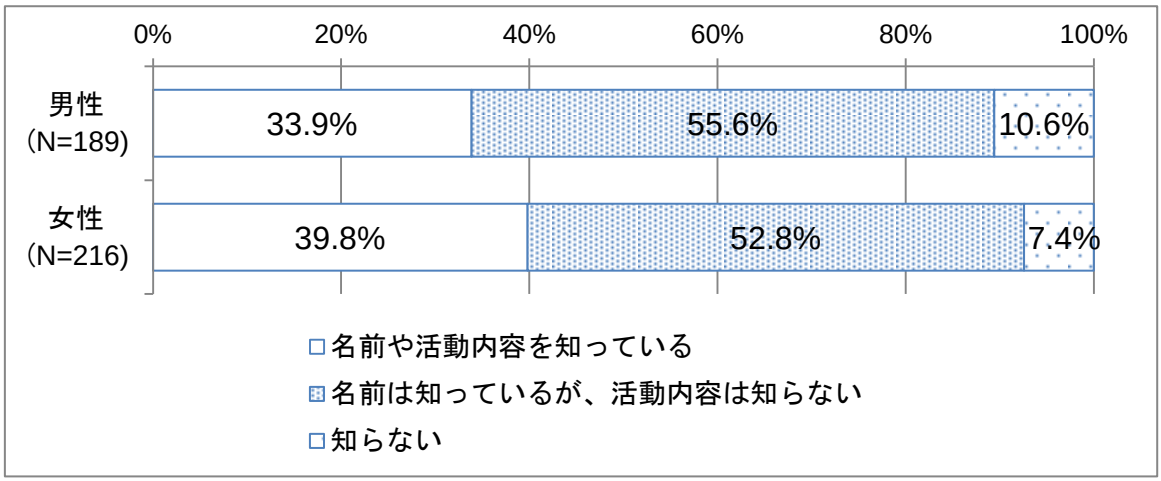
６　社会福祉協議会、民生児童委員について

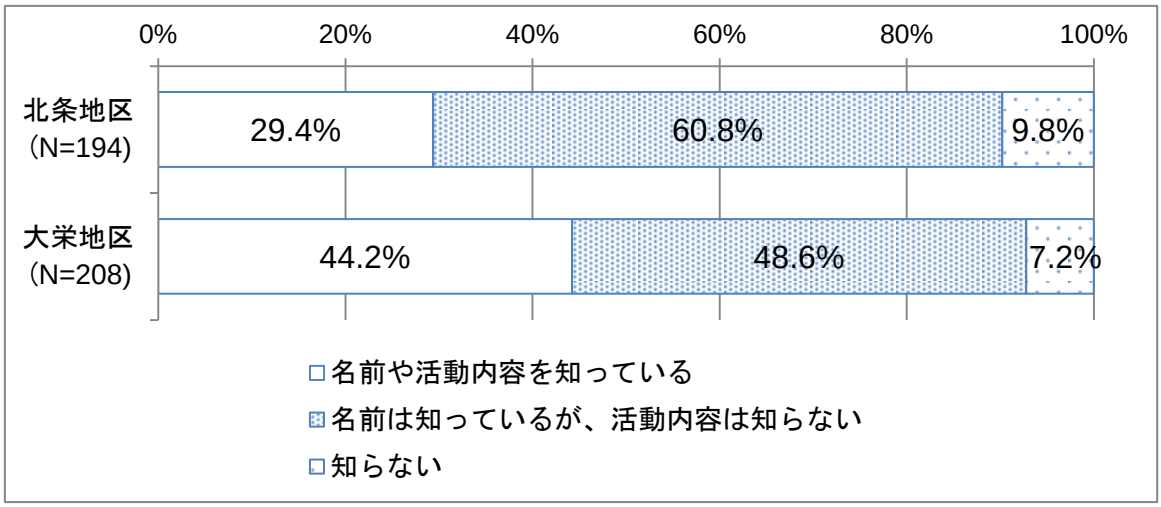
問２１　あなたは、北栄町社会福祉協議会を知っていますか。

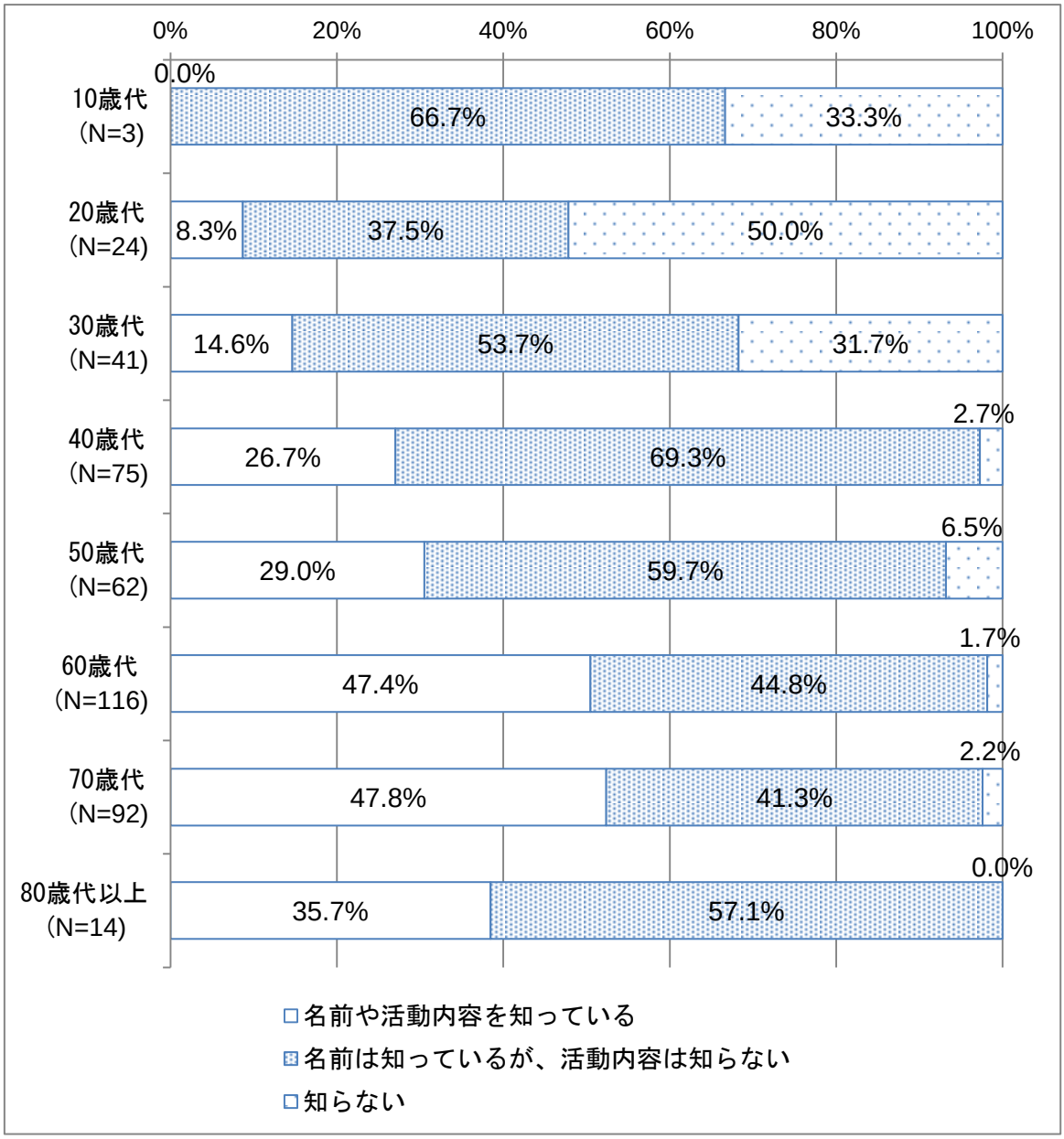
「活動内容を知っている」と回答した割合は４割弱となっており、活動内容まで十分に周知できていない結果となっています。

特に、若い世代では社会福祉協議会を知らない割合が高い結果となっています。



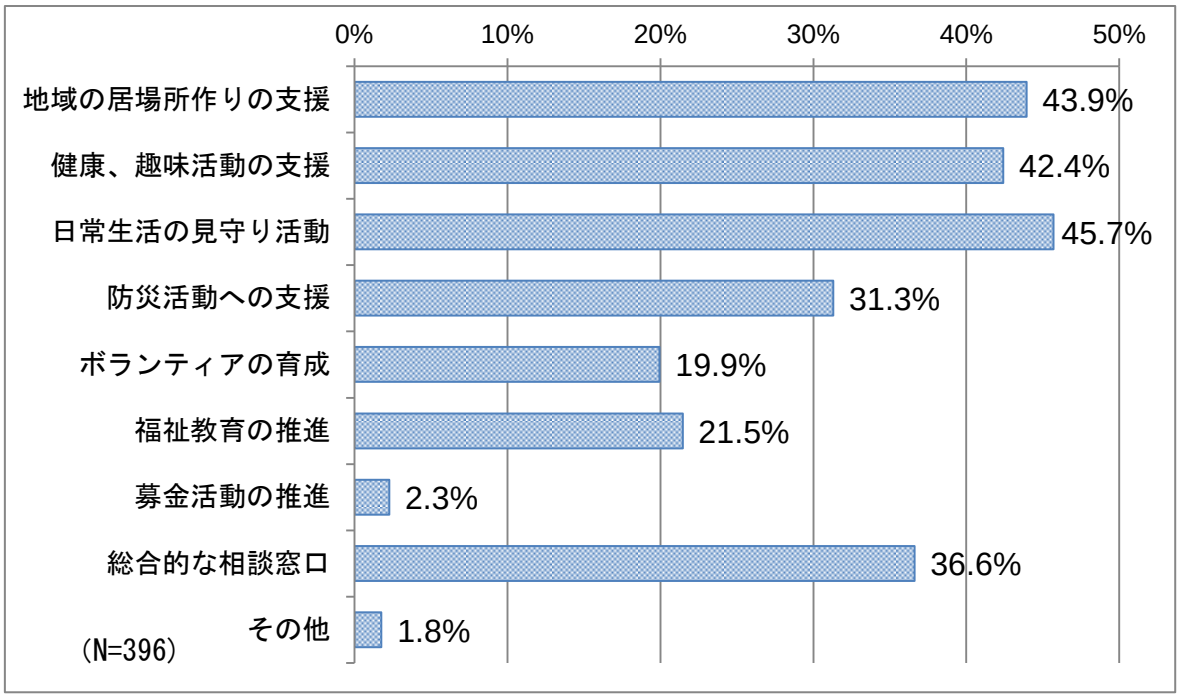



0%
20%
40%
60%
80%
100%
北条地区
(N=194)
29.4%
60.8%
9.8%
大栄地区
(N=208)
44.2%
48.6%
7.2%
名前や活動内容を知っている
名前は知っているが、活動内容は知らない
知らない


0%
20%
40%
60%
80%
100%
10歳代
(N=3)
0.0%
66.7%
33.3%
20歳代
(N=24)
8.3%
37.5%
50.0%
30歳代
(N=41)
14.6%
53.7%
31.7%
40歳代
(N=75)
26.7%
69.3%
2.7%
50歳代
(N=62)
29.0%
59.7%
6.5%
60歳代
(N=116)
47.4%
44.8%
1.7%
70歳代
(N=92)
47.8%
41.3%
2.2%
80歳代以上
(N=14)
35.7%
57.1%
0.0%
名前や活動内容を知っている
名前は知っているが、活動内容は知らない
知らない

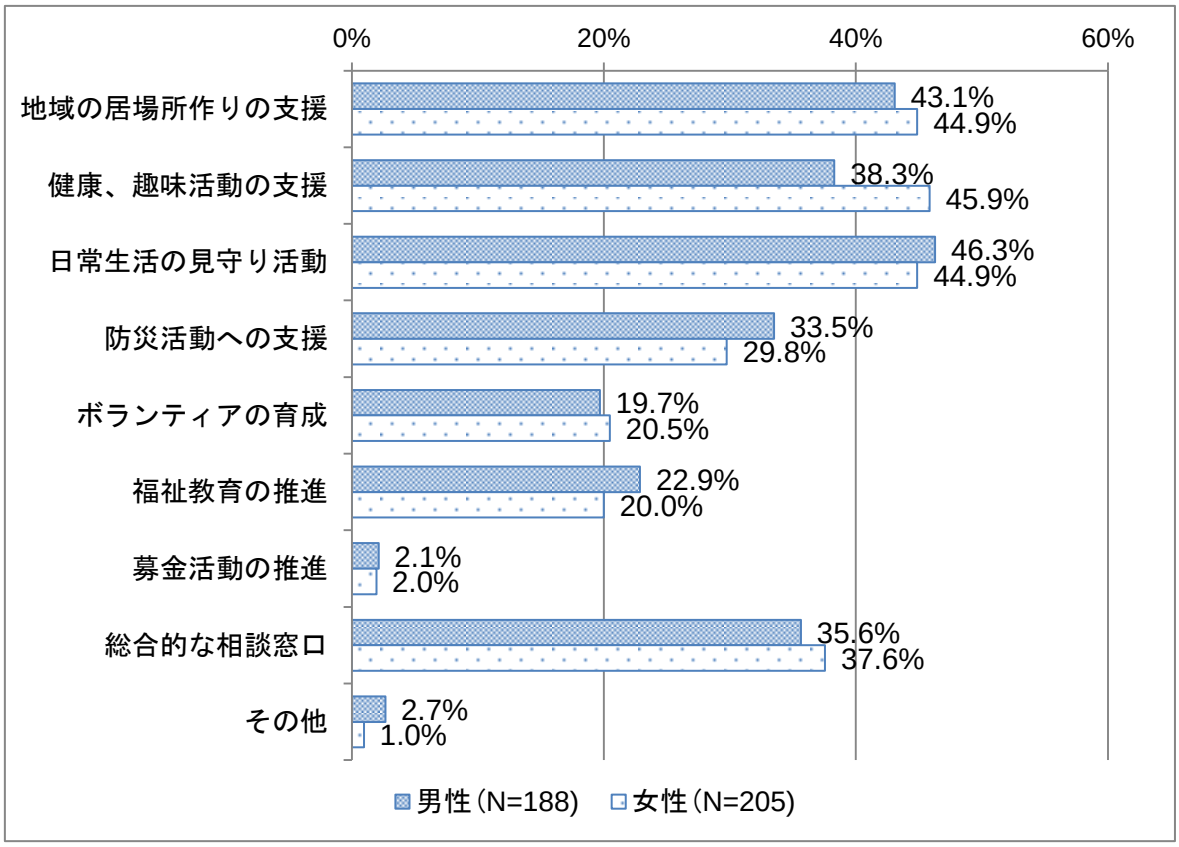
問２２　北栄町社会福祉協議会は地域福祉推進の活動をしていますが､その活動の中で、今後、充実してほしいと思うものはどれですか。（３つまでお選びください）

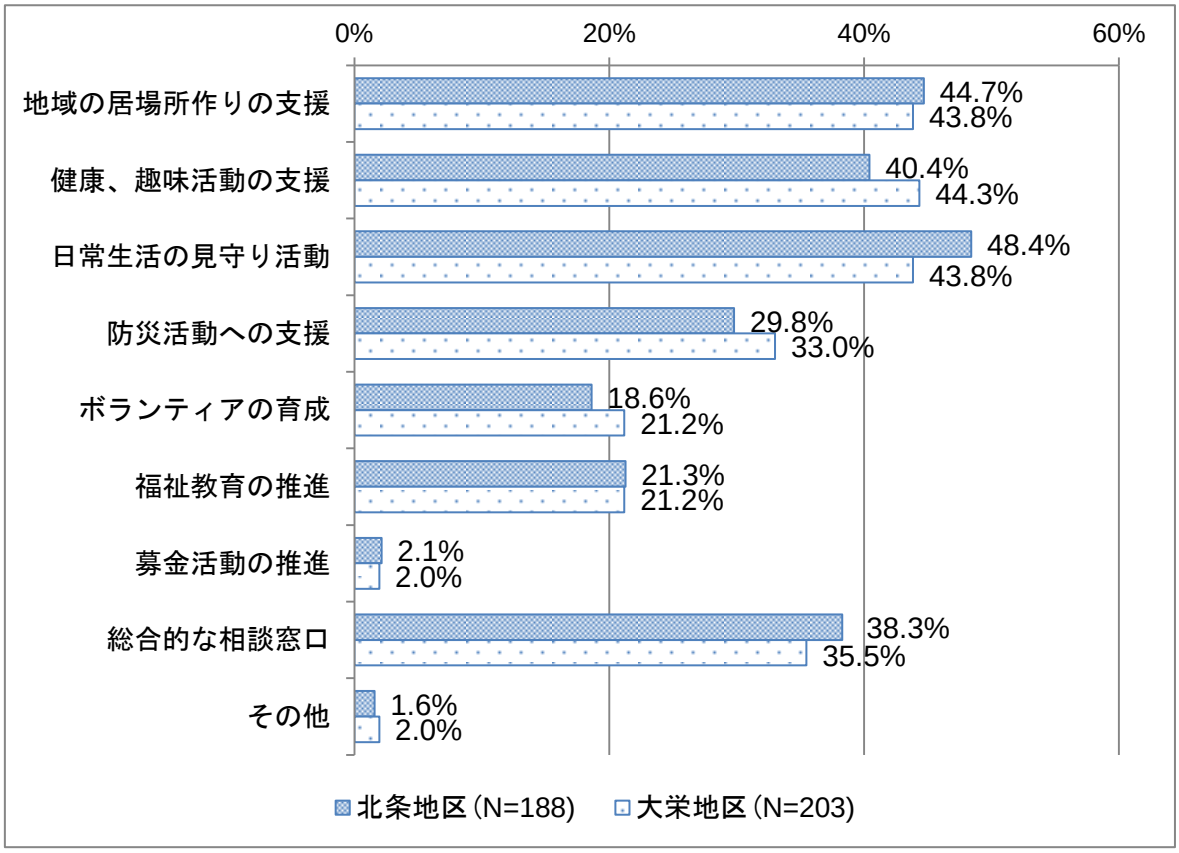
全体的な傾向をみると、啓発活動や教育ではなく、「見守り活動」、「居場所作りの支援」「健康、趣味活動の支援」、「総合的な相談窓口」といった直接的な活動を求めている傾向となっています。

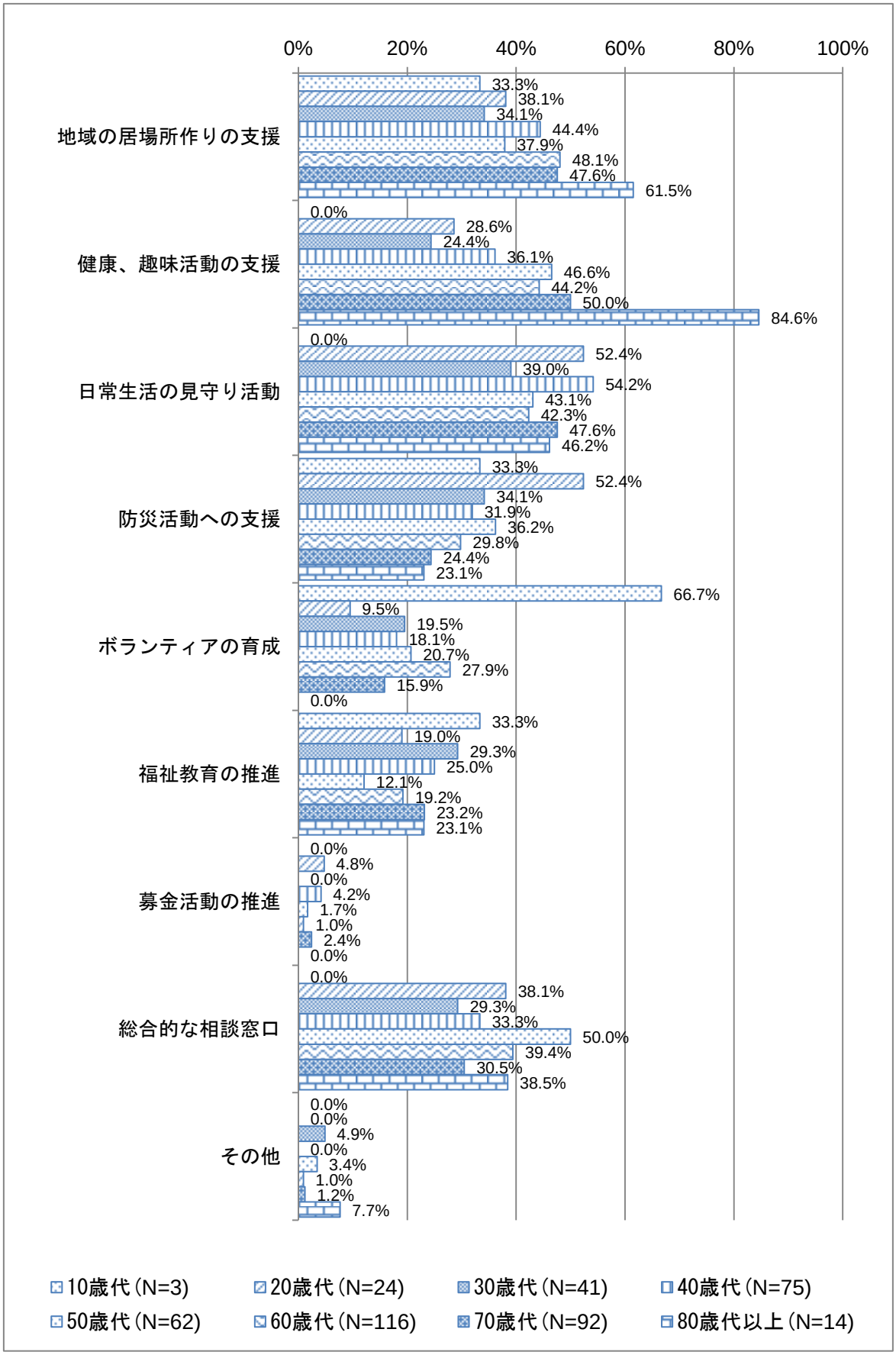


【その他の回答】

・避難の目安を各家に知らせる　・出来る人でやってほしい
・こどもの通学時間帯の見守り　・通学路の除雪　・分からない


0%
20%
40%
60%
地域の居場所作りの支援
43.1%
44.9%
健康、趣味活動の支援
38.3%
45.9%
日常生活の見守り活動
46.3%
44.9%
防災活動への支援
33.5%
29.8%
ボランティアの育成
19.7%
20.5%
福祉教育の推進
22.9%
20.0%
募金活動の推進
2.1%
2.0%
総合的な相談窓口
35.6%
37.6%
その他
2.7%
1.0%
男性（N=188）
女性（N=205）

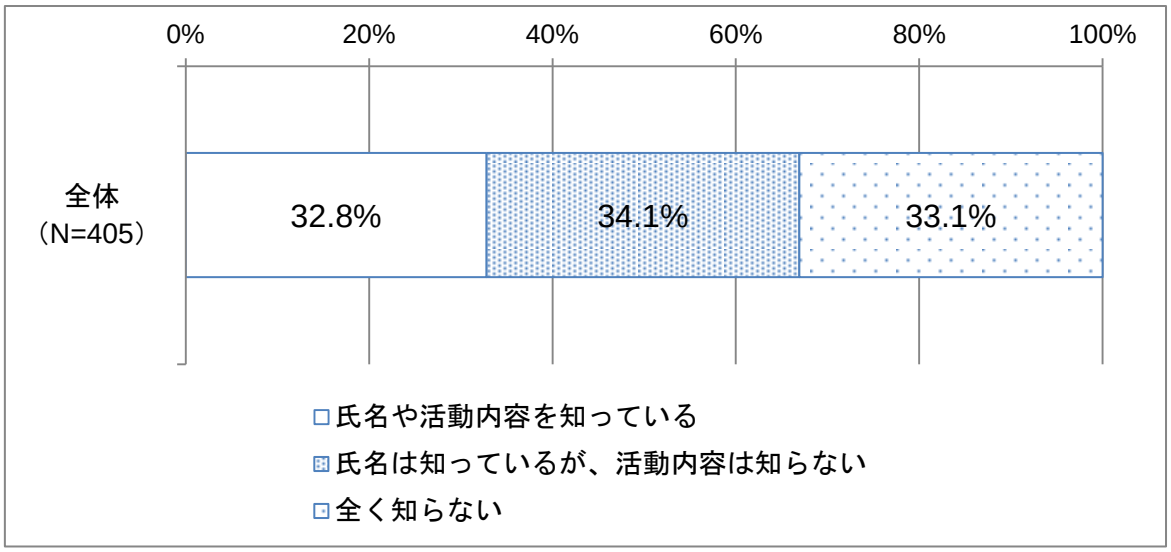

0%
20%
40%
60%
地域の居場所作りの支援
44.7%
43.8%
健康、趣味活動の支援
40.4%
44.3%
日常生活の見守り活動
48.4%
43.8%
防災活動への支援
29.8%
33.0%
ボランティアの育成
18.6%
21.2%
福祉教育の推進
21.3%
21.2%
募金活動の推進
2.1%
2.0%
総合的な相談窓口
38.3%
35.5%
その他
1.6%
2.0%
北条地区（N=188）
大栄地区（N=203）

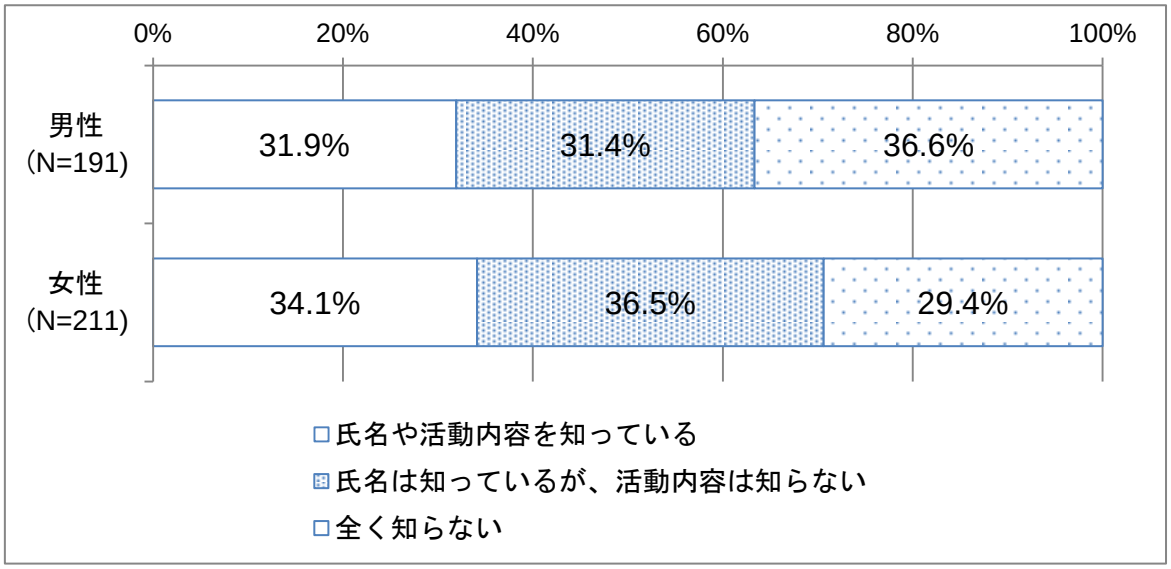

0%
20%
40%
60%
80%
100%
地域の居場所作りの支援
33.3%
38.1%
34.1%
44.4%
37.9%
48.1%
47.6%
61.5%
健康、趣味活動の支援
0.0%
28.6%
24.4%
36.1%
46.6%
44.2%
50.0%
84.6%
日常生活の見守り活動
0.0%
52.4%
39.0%
54.2%
43.1%
42.3%
47.6%
46.2%
防災活動への支援
33.3%
52.4%
34.1%
31.9%
36.2%
29.8%
24.4%
23.1%
ボランティアの育成
66.7%
9.5%
19.5%
18.1%
20.7%
27.9%
15.9%
0.0%
福祉教育の推進
33.3%
19.0%
29.3%
25.0%
12.1%
19.2%
23.2%
23.1%
募金活動の推進
0.0%
4.8%
0.0%
4.2%
1.7%
1.0%
2.4%
0.0%
総合的な相談窓口
0.0%
38.1%
29.3%
33.3%
50.0%
39.4%
30.5%
38.5%
その他
0.0%
0.0%
4.9%
0.0%
3.4%
1.0%
1.2%
7.7%
10歳代(N=3)
20歳代(N=24)
30歳代(N=41)
40歳代(N=75)
50歳代(N=62)
60歳代(N=116)
70歳代(N=92)
80歳代以上(N=14)

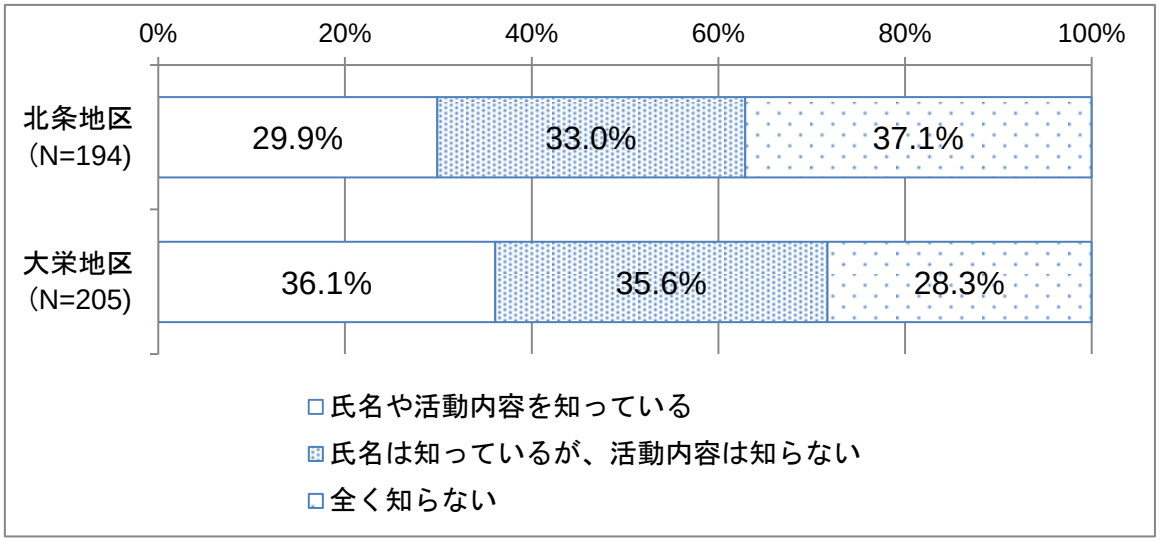
問２３　あなたは、あなたの地域を担当している民生児童委員を知っていますか。

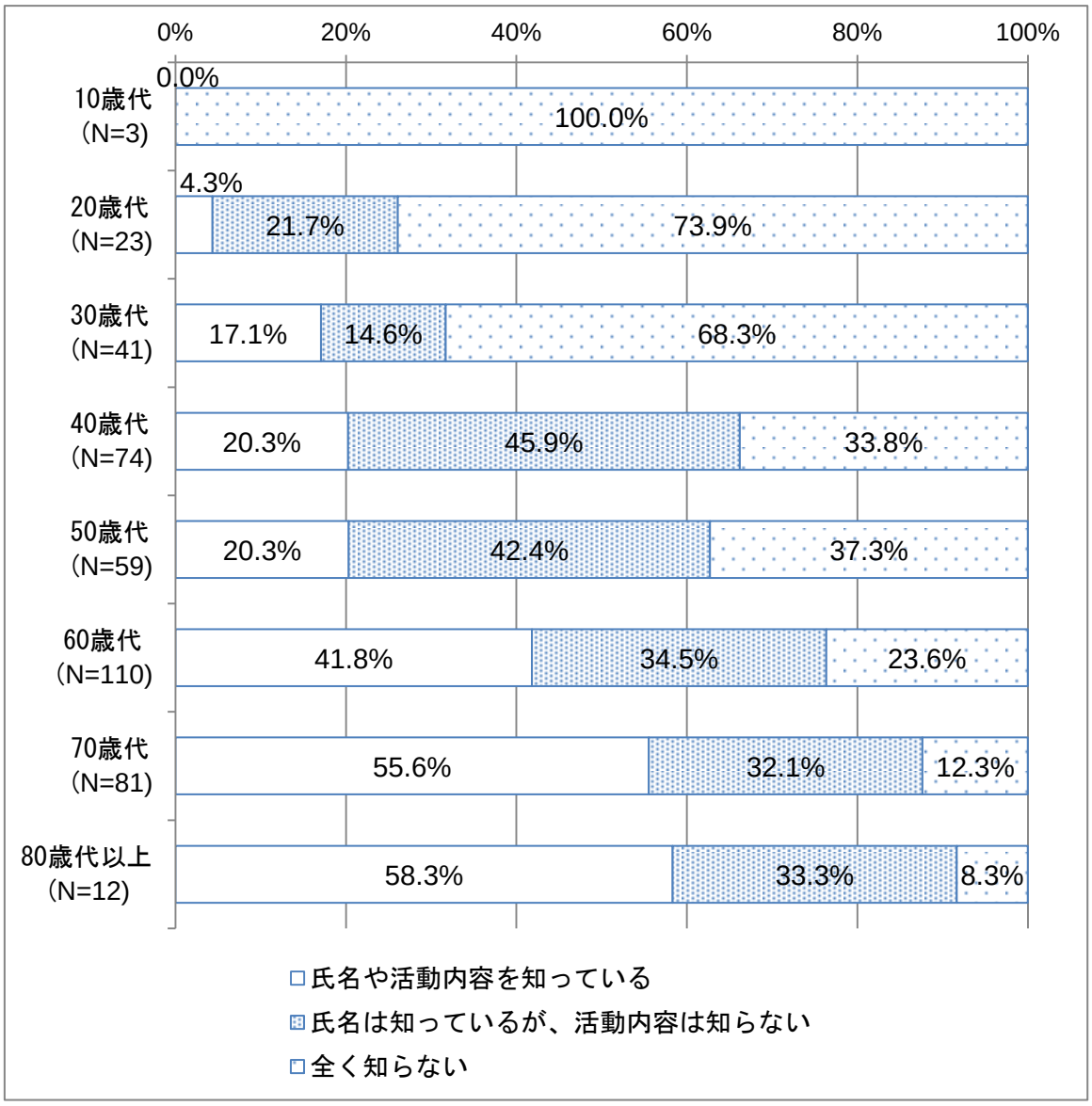
「活動内容を知っている」と回答した割合は 3 割強となっており、活動内容まで十分に周知できていない結果となっています。

特に、若い世代では民生児童委員を知らない割合が高い結果となっています。





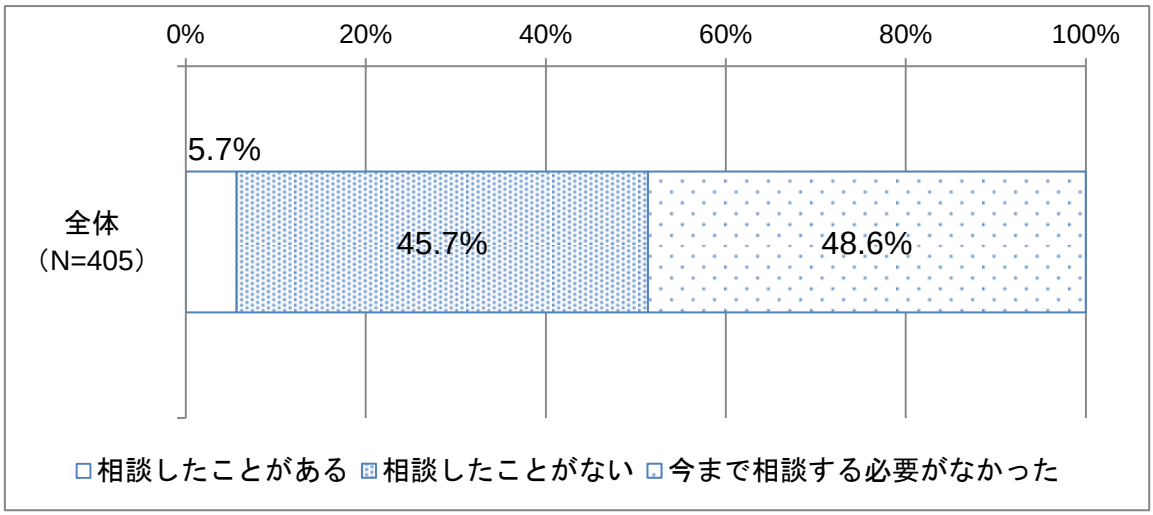

0%
20%
40%
60%
80%
100%
北条地区
(N=194)
29.9%
33.0%
37.1%
大栄地区
(N=205)
36.1%
35.6%
28.3%
氏名や活動内容を知っている
氏名は知っているが、活動内容は知らない
全く知らない

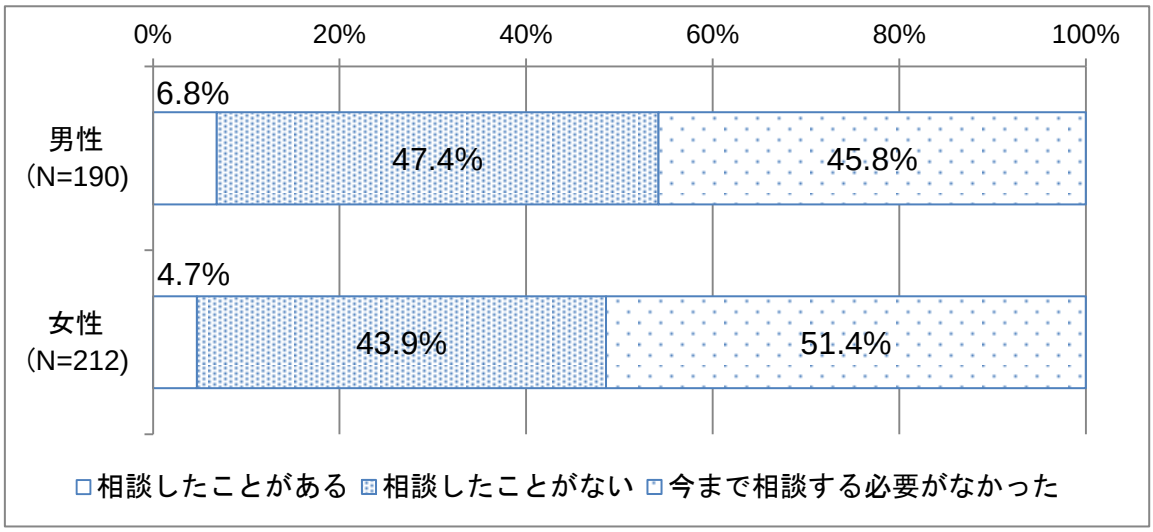

0%
20%
40%
60%
80%
100%
10歳代
(N=3)
0.0%
100.0%
20歳代
(N=23)
4.3%
21.7%
73.9%
30歳代
(N=41)
17.1%
14.6%
68.3%
40歳代
(N=74)
20.3%
45.9%
33.8%
50歳代
(N=59)
20.3%
42.4%
37.3%
60歳代
(N=110)
41.8%
34.5%
23.6%
70歳代
(N=81)
55.6%
32.1%
12.3%
80歳代以上
(N=12)
58.3%
33.3%
8.3%
氏名や活動内容を知っている
氏名は知っているが、活動内容は知らない
全く知らない

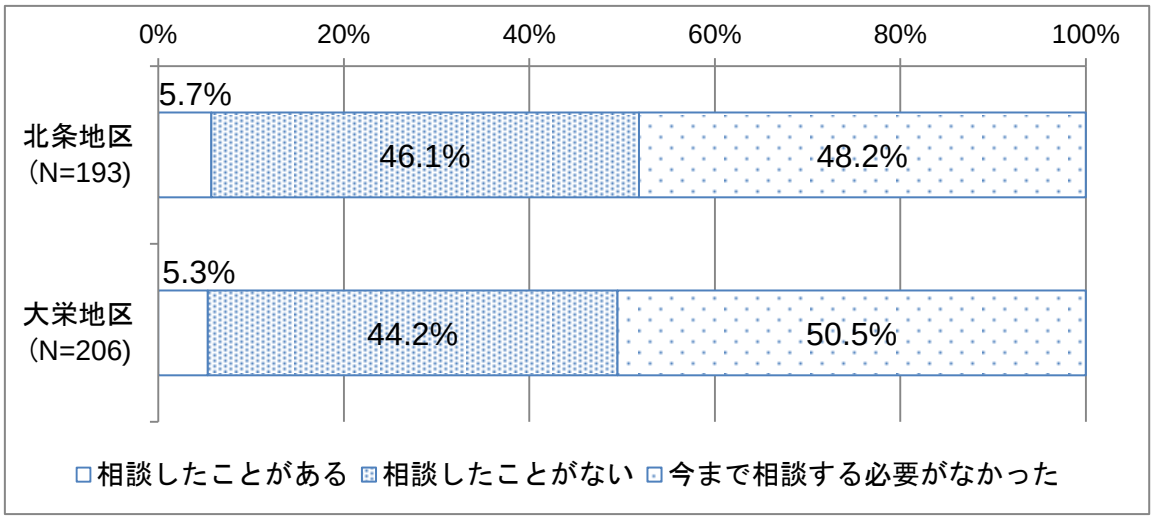
問２４　民生児童委員に相談したことがありますか。

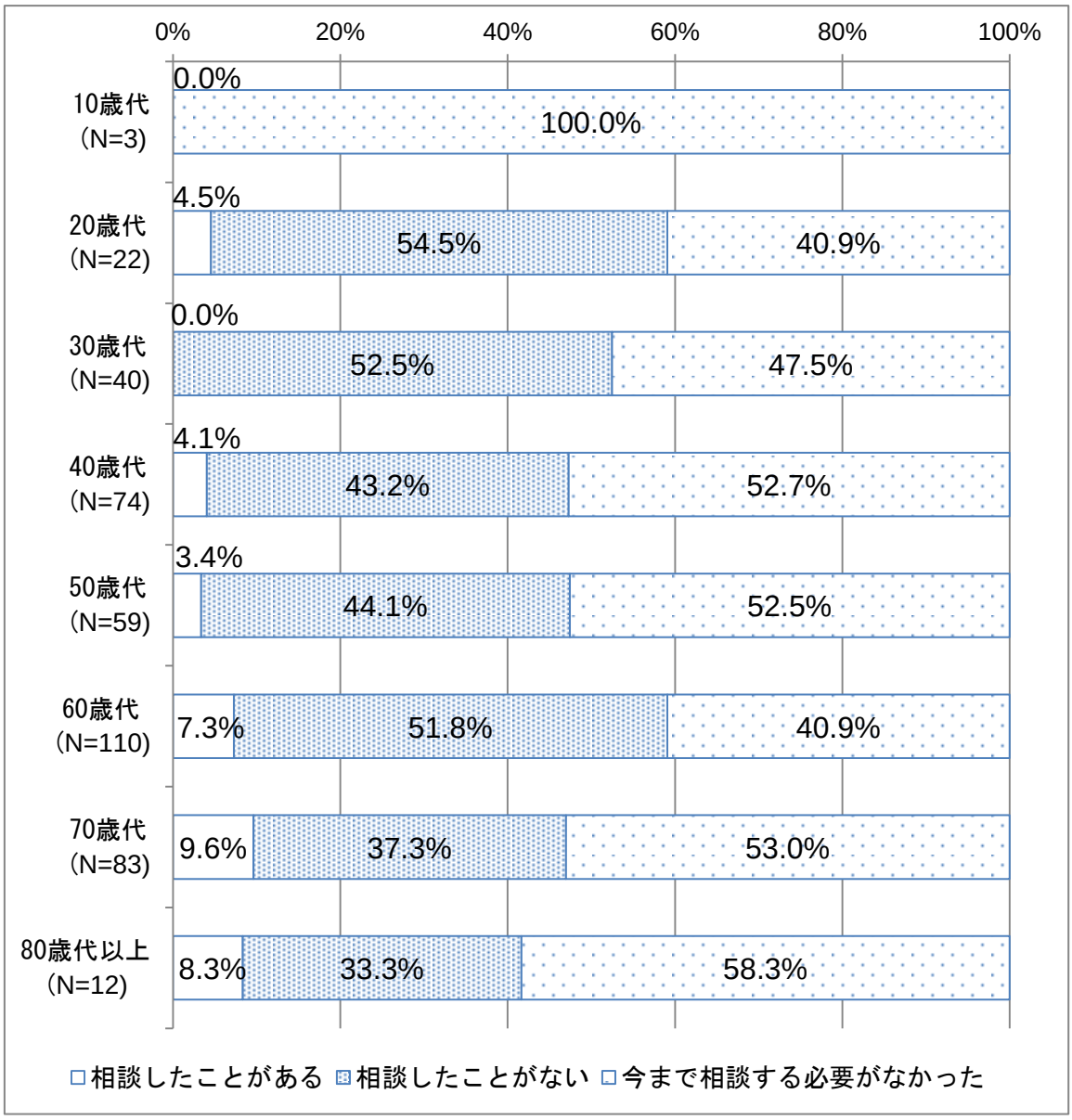
「相談したことがある」と回答した割合はわずか 5.7%となっていますが、一方で「今まで相談する必要がなかった」と回答した割合は 5 割弱であり、相談する機会の有無も前問の「民生児童委員を知っているか」の回答結果にも影響している可能性が考えられます。

相談の必要性の有無にかかわらず、気軽に相談できるよう、地域に民生児童委員の存在や役割を知ってもらう取組みが必要です。





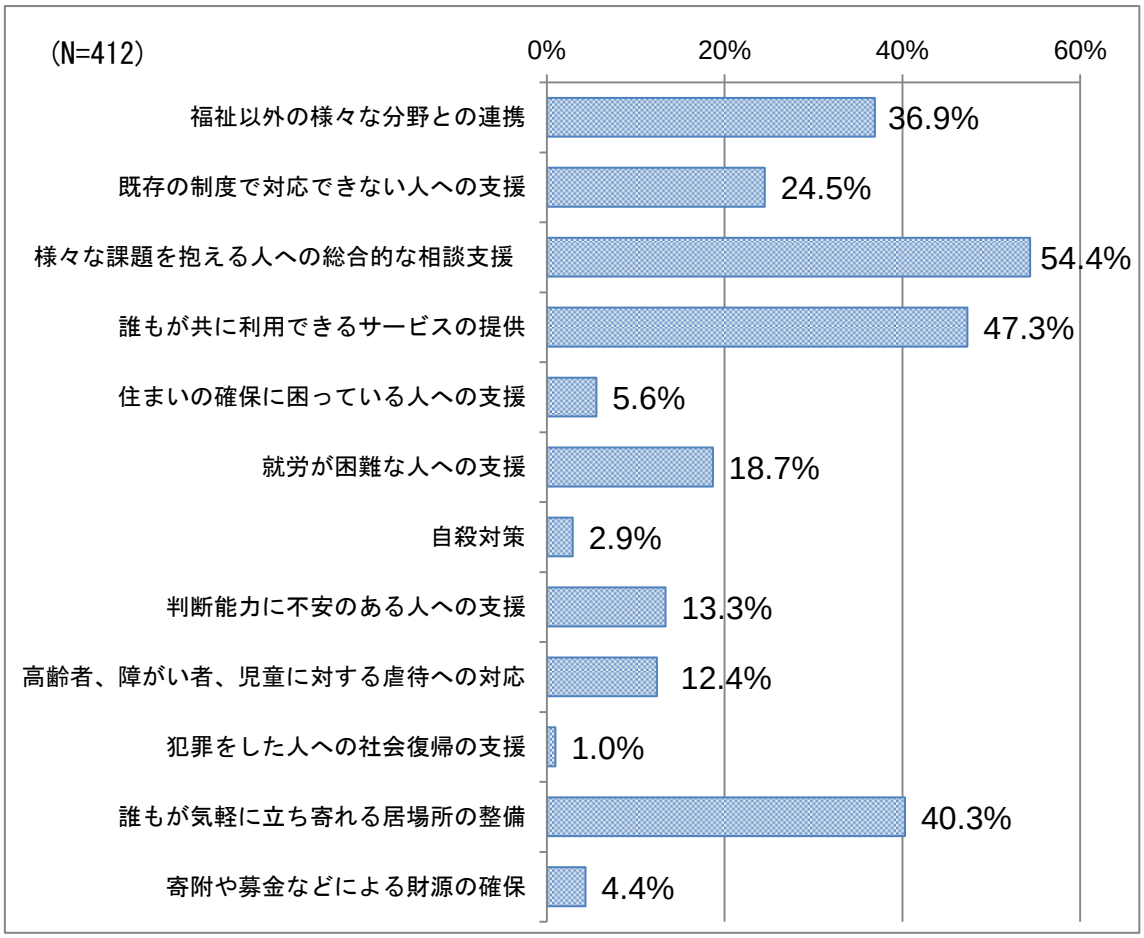

0%
20%
40%
60%
80%
100%
北条地区
(N=193)
5.7%
46.1%
48.2%
大栄地区
(N=206)
5.3%
44.2%
50.5%
相談したことがある
相談したことがない
今まで相談する必要がなかった

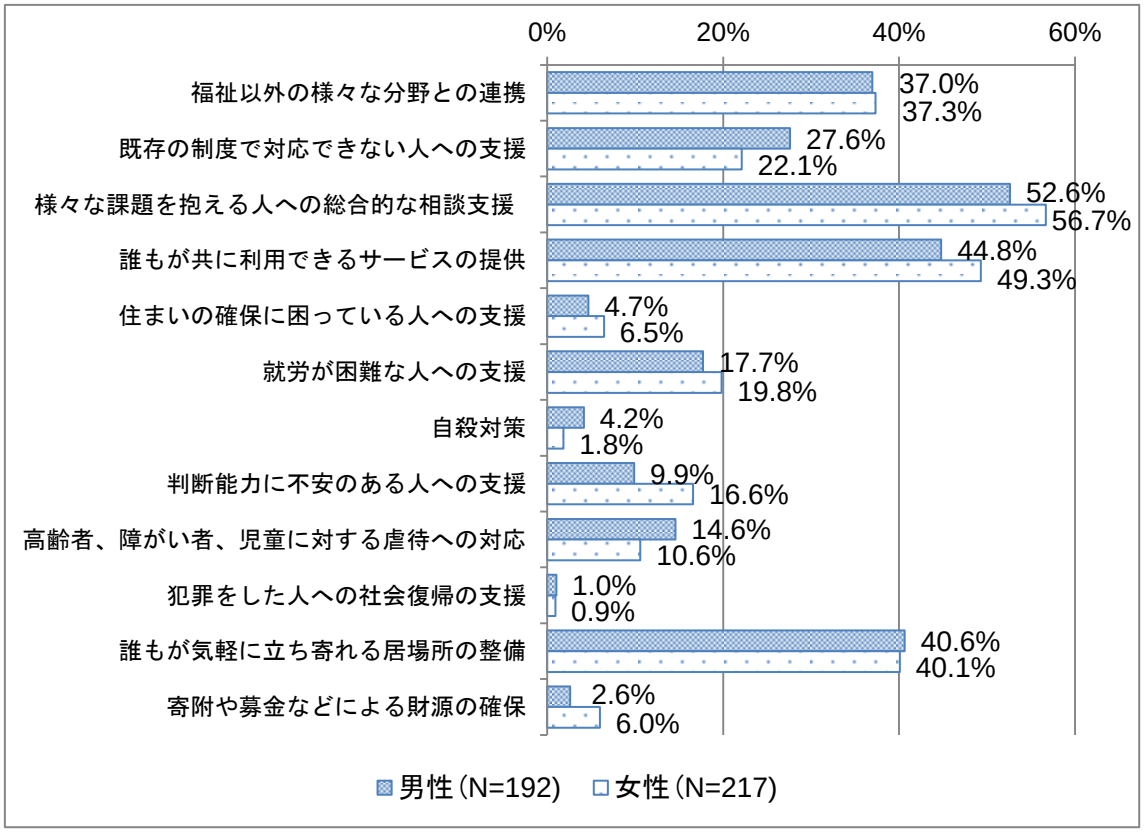

0%
20%
40%
60%
80%
100%
10歳代
(N=3)
0.0%
100.0%
20歳代
(N=22)
4.5%
54.5%
40.9%
30歳代
(N=40)
0.0%
52.5%
47.5%
40歳代
(N=74)
4.1%
43.2%
52.7%
50歳代
(N=59)
3.4%
44.1%
52.5%
60歳代
(N=110)
7.3%
51.8%
40.9%
70歳代
(N=83)
9.6%
37.3%
53.0%
80歳代以上
(N=12)
8.3%
33.3%
58.3%
相談したことがある
相談したことがない
今まで相談する必要がなかった

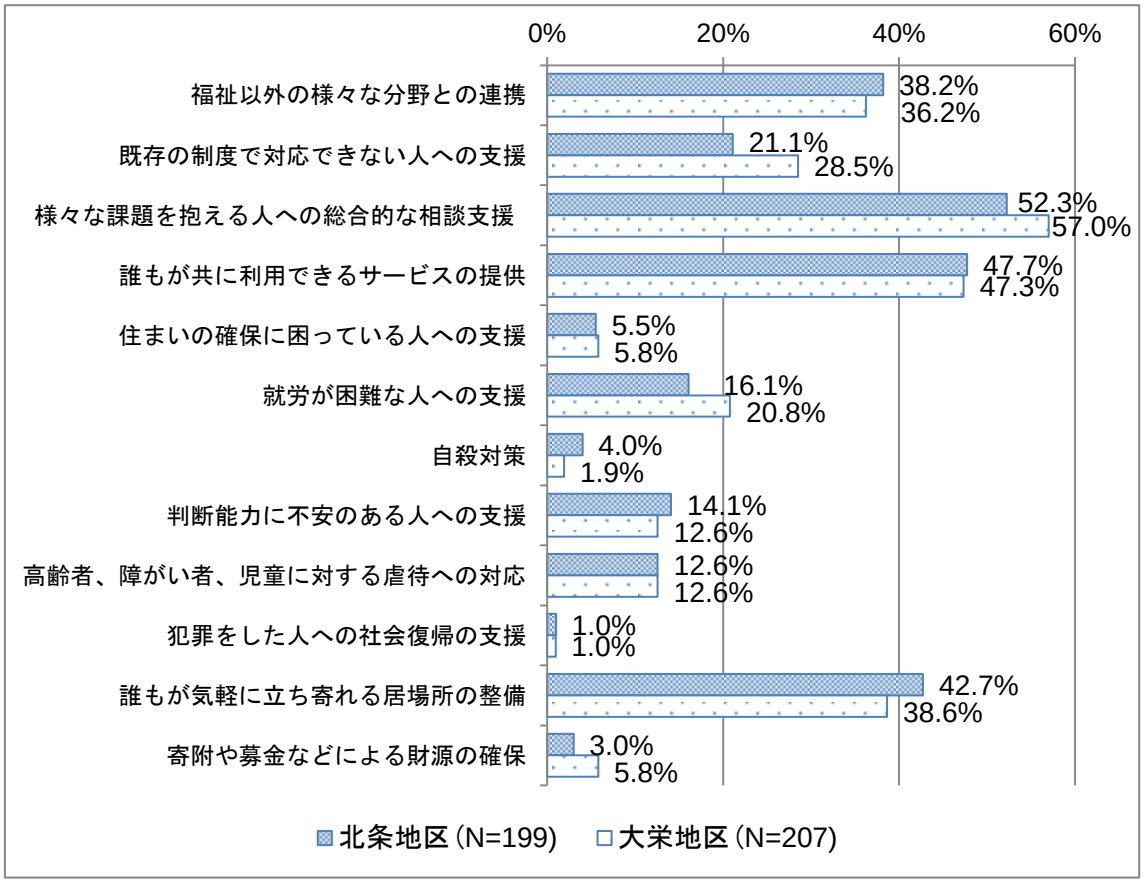
問２５　国は地域福祉推進計画に以下の項目を盛り込むよう定めています。北栄町において特に必要と思う取組みは何ですか。（３つまでお選びください）

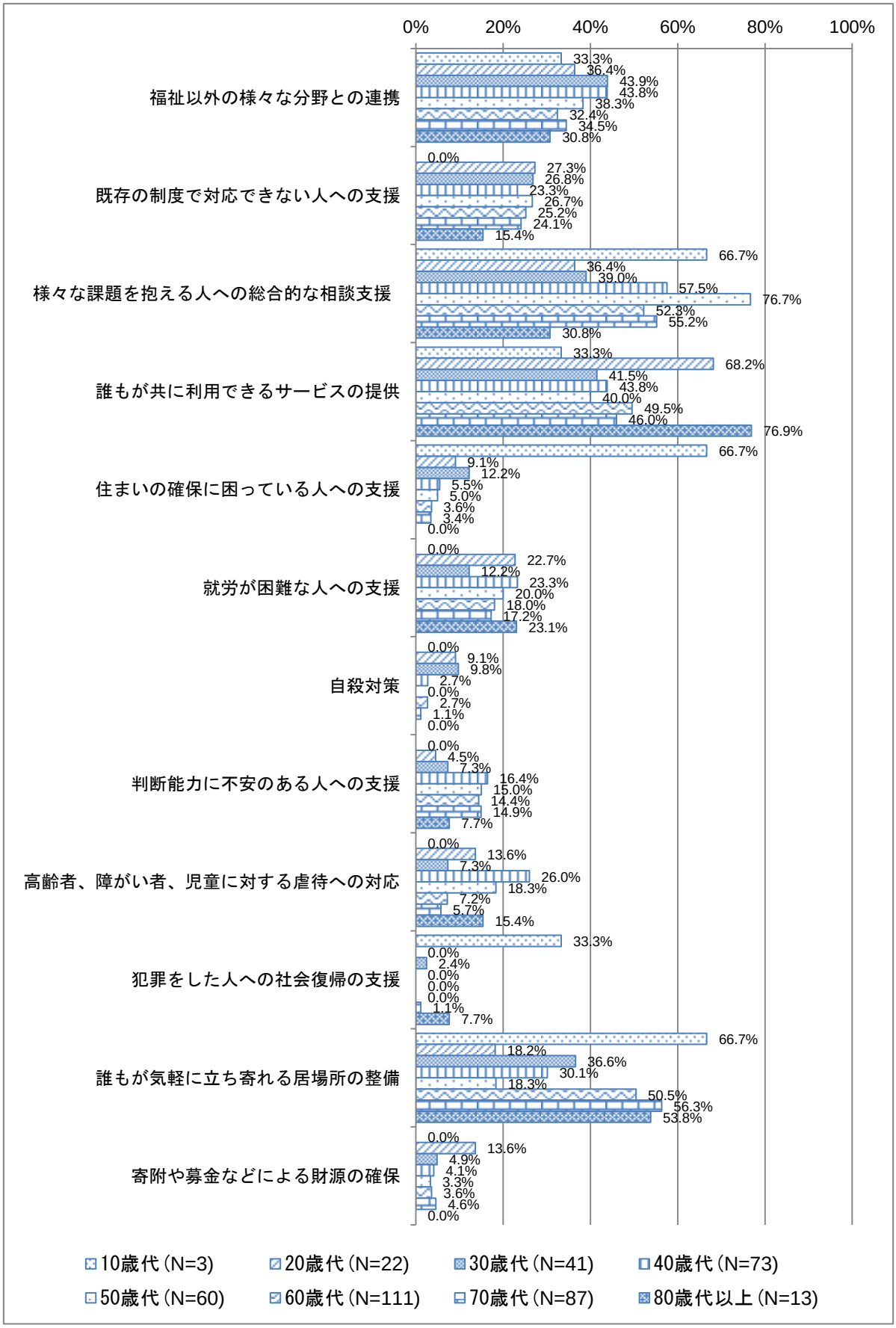
「様々な課題を抱える人への総合的な相談支援」の割合が最も高い結果となっています。ついで、「誰もがともに利用できるサービス提供」、「誰もが気軽に立ち寄れる居場所の整備」、「福祉以外の様々な分野との連携」に続く結果となっています。

これらの結果は、性別、地区別、年代別にみても、ほぼ同じような傾向となっています。




0%
20%
40%
60%
福祉以外の様々な分野との連携
37.0%
37.3%
既存の制度で対応できない人への支援
27.6%
22.1%
様々な課題を抱える人への総合的な相談支援
52.6%
56.7%
誰もが共に利用できるサービスの提供
44.8%
49.3%
住まいの確保に困っている人への支援
4.7%
6.5%
就労が困難な人への支援
17.7%
19.8%
自殺対策
4.2%
1.8%
判断能力に不安のある人への支援
9.9%
16.6%
高齢者、障がい者、児童に対する虐待への対応
14.6%
10.6%
犯罪をした人への社会復帰の支援
1.0%
0.9%
誰もが気軽に立ち寄れる居場所の整備
40.6%
40.1%
寄附や募金などによる財源の確保
2.6%
6.0%
男性（N=192）
女性（N=217）


0%
20%
40%
60%
福祉以外の様々な分野との連携
38.2%
36.2%
既存の制度で対応できない人への支援
21.1%
28.5%
様々な課題を抱える人への総合的な相談支援
52.3%
57.0%
誰もが共に利用できるサービスの提供
47.7%
47.3%
住まいの確保に困っている人への支援
5.5%
5.8%
就労が困難な人への支援
16.1%
20.8%
自殺対策
4.0%
1.9%
判断能力に不安のある人への支援
14.1%
12.6%
高齢者、障がい者、児童に対する虐待への対応
12.6%
12.6%
犯罪をした人への社会復帰の支援
1.0%
1.0%
誰もが気軽に立ち寄れる居場所の整備
42.7%
38.6%
寄附や募金などによる財源の確保
3.0%
5.8%
北条地区（N=199）
大栄地区（N=207）


0%
20%
40%
60%
80%
100%
福祉以外の様々な分野との連携
33.3%
36.4%
43.9%
43.8%
38.3%
32.4%
34.5%
30.8%
既存の制度で対応できない人への支援
0.0%
27.3%
26.8%
23.3%
26.7%
25.2%
24.1%
15.4%
様々な課題を抱える人への総合的な相談支援
66.7%
36.4%
39.0%
57.5%
76.7%
52.3%
55.2%
30.8%
誰もが共に利用できるサービスの提供
33.3%
68.2%
41.5%
43.8%
40.0%
49.5%
46.0%
76.9%
住まいの確保に困っている人への支援
66.7%
9.1%
12.2%
5.5%
5.0%
3.6%
3.4%
0.0%
就労が困難な人への支援
0.0%
22.7%
12.2%
23.3%
20.0%
18.0%
17.2%
23.1%
自殺対策
0.0%
9.1%
9.8%
2.7%
0.0%
2.7%
1.1%
0.0%
判断能力に不安のある人への支援
0.0%
4.5%
7.3%
16.4%
15.0%
14.4%
14.9%
7.7%
高齢者、障がい者、児童に対する虐待への対応
0.0%
13.6%
7.3%
26.0%
18.3%
7.2%
5.7%
15.4%
犯罪をした人への社会復帰の支援
33.3%
0.0%
2.4%
0.0%
0.0%
0.0%
1.1%
7.7%
誰もが気軽に立ち寄れる居場所の整備
66.7%
18.2%
36.6%
30.1%
18.3%
50.5%
56.3%
53.8%
寄附や募金などによる財源の確保
0.0%
13.6%
4.9%
4.1%
3.3%
3.6%
4.6%
0.0%
10歳代（N=3）
20歳代（N=22）
30歳代（N=41）
40歳代（N=73）
50歳代（N=60）
60歳代（N=111）
70歳代（N=87）
80歳代以上（N=13）

問２６　設問以外のことで、地域福祉（＝住民による身近な支え合い）に対するご提案、ご意見がありましたらお書きください。

【自治会活動や公民館に関すること】

・地域福祉を充実させるためには、自治会ごとの活動を社協が指導、支援していく形が望ましい。各自治会に５万/均等割りで配分するなど。

・住民に身近な自治会への支援の拡充が必要。近年自治会に属さない家庭も増えているのでそのような家庭への支援の仕方も考える必要がある。

・自治会や地域行事・活動への参加は、活動に参加協力したいと思っていても、家族、特に配偶者の協力がなければできない。農家では女性も男性並み、それ以上行っている人もあり外に出ることはなかなかのこと。そのような中で、男性、家族が活動やボランティア等の必要性を学ぶことが最初であると思う。

・10 代・20 代の若者が、部落の行事（祭・とんどさん・他）に積極的に参加してほしい。参加しやすい雰囲気が作れたらよいと思う。

・地域福祉を行っていくためには、若年層がいることで成り立つのではないかと思う。現在地区内では高齢化が進みいざという時のパワー不足がある。そのため若年層が北栄町に住みたいと思えることも必要ではないか。

・自治公民館の建物の１階でいきいきサロン等の活動への参加が可能であれば、より多くの参加者が期待できる。①公民館入口のスロープを作る（改修）。②1 階の居室への改修（サロンができる部屋へ）。以上 2 点の改修費用の補助金、助成をお願いしたい。

・地域福祉の拠点として各地区の公民館を使いやすく立ち寄りやすく改修してほしい。身近な拠点からの活動の広がりが良いと思う。

【居場所に関すること】

・現在住んでいる地域社会は、小中学校のＰＴＡ活動、自治会活動が盛んで、高齢者対策の転倒防止体操やいきいきサロンの活動も民生児童委員さん、ボランティアの皆さんで行われており、とてもいい自治体だと満足している。しかし、過疎化と高齢化が進み、時間にゆとりのある高齢者を相手にしてくれる人もなかなかなく、高齢者の居場所のような所が自治体内にあって、好きなときにそこを訪れれば誰かがいて、話し相手になるというようなことになればと思う。

・いつでも立ち寄れる場所を作ってもらいたい。

・近所にも一人暮らしの高齢者が多くなって、話を聞くと「一日中誰とも喋らない日がある」等、かなしい言葉を聞いた。普段からご近所付き合いで顔を見たら声をかけたりすることが大事。

【生活の支援や助け合いに関すること】

・自立した生活をしたいです。足が悪いので遠くに行けない。地域バスの運行があればよい。買い物、病院に自分で行きたい。

・雪かき。雪が降れば道があきません。

・単身者世帯、空き家、高齢者世帯、若者の流出など助け合う人が少なくなる。このミスマッチを打開する方法を教えてほしい。

・身近な支え合いと言われても、できることは多くない。基本親族、親せきが対応すべき。正直責任は持てない。おわされても困る。ちょっとした手助けまでしかできないのが現実。行政が（国も）自治会に求めているが、10 年もすれば自治会の維持も困難になってくると思われる。取捨選択が求められる。なんでも対応できるわけでなく方向性を町に求めるところ。

【個人情報やコミュニケーションに関すること】

・地域福祉の推進を考え、協力しようと考える時、個人情報だからと云って共に力をあわせてと考え実行しようとする時に支障をきたしていると思う。

・課題が人の批判などにならない地域であれば、コミュニケーションも取れるし仲良くもなれるし、協力し支え合うことも自然にできるのであって、制度とは関係がないと考えている。陰口を聞けばおそらく自分も言われていると思うので次は関わりたくない。

・支え合う人と支えられる人とのコミュニケーションの必要性とバランスの良い成り立ちを日常的に地域に取り入れる仕組みがあると良い。

・多様化が進み自己主義的な日本の現状を凝縮した状況が、この地域に発生してもおかしくない世の中になったためではないかと危惧する。挨拶の重要性を願う。

・自分がしてもらうことだけを期待されている方もいるので、「支え合い」という意識を持ってもらいたい。

・人の繋がりの基本は挨拶である。笑顔で挨拶できる環境づくりに先ず人が集う場所が必要。老若男女を問わず常に誰かがいる空間があると良いと思う。図書館では喋る事ができない。コーヒーでも飲みながら語り合い相談したりされたりの施設があればと思う。

・3 年前に引っ越してきた新参者には、古老の地域。この壁は高く、厚い。日常は仕事で、ほぼ地域の人とは関わる機会が無く、人の顔も名前もわからない。しかし、噂話は頻繁に飛び交う地域らしく、正直なところ、関わりを持ちたくない。ヨソ者を受け入れる他人に寛容である地域のあり方を模索するには、行政が関与するところではないのかもしれないが、地域とヨソ者を仲介する役割が多ければ多いほど、地域の活性化につながる気がする。

【高齢者の支援に関すること】

・高齢者を優先にいい街にしたい。あたたかなまちづくりにしたい。

・高齢のため農業ができなくなった方、特に車の運転ができないが畑仕事は十分できる方の支援（自分はしている）が必要

・高齢者は孤独になりがちなので、話し相手や定期的に訪問したり、声掛けしたり、会話の上手な人々の家の訪問が週 1 回でもあればと考える。身内(若い者）は忙しくて高齢者をないがしろにしがち。こけない身体運動は楽しんでおり、良いことだと思う。

・老人クラブが消えつつある。役員の負担が大きく役員のなり手がない。高齢者中心の傾向。居場所なし、ひきこもり、今さら心を開けない。人間単純でない。結論、新たに何かするのではなく、現状をよく分析することで、高齢者の福祉政策の充実を期待。

【子育て支援に関すること】

・里親が子育てしやすいサービスと研修

・保育料 2 人目を無料となれば、少子化を防げると思う。

【障がい者の支援に関すること】

・発達障がいのある方たちへの理解。

・地域が助け合いしなかったら何のための地域。お互い助け合う地域づくりをしたい。Ａ型の仕事の時給を上げてほしい。

【担い手に関すること】

・もっと多く人材を確保した福祉活動が必要。

・今後、地域福祉に携わっていただくためには人材。人としてあの人だったら心を許してお世話になりたい、尊敬できる人材が育っていって欲しい。

・いきいきサロンを行っているが老が老を世話している。社協でも協力指導しているが最近では長く続かない。また、集落で若い人は世話をすることができず仕方なく顔を出す程度となっている。いきいきサロンに出る人の中でお互いで運営できる方法、指導員の協力の仕方等自治会でも話をし、対応する方法を助言してもらいたい。

・支え合いは大事だと思うが、高齢者が増えていく中で共働き、子育て世代が地域の行事に追われてすごく負担に感じることが多い。仕事を休んでほぼ強制的に役員や福祉の活動をするのは若い世帯には無理がある。

・高齢者が元気なのにその力を生かそうとしないかもしれないと心配する。地域は経験のある人を必要としている。若い者はまずＰＴＡやスポーツを通してつながりと経験をつみ、地域をどう作っていくか考えながら自治活動をしていく。それを支えるのが高齢者。私たちを育てるつもりで自治会で今までの知識と経験を生かしてリーダーとなってほしい。

・一世代の家族が多くあり、しかもだんだん高齢化し自治会の運営もむずかしくなって来るのではと危惧している。何かにつけて若い人たちの負担が大きくなる。

【情報に関すること】

・地域福祉は大切だと思うが、自身が多忙で自宅にいるのは夜間位。子供も県外に出ているため地域の情報がほとんど入らないし、わからない。情報収集しやすいサイトがあればありがたい。

・なかなか参画する時間が無いが、ＴＣＣや町報はチェックするように心がけているので、ＴＶや町報で情報提供をしてほしい。

【相談窓口に関すること】

・どこに行けばよいか、どこに窓口があり、誰が相談にのってるのか知ることができるわかりやすい方法があるといいと思う。

・身の回りの様々な困難を誰に相談してよいか迷っている。家人（若い世代）に話すとめんどがられる。会話の中で引き出せれば対応したいと思うが、例えば本人を乗せて車で出かけ事故にあったとかした時、良かれと思ったことが仇になる。そんな時の保険、対応法は。身体的になるとヘルパーとか介護認定が受けれるが、受けれない方の対応をもう少し検討してほしい。（高齢になると子など同居していても頼めない人も多い）

・子供の引きこもりや夫の借金、暴力等で悩んでいるが、どこに相談したらよいか分からない。役場や民生委員さんは知っている人が多かったり親族がいたり、近所の人だったりで相談しづらいという人がいた。北栄町は地域のつながりがあり、町の福祉も充実しており住みやすいと感じていますが、人と人との距離が近いために相談するのを躊躇して抱え込んでしまう人もいるのではないか。役場の方でワンストップで、ある程度のプライバシーを保ちながら何でも相談できる窓口があればと思う。

・困りごと受付（総合・よろず）を設けて法律、行政、福祉、健康など担当部署へ振り分けて答を出して教えてほしい。

・部落内個人個人のトラブル等、どのように対処すればいいのか、どこに相談すればいいのかプライベートな部分があり対処の方法が分からない。

【民生児童委員・愛の輪協力員に関すること】

・民生委員はそれぞれの地区におられるので各家を回ってみるとか、一人暮らしでなくても高齢者だけで日中過ごされている家も多いので、もう少し活動して欲しい。人数が足りないなら、増やしてもいいと思う。

・民生児童委員の方の仕事とかが人によって違います。少しでも困っている人のために定期的に訪ねてあげてほしい。

・愛の輪協力員をしているが、今ひとつどの様な事をやれば良いのか分からない状態。名前ばかりの役では申し訳ない。留守が続いている理由など、なかなか情報の共有ができない状況にある。町内、町外にお住まいのご家族の方にも民生委員及び愛の輪協力員の役割をきちんと説明いただけたらと思う。

【その他】

・既存の制度で対応できない人がどんどん増加している。放っておくと地域の未来はない。20 年先を見すえ（親がなくなっていく）早く対応するべき。行政と医療機関が連携し、訪問する等の対策を実施することは出来ないものか。
・福祉の充実は必要だが福祉は守りの活動、産業・工業の拡大など攻めの施設が不足しているように感じる。大型スーパー（プラント）の出店はどうなっているのか町民への説明が何もない。
・人権学習を充実。特に部落問題学習を忘れてはならない。
・地域はどんどん高齢化し人口が減少する。地域をコンパクトにまとめていくことや、空き家対策など、やることはたくさんあると思う。
・町おこしとしての祭りも良いが、もっと継続的に人を呼び込めるような産業、あるいは商業施設（大型）の誘致により雇用を生み出し財源を生み出す事が出来るのでは。ゆくゆく地域福祉に取り組むための財源の一部になるのではないか。
・米子の湊山公園にある文化センターのような場所があれば良いと思う。
・若いが引きこもったり、何もしていない人が活躍できるような仕組みがあれば良いと思う。安易に生活補助を出すのではなく、体が健康であれば何かできるはず。生活保護を受けている人で、空地を耕している人を見て、なぜこの人が生活保護を受けているのか疑問に思った事がある。本当に保護が必要な人とそうでない人がいるはず。財源を有効活用してほしい。
・自主的に策定し活動するものであるが、まずはモデルケースを作り上げ実践していけば良いと思う。
・各家庭の家周りの美化運動（我が家の近くが不法投棄物）